

第五條 若締盟國中ノ一國ニ於テ本條約ヲ廢棄スルトキハ書面ヲ以テ其ノ旨ヲ和蘭國政府ニ通告シタル後一箇年ヲ經過スルニ非ザレバ廢棄ノ効力ヲ生ズルコトナシ右通告ハ和蘭國政府ヨリ直ニ爾餘ノ締盟國ニ通知ス

右廢棄ノ効力ハ之ヲ通告シタル國ノミニ止ルモノトス

右證據トシテ各全權委員ハ本條約ニ記名調印スルモノナリ

千八百九十九年七月廿九日海牙ニ於テ本書一通ヲ作り之ヲ和蘭

國政府ノ記錄ニ保管シ其ノ認證謄本ヲ外交上ノ手續ニ依リ締盟

國ニ交付スルモノナリ

天佑ヲ保有シ萬世一系ノ帝祚ヲ踐ミタル日本國皇帝(御名)此書ヲ見ル有衆ニ宣示ス

朕明治三十二年七月二十九日和蘭國海牙ニ於テ萬國平和會議ニ贊同

シタル帝國全權委員ト各國全權委員トノ間ニ協議決定シ記名調印シタル陸戰ノ法規慣例ニ關スル條約ノ各條目ヲ親シク閱覽點檢シタルニ善ク朕ガ意ニ適シ間然スル所ナキヲ以テ右條約ヲ嘉納批准ス
神武天皇即位紀元二千五百六十年明治三十三年九月三日東京宮城ニ於テ親ヲ名ヲ署シ璽ヲ鈐セシム

御名 國璽

(外相副署)

條約附屬書

○陸戰ノ法規慣例ニ關スル規則

第一款 交戰者

第一章 交戰者ノ資格

第一條 戰鬪ノ法規及權利義務ハ獨リ之ヲ軍ニ適用スルノミナラズ左記ノ條件ヲ具備スル所ノ民兵及義勇兵團ニモ亦之ヲ適用ス

第一 部下ノ爲ニ責任ヲ負フ者其頭ニアルコト

第二 遠方ヨリ看別シ得ベキ固著徽章ヲ有スルコト

第三 公然武器ヲ携帯スルコト

第四 其ノ動作ニ於テ戦闘ノ法規慣例ヲ遵守スルコト

民兵又ハ義勇兵團ヲ以テ軍ノ全部又ハ一部ヲ組織スル國ニ於テハ之ヲ軍ノ名目中ニ包含ス

第二條 未ダ占領セラレザル地方ノ人民ニシテ敵ノ接近スルニ方

リ第一條ニ遵テ編成スルノ違ナク自然武器ヲ操リテ侵入軍隊ニ

抗敵スル者ニシテ戦闘ノ法規慣例ヲ遵守スル者ハ交戦者ト看做

スベシ

第三條 交戦國ノ兵力ハ戦闘員及非戦闘員ヲ以テ之ヲ編成スルコ

トヲ得敵ニ捕獲セラレタル場合ニハ二者均ク俘虜取扱ヲ受クル

ノ權利ヲ有ス

第二章 俘虜

第四條 俘虜ハ敵國政府ノ權内ニ屬シ之ヲ捕獲シタル個人又ハ軍

團ノ權内ニ屬スルコトナシ

俘虜ハ博愛ノ心ヲ以テ之ヲ取扱フベキモノトス兵器馬匹及軍書

類ヲ除キ凡ソ俘虜ノ一身ニ屬スルモノハ依然其ノ所有タルベシ

第五條 俘虜ハ之ヲ市邑城寨陣營其ノ他ノ場所ニ留置シ一定ノ境

以外ニ出テザル義務ヲ負ハシムルコトヲ得ベシ但シ已ムヲ得ザ

ル保安手段ニ出ヅル場合ノ外之ヲ幽閉スルコトヲ得ズ

第六條 國家ハ俘虜ヲ其ノ階級及ビ技能ニ應ジテ勞務者トシテ使

役スルコトヲ得但シ其ノ勞務ハ過度ナルベカラズ又一切作戰動

作ニ關係ヲ有スベカラズ

俘虜ハ公衙一個人又ハ自己ノ爲ニ勞務スルコトヲ許可セラル、
コトアルベシ

國家ノ爲ニスル勞務ハ内國陸軍軍人ヲ同一勞務ニ使役スル場合
ニ適用スルト同一ノ割合ニテ賃銀ヲ支給スベシ

他ノ公衙又ハ一個人ノ爲ニスル勞務ニ關シテハ陸軍官衙ト協議
ノ上條件ヲ定ムベシ

俘虜ノ賃銀ハ其ノ境遇ノ艱苦ヲ輕減スルノ用ニ供シ餘ハ其ノ開
放ノ時之ヲ交付ス但シ其ノ中ヨリ給養ノ費用ヲ控除スベシ

第七條 政府ハ其ノ權内ニ在ル俘虜ヲ給養スベキ義務アリ
交戰國間ニ特別ノ協定ナキ場合ニハ食料寢具及ビ被服ニ關シ俘
虜ハ之ヲ捕獲シタル政府ノ軍隊ト對等ノ取扱ヲ受クベシ

第八條 俘虜ハ之ヲ權内ニ屬セシメタル國ノ陸軍現行法律規則及

命令ニ服従スベシ

總テ不順從ノ行爲アルトキハ俘虜ニ對シテ必要ナル嚴重手段ヲ
施スコトヲ得

逃走シタル俘虜ニシテ其ノ軍ニ達スル前又ハ之ヲ捕獲シタル軍
ノ占領セル地方ヲ離ル、前ニ再ビ捕ヘラレタル者ハ懲罰ニ付セ
ラルベシ

俘虜逃走ヲ遂ケタル後再ビ俘虜ト爲リタル者ハ前ノ逃走ニ對シ
テハ何等罰ヲ受クルコトナシ

第九條 俘虜其ノ氏名及ビ階級ニ付訊問ヲ受ケタルトキハ實ヲ以
テ答フベキモノトス若之ニ背クトキハ同種ノ俘虜ニ相應スル利
益ヲ減殺セラルルコトアルベシ

第十條 俘虜ハ其ノ本國ノ法律ガ之ヲ許ストキハ宣誓ノ後解放セ

ラル、コトアルハ此ノ場合ニ於テハ本國政府并之ニ捕獲シタル國ノ政府ニ對シ一身ノ名譽ヲ賭シテ誓約ヲ嚴密ニ履行スルノ義務ヲ有ス

前項ノ場合ニ於テ俘虜ノ本國政府ハ之ニ對シ其ノ宣誓ニ違反スル勤務ヲ命ジ又ハ之ニ服セムトノ申出ヲ受諾スベカラザルモノトス

第十一條 俘虜ヲ強迫シテ宣誓解放ヲ受ケシムルコトヲ得ス又敵國政府ハ必ズシモ宣誓解放ヲ得ムトスル俘虜ノ請願ニ應ズルノ義務ナシ

第十二條 宣誓解放ヲ受ケタル俘虜ニシテ其ノ名譽ヲ賭シテ誓約ヲ爲シタル政府又ハ其ノ政府ノ同盟國ニ對シテ兵器ヲ操リ再ヒ捕ヘラレタル者ハ俘虜ノ取扱ヲ受クルノ權利ヲ失ヒ軍法會議ニ

付セララル、コトアルベシ

第十三條 新聞通信員及探訪者酒保用達人等ノ如キ直接ニ軍ノ一部ヲ爲ササル從軍者ニシテ敵ノ權内ニ陷ル所ト爲リ敵ニ於テ之ヲ抑留スルヲ有益ナリト認ムルトキハ其ノ所屬陸軍官衙ノ證認狀ヲ携帯スル者ニ限り俘虜ノ取扱ヲ受クルノ權利ヲ有ス

第十四條 戰鬪開始ノ時ヨリ各交戰國及場合ニ依リテハ交戰者ヲ版圖内ニ收容スル中立國ニモ俘虜情報局ヲ設置ス該局ハ俘虜ニ關スル一切ノ問合ニ答フルノ任務ヲ有シ各俘虜ニ關スル銘々票ヲ作ル爲各當該官衙ヨリ總テ必要ナル通報ヲ受領ス俘虜ノ留置移動入院并死亡ニ關スル現況ハ該局ヲシテ之ヲ知悉セシム情報局ハ尙戰場ニ於テ發見セラレ又ハ病院若ハ繃帶所ニ於テ死亡セシ俘虜ノ遺シタル一切ノ自用品有價證券書狀等ヲ收集シテ

之ヲ其ノ關係者ニ傳送スルコトヲ擔任ス

第十五條 慈善行爲ノ媒介者タル目的ヲ以テ其ノ國ノ法律ニ從ヒ
 正當ニ組織セラレタル俘虜救恤協會及其ノ正當ノ委任ヲ受ケタ
 ル代理者ハ其博愛ナル業務ヲ有効ニ遂行セムカ爲軍事上ノ必要
 及ビ行政上ノ規則ニ依リテ定メタル範圍内ニ於テ交戰國ヨリ一
 切ノ便宜ヲ受クルコトヲ得ベシ右協會派出員ハ陸軍官衙ヨリ當
 人へ交付シタル免許狀ニ據リ且該官衙ノ定メタル一切ノ秩序及
 ビ風紀維持ニ關スル法則ニ服從スベキ旨書面ヲ以テ約スルトキ
 ハ俘虜ノ留置所及ビ其ノ送還途中ノ休泊所ニ於テ救恤品ヲ分配
 スルコトヲ諾サルヘシ

第十六條 情報局ハ郵稅免除ノ特典ヲ享有ス凡ソ俘虜ニ宛テ又ハ
 俘虜ヨリ發送スル書狀郵便爲替有價物并小包郵便物ハ發受ノ兩

國并通過國ニ於テ總テ郵稅ヲ免除セララルベシ

俘虜ニ宛テタル贈與及ビ救恤ノ現品ハ輸入稅其ノ他ノ諸稅及國
有鐵道ノ運賃ヲ免除セララルベシ

第十七條 俘虜將校ハ本國ノ規則ニ其ノ規定アルトキハ俘虜ノ地
 位ニ在リテ給與セラルベキ給料ヲ受クルコトヲ得但シ右ハ其ノ
 本國政府ヨリ償還スベキモノトス

第十八條 俘虜ハ陸軍官衙ノ定メタル秩序及風紀維持ニ關スルノ
 法則ニ服從スルノ範圍内ニ於テ宗教ヲ遵行スルノ自由ヲ許サレ
 且其ノ宗門ノ禮拜式ニモ亦參與スルコトヲ許サルベシ

第十九條 俘虜ノ遺言書ハ內國陸軍々人ト同一ノ條件ヲ以テ之ヲ
 收領シ又ハ調製ス

俘虜ノ死亡證書及埋葬ニ關シテモ亦同一ノ規則ニ遵ヒ且其ノ身

分階級ニ相當シタル取扱ヲ爲スベシ

第二十條 和約締結ノ上ハ成ルベク速カニ俘虜ヲ其ノ本國ニ送還スヘシ

第三章 病者負傷者

第二十一條 病者及傷者ノ取扱ニ關スル交戦者ノ義務ハ千八百六十四年八月二十二日「ジエチザ」條約及將來之ニ加フルコトアルヘキ修正ニ據ル

第二款 戰鬪

第一章 害敵手段攻圍及砲撃

第二十二條 交戦者ハ害敵手段ノ選擇上無限ノ權利ヲ有スルコトナシ

第二十三條 特別ノ條約ヲ以テ定メタル禁止ノ外特ニ禁止スルモ

ノ左ノ如シ

(イ) 毒又ハ毒ヲ施シタル兵器ヲ使用スルコト

(ロ) 敵ノ國民又ハ軍ニ屬スル者ヲ欺罔ノ行爲ヲ以テ殺傷スルコト

(ハ) 兵器ヲ捨テ又ハ自衛ノ手段盡キテ降ヲ乞ヘル敵兵ヲ殺傷スルコト

(ニ) 助命セサルノ宣言ヲ爲スコト

(ホ) 無益ノ苦痛ヲ與フベキ兵器彈丸其ノ他ノ物質ヲ使用スルコト

(ヘ) 濫ニ軍使旗及國旗其ノ他軍用標章并敵兵ノ制服及「ジエチザ」條約ノ徽章ヲ使用スルコト

(ト) 戰爭ノ必要上萬已ムヲ得ザルノ外敵ノ財産ヲ破壊シ又ハ押

收スルコト

第二十四條 奇計并敵情地形探知ノ爲メ必要ナル手段ノ行使ハ適法ト看做ス

第二十五條 防守セザル市府町村落居宅又ハ建物ヲ攻撃又ハ砲撃スルヲ禁ズ

第二十六條 攻撃軍隊ノ指揮官ハ強襲ノ場合ノ外砲撃ヲ始ムル前ニ其ノ旨ヲ官廳ニ通告スル爲メ凡ソ其ノ權内ニ屬スル總テノ手段ヲ盡スベキモノトス

第二十七條 攻圍及ビ砲撃ニ於テハ宗教技藝學術及ビ慈善ノ爲メ設ケラレタル建物病院并病者傷者ノ收容所ハ其ノ現ニ軍事上ノ目的ニ供セラレザルニ於テハ成ルベク之ニ害ヲ加ヘザル爲メ必要ノ手段ヲ施スベシ

被圍者ハ豫メ攻圍者ニ通知シタル看易キ特別ノ徽章ヲ以テ此等ノ建物又收容所ヲ表示スルノ義務アリ

第二十八條 突撃ヲ以テ攻拔シタル市府又ハ其ノ他ノ地域ト雖モ掠奪を行フコトヲ禁ズ

第二章 間諜

第二十九條 一方ノ交戦者ニ通知スルノ意思ヲ以テ他ノ一方ノ作戦地帯内ニ於テ隱密ニ行動シ又ハ虚妄ノ口實ヲ構ヘテ各種ノ情報ヲ收集シ若ハ收集セムトスル者ノ外之ヲ間諜ト看做スコトヲ得ズ

故ニ假扮セザル軍人ニシテ情報ヲ收集セムガ爲敵軍ノ作戦地帯内ニ進入シタル者ハ之ヲ間諜ト看做サズ軍人タルト否トヲ問ハズ自國ノ軍又ハ敵國ノ軍ニ宛テタル信書ヲ傳達スルノ任務ヲ公

然執行スル者モ亦之ヲ間牒ト看做サズ信書ヲ傳道スル爲及ビ總
テ一軍又ハ一地方ノ各部門ノ聯絡ヲ通ズル爲輕氣球ニテ派遣セ
ラタル者モ均ク此ノ部類ニ屬スルモノトス

第三十條 現行中捕ヘラレタル間牒ハ先ヅ裁判ニ付シタル上ニ非
ザレバ之ヲ罰スルコトヲ得ズ

第三十一條 一旦所屬軍ニ復歸シタル後ニ至リ敵ノ爲ニ捕ヘラレ
タル間牒ハ間牒トシテ取扱ハルベク其ノ前ノ間牒行爲ニ對シテ
ハ何等ノ責ヲ負フコトナシ

第三章 軍使

第三十二條 交戦者ノ一方ノ命ヲ帶ビ他ノ一方ト談判ヲ開ク爲白
旗ヲ掲ゲテ來ル者ハ之ヲ軍使トス軍使并之ニ隨從スルコトアル
ベキ剛叭手鼓手旗手及通譯者ハ不可侵權ヲ有ス

第三十三條 軍使ヲ差向ケラレタル軍隊ノ司令官必ズシモ之ヲ受
クルノ義務ナキモノトス

司令官ハ軍使ガ其ノ使命ヲ利用シテ軍情ヲ探知スルヲ防クニ必
要ナル一切ノ手段ヲ施スコトヲ得

司令官ハ軍使ガ其ノ特權ヲ濫用シタル場合ニハ一時之ヲ抑留ス
ルノ權利ヲ有ス

第三十四條 軍使特權ヲ利用シテ欺罔ノ行爲ヲ爲シ又ハ之ヲ教唆
シタルノ證據分明掩フベカラザルトキハ其ノ不可侵權ヲ失フ

第四章 降伏規約

第三十五條 雙方ノ間ニ協定スル降伏規約ニハ軍人ノ名譽ニ關ス
ル慣例ヲ參酌スベキモノトス

降伏規約確定ノ上ハ雙方ニ於テ嚴密ニ之ヲ遵守スベキモノトス

第五章 休戰

第三十六條 休戰ハ交戰者雙方ノ合意ヲ以テ作戰動作ヲ中止ス若
其ノ期限ノ定メナキトキハ交戰者ハ何時ニテモ再ビ之ヲ開始ス
ルコトヲ得但シ休戰ノ條件ニ遵依シ約定ノ時期ニ於テ其ノ旨ヲ
敵ニ通告スベキモノトス

第三十七條 休戰ハ全部ニ亘リ又ハ一局部ニ限ルコトヲ得其ノ全
部ニ亘ルモノハ普ク交戰國間ノ作戰動作ヲ中止シ其ノ一局部ニ
限ルモノハ單ニ特定ノ地域内ニ於テ交戰軍ノ或ル一部間ニ之ヲ
中止スルモノトス

第三十八條 休戰ハ時機ヲ失ハズ之ヲ關係官衙及軍隊ニ公然通告
スベシ通告ノ後即時ニ又ハ約定ノ時期ニ至リ戰鬪ヲ中止ス

第三十九條 戰時ニ於テ交戰者ト人民トノ間及交戰者相互間ニ爲

シ得ベキ交通ハ規約者ニ於テ休戰規約ノ條項ヲ以テ規定スル者
トス

第四十條 休戰規約者ノ一方ニ於テ容易ナラザル規約違反アルト
キハ他ノ一方ハ規約廢棄ノ權利アルノミナラズ緊急ノ場合ニ於
テハ直ニ戰鬪ヲ開始スルコトヲ得

第四十一條 個人ガ自己ノ發意ヲ以テ休戰規約ノ條款ニ違反シタ
ルトキハ唯其ノ違反者ノ處罰ヲ要求シ若損害ヲ受ケタルトキハ
其ノ賠償ヲ要求スルノ權利ヲ生ズルニ止ルベシ

第三款 敵國ノ版圖内ニ於ケル軍衙ノ權力

第四十二條 一地方ニシテ事實上敵軍ノ權力内ニ歸シタルトキハ
之ヲ占領セラレタルモノト看做ス

占領ハ右權力ノ成立シテ且行使セラルベキ地域ヲ以テ限トス

第四十三條 正當ノ權力事實上占領者ノ手ニ移リタル以上ハ占領
ハ萬已ムヲ得ザル場合ノ外占領地ノ現行法律ヲ尊重シテ成ルベ
ク公ノ秩序及ヒ衆庶ノ生活ヲ回復保障スルノ目的ヲ以テ其ノ權
内ニ屬スル總テノ手段ヲ施スベシ

第四十四條 占領地ノ人民ヲ強迫シテ其ノ本國ニ敵對スベキ作戰
動作ニ加ハラシムルコトヲ禁ズ

第四十五條 占領地ノ人民ヲ強迫シテ其ノ敵國ニ臣從ノ誓ヲ爲サ
シムルコトヲ禁ズ

第四十六條 家族ノ名譽及ヒ權利個人ノ生命及ヒ私有ノ財産并宗
教ノ信仰及ヒ其ノ遵行ハ之ヲ尊重セザルベカラズ
私有財産ハ之ヲ沒收スルコトヲ得ズ

第四十七條 掠奪ハ之ヲ嚴禁ス

第四十八條 占領者若クハ占領地内ニ於テ從來國家ノ爲ニ設ケタル租
稅賦課金及通行稅ヲ徵收スルトキハ成ルベク現行ノ賦課規則ニ
依テ之ヲ徵收スベシ此ノ場合ニ於テハ占領者ハ占領地行政ノ費
用ヲ支辨スルコト一ニ正當政府ガ支辨セシ所ト同様ノ程度ニ於
テスルノ義務アルモノトス

第四十九條 占領者若クハ占領地ニ於テ前條ニ掲ゲタル租稅ノ外他ノ
取立金ヲ命ズル場合ニハ軍又ハ占領地行政上ノ需要ニ應ズルノ
外之ヲ爲スコトヲ得ズ

第五十條 人民ニ對シ其ノ聯帶ノ責アリト認ムベカラザル一個人
ノ行爲ノ爲金錢其ノ他ノ連坐罰ヲ科スベカラズ

第五十一條 凡ソ取立金ハ高級司令官ノ責任ノ下ニ命令書ヲ以テ
スルノ外之ヲ徵收スルコトヲ得ズ

右取立金ハ成ルベク現行ノ租稅賦課規則ニ據ルニ非ザレバ之ヲ徵收スベカラズ

凡ソ取立金ニ對シテハ其ノ納付者ニ領收證ヲ交付スベシ

第五十二條 現品ノ徵發及課役ハ占領軍需要ノ爲ニスルニ非ザレバ市町村又ハ住民ニ對シテ之ヲ要求スルコトヲ得ズ徵發ハ其ノ地方ノ資力ニ相應シ且人民ヲシテ其ノ本國ニ敵對スル作戰動作ニ與ルノ義務ヲ負ハシメザル性質ノモノタルコトヲ要ス
右徵發及課役ハ占領シタル一局地ニ於ケル司令官ノ許可アルニ非ザレバ之ヲ要求スルコトヲ得ズ

現品ノ供給ハ成ルベク即金ニテ之ヲ支拂フベク否ラザレバ領收證ヲ與ヘテ之ヲ證明スベシ

第五十三條 一地方ヲ占領シタル軍ハ本來國有ニ屬スル現金基金

有價證券兵器廠輸送材料倉庫糧秣其ノ他總テ作戰動作ニ供スルコトヲ得ベキ國有動産ノ外之ヲ押收スルコトヲ得ズ

鐵道材料陸上電信電話海上法ノ規定外ニ在ル汽船其ノ他ノ船舶兵器廠其ノ他一切ノ軍需品ハ會社若ハ個人ニ屬スルモノタリトモ均ク作戰動作ニ供スベキ性質ヲ有スルモノニ屬ス然レドモ平和回復ノ際ニハ之ヲ返還シ及之ガ補償ヲ爲スベキモノトス

第五十四條 中立國ヨリ來レル鐵道材料ハ該國ノ國有タルト會社又ハ個人ノ所有タルトヲ問ハズ成ルベク速ニ之ヲ還送スベシ

第五十五條 占領者タル國ハ敵國ノ國有ニ屬シ其ノ占領地内ニ存在スル公有ノ建物不動産森林及ヒ農作地ノ管理者タリ且其ノ用益權者タルニ過ギザルモノト心得此等財産ノ基本ヲ保護シ用益權ノ規則ニ依リテ之ヲ管理セザルベカラズ

第五十六條 市町村ノ財産并宗教慈善教育技藝及學術ノ爲メ設ケラレタル營造物所屬ノ財産ハ國有ニ屬スルモノト雖私有財産同様にテ取扱フベシ
 總テ這般ノ營造物歴史上ノ紀念建造物技藝及學術上ノ製作品ヲ故意ニ押收シ破壊シ又ハ毀損スルコトヲ禁ズ犯ス者ハ之ヲ訴追スベキモノトス

第四款 中立國內ニ留置スル交戦者及ヒ救護スル傷者

第五十七條 交戦軍ニ屬スル軍隊ヲ其ノ版圖内ニ收容シタル中立國ハ成ルベク之ヲ戰場ヨリ遠隔シタル地ニ留置スベシ
 中立國ハ此等軍隊ヲ陣營内ニ監守シ又ハ城寨若ハ特ニ之ガ爲ニ設備シタル場處ニ幽閉スルコトヲ得ベシ
 將校ヲシテ許可ナクシテ中立國ノ版圖以外ニ出デザル旨ヲ宣誓

セシメ以テ解放スルト否トハ中立國ノ決スル所トス

第五十八條 特別ノ條約ナキトキハ中立國ハ其ノ留置シタル人員ニ食料被服ヲ給與シ人情ニ訴ヘテ必要ト認ムル救助ヲ與フベシ
 留置ノ爲ニ生シタル費用ハ平和回復ノ上償却セラレベシ

第五十九條 中立國ハ交戦軍ニ屬スル傷者及病者ガ其ノ版圖内ヲ通過スルヲ許スコトヲ得ベシ但之ヲ輸送スル列車ニハ戰鬥ノ人員及材料ヲ搭載セザルヲ條件トスベシ斯ノ如キ場合ニ於テハ中立國ハ之ガ爲ニ必要ナル保定及監警ノ處置ヲ施スベキモノトス
 前記ノ條件ニ依リテ甲交戦國ガ乙交戦國ニ屬スル傷者及病者ヲ中立國ノ版圖内ニ伴ヒ來ルトキハ中立國ハ之ヲ監守シテ再ヒ作戰動作ニ與ルコト能ハザラシムベシ甲交戦國ヨリ依頼ヲ受ケタル傷者及病者ニ對シテモ亦同一ノ義務ヲ有スベシ

第六十條 シエチヴァ條約ハ中立國ノ版圖内ニ留置シタル病者及
傷者ニモ亦之ヲ適用ス (完)

○海戰ニ於ケル交戰國ノ權利義務
○封港ノ性質

封港ノ法律上ノ質性ニ關シテハ二個ノ學說アリ第一說ニ曰ク封港ハ
或港灣又ハ海岸ニ接近スル海面ノ一部ヲ艦隊ニ依リテ掠奪シタルモ
ノニシテ占領ノ一種タルニ外ナラスト云ヘリ第二說ハ曰ク交戰國ハ
戰爭行爲ノ利益ヲ圖ランカ爲ニ敵國ノ港灣城塞海岸ノ一部ニ通商ヲ
遮斷スルノ權利ナリ云々此權利ハ古代ヨリ實行セラレ且國際公法ニ
承認セラレタル所ナリト雖此權利ノ基本如何ニ關シテ種々ノ說ア
リオートフイエ等ハ封港ヲ以テ交戰國カ敵國海岸ノ水上ニ行フ主權
ナリト説明スト雖トモ封港ノ權利ハ自由海上ニ及フモノナレハ封港

ハ自由海上ニ及フ能ハストノ說ト抵觸スヘシ何トナレハ自由海ニハ
主權ノ及フ能ハサルモノナレハナリ封港ノ基本ハ主權ニ非ラスシテ
戰爭ノ必要權ヨリ出テタル者ナリ封港ハ局外中立國ノ利益ヲ害スル
コト甚タ多キモノナリト雖局外中立國ハ封港ヲ以テ戰爭ノ避クヘ
カラサル効果トシテ之ニ從ハサルヘカラス尙封港カ占領ニ非ラサル
ヲ證明センニ交戰國カ外國ノ占領地ノ上ニ行政ヲ爲スノ權アリト雖
此封港ヲナシタル國ハ只交通ヲ遮斷スルヲ得ルニ止マリ封港シタル
部分ノ上ニ行政ヲ行フコト能ハス是レ二者ノ間ニ於ケル區別アル所
ナリ要スルニ封港トハ之ニ依リテ交戰國一方ノ封港地陸上ノ封鎖ハ
之ヲ合圍ト云ヒ海上ノ封鎖ハ之ヲ封港ト云フト他地トノ交通ヲ絶チ
テ以テ交戰國他方ノ交戰行爲ヲ弱メントスルノ方法ニ外ナラス
封港ノ及フ所ヲ敵國ノ海岸港灣及ヒ河口ノ三個トスルケツシーバリ

一ノ如ク封港ハ只一定ノ海岸ニ限り之ヲ爲ス可キモノナリト唱フル
 モノアリト雖モ封港ノ性質ハ決シテ或場所ヲ掠奪スルノ方法ニ非ラ
 スシテ寧ロ敵國ノ抵抗ヲ破ランカ爲メニ交通ヲ遮斷スルヲ目的トス
 ル者ナルカ故ニ敢テ之ヲ一定ノ海岸ニ限ルト爲スノ要ナシ
 敵國以外ノ地 第三國ハ交戰國ト同盟シ又ハ交戰國ニ援助ヲ與ヘサ
 ル限リハ交戰國ニ關係ヲ有セサルモノナルカ故ニ交戰國ハ決シテ之
 ニ危害ヲ加フ可カラス第三國カ交戰國ニ對シテ有スル權利ナルカ故
 ニ交戰國カ第三國ノ領域内ニ封港ヲ爲スヲ得ヘカラスルコト明ラカ
 ナリ國際河流及ヒ永久局外中立地亦然リ敵國ノ領域ト雖モ若シ交戰
 國双方ノ合意ニ依リテ局外中立トナシタル時ハ之ニ封港ヲ施スルコ
 トヲ得ス封港ヲ爲シ得ヘキ場所ト然ラサル場所トハ以上ノ如シト雖
 モ若シ封港ヲ爲サント欲セハ漠然タル範圍ヲ以テ封港トナス可カラ

ス例ヘハ某港某灣某府ノ何レヲ封港スルト云フモ曖昧ニシテ封港ノ
 權利義務ノ及フヘキ範圍不明ナルカ故ニ能ク經緯度又ハ人ノ五官ヲ
 以テ測知シ得ヘキ範圍ヲ明示セサル可カラス然ラサレハ封港ヲ破リ
 タル場合ニ於テ徒ラニ紛議ヲ生シテ底止スル所ナカルヘシ

第一 封港ヲ定ムル者ハ交戰國ノ最高權力者以外ノ者タルヘカラス
 封港ハ交戰國ノ行爲ナリ然ラハ國家ニ非ラサレハ封港ヲナス能ハサ
 ルコト亦明ナリ

第二 敵國海岸ノ通路ヲ事實上遮斷スルニ非ラサレハ之ヲ封港ト稱
 スヘカラス即チ封港ニハ實力ノ伴ハサルヘカラスサルモノナルヲ以テ
 單ニ封港ノ告知ヲ爲スモ實際封港ニ必要ナル行爲ヲ行フコトナ
 ハ之ヲ真正ノ封港ト稱スヘカラス

第三 封港ニハ告知ヲ要ス告知ニ二アリ一チ一般ノ告知ト稱シ敵國

海岸ノ何處ノ土地及ヒ何程ノ範圍ヲ封港シタルコトヲ局外中立國ニ通知スルモノナリ一ヲ特別ノ告知ト稱シ封港地附近ニ在リテ封港ノ存在ヲ知ラサル船長ニ報知スルモノナリ
 英米ノ主義ニ依レハ封港ニハ特別ニ告知スルモノト特別ノ告知ヲ要セサルモノトノ二種アリテ後者ノミヲ以テ足レリトナス時ハ封港ノ存否ヲ確メシカ爲ニ來港シタル船舶ヲモ亦封港破毀ニ問フヘシト云ヒ佛國ノ主義ニ依レハ一般ニ中立國ニ對シテ告知ヲ與ヘ猶ホ特ニ封港艦隊ヨリ封港附近ニ在ル船舶ニ告知ヲ與ヘ封港有無ヲ問ハンカ爲メニ入港セル船舶ノ如キハ之ヲ封港破毀ト見做サス艦隊ノ司令官ヨリ特別ノ告知ヲ受ケ其旨ヲ船簿ニ入記シタル上封港内ニ進入セザレハ封港ヲ破毀シタルモノト看做サスト爲セリ
 以上二主義ヲ比較スルニ交戰國ノ主義ニヨレハ封港ヲ破ルノ意思ナ

キ船舶ヲ封港破毀ニ問フノ缺點アルカ故ニ佛國主義ニヨルヲ妥當ナリトス(我明治二十七年ノ捕獲規程第三十條參照)

第四 艦隊ハ繼續シテ封港ヲ保持セサル可カラス但暴風雨ニテ一時艦隊ヲ離隔スルコトアルモ之ヲ以テ封港ノ破レタルモノト視做スコトナシ封港ヲ破毀セル船舶ヲ追尾センカ爲ニ一時實力ナキコトアルモ又是ヲ以テ封港ノ消滅トナスコトナシ蓋シ天變地異封港破毀船舶追尾ハ豫想シ得ヘカラサルモノニシテ豫メ之ニ備フルコト能ハサルモノナレハナリ

第一 封港ノ禁アルヲ知リツ、封港線ヲ通過セント試ミ又ハ既ニ通過シタル船舶アル時ハ之ヲ以テ封港ヲ破毀シタリト視做ス故ニ所謂封港ノ事實ヲ知ラザル船舶ハ封港破毀トナルコトナシ茲ニ所謂封港線ヲ通過セント試ミタルコトヲ要ストハ唯ニ通過ノ意思ヲ以テ足レ

リト云フニ非ラス必ス之ヲ行爲ニ表ハサ、ルベカラサルナリ(我捕獲規程二十九條三十一條參照)

第二 或船舶ヲ指シテ封港ヲ破リタリト謂フニハ船舶ニ向テ其通過セントシタル位置ニ止マルコトヲ命セサル可カラス封港ヲ破リタル船舶アル時ハ之ヲ追テ大洋ノ上ニ於テモ尙之ヲ捕フルコトヲ得ヘシ然レトモ其船舶ニシテ局外中立ノ港灣ニ達シタル時ハ之ヲ捕フルコト能ハス封港破毀ノ罪モ亦之ト共ニ消滅スルモノトス
暴風雨ニ遭遇シ又ハ暗礁ニ觸レテ難ヲ避ケンカ爲メニ封港ニ入港シタル船舶及ヒ封港以前ニ封港内ニ停リタル船舶ニシテ封港ヲ命シタル司令官ノ命ニ依リ一定ノ期限内封港内ニ在コトヲ許容セラレタルモノハ封港ノ存在ヲ確知シテ封港ニ侵入スルモ之カ爲メニ封港ヲ破リタルモノト視做サル、コトナシ蓋シ是等ノ船舶ハ封港ノ目的ニ反

シテ交通通商ヲナスノ意思ヲ有セサル者ナレハナリ次ニ封港内ノ船舶カ出港スルモ封港破毀トナラサル場合ハハレツクノ説ク所ノ如シ其説ニ曰ク封港ニ六箇ノ場合アリ第一出港スルモ貨物ヲ搭載セサル時第二暴風雨薪水ノ缺乏船舶ノ破損ノ爲メ入港シタル者ニシテ此必要ヲ充タシ終ル時第三特許ヲ以テ入港ヲ許サレタル船舶第四封港ノ事實ヲ知ラスシテ入港シ封港艦ノ黙認ヲ經タル時第五適法ニ封港内ニ入りタル中立國船舶ニシテ搭載貨物ヲ變更セル時第六封港ヲ爲シタル國ト封港内ニ在ル船舶ノ本國ノ間ニ戰爭ノ起ラントスル時是ナリ封港ヲ破毀シタル船舶ハ捕ヘラレテ封港ヲナシタル國ニ導カレ捕獲審檢所ノ判決ニ委ス捕獲ニシテ合法ナリト宣告セラル、時ハ其船舶ハ通常貨物ト共ニ沒收セラル然レトモ貨物ノ沒收セラルヘキハ只所有主カ乗組員及船長ノ封港ヲ破ラントスルヲ知リ居リタルノ證據充

分ナル時ニ限ルモノトス船舶ノ乗組員ハ何レノ場合ニ於テモ解放セラレヘキモノナルコト近世國際公法ノ原則ナリ封港ヲ破毀シタル船舶ニシテ封港ノ警備船舶ニ抵抗スル時ハ之ヲ擊沈スルコトヲ得ヘシ封港問題ハ實ニ錯雜紛拏ナルヲ以テ余ハ更ニ封港定義有効封港封港通知封港違犯及平和封港等ニ分チ之ヲ詳論セント欲ス

○封港定義

封港トハ敵港若クハ其海岸ニ中立貿易ノ接近スルヲ閉鎖スルニ在リ封港ノ權利ハ時ニヨリ強迫ヲ受クル港若クハ要塞ノ設ケアル市街ニノミ限ルベキニ非ズシテ一國ノ全海岸線ニ加ヘテ河口若クハ孰レノ地方モ貨物上陸ノ場所ハ之ヲ包括ス何トナレハ交戰國ノ封鎖ノ目的ハ敵國ト中立國トニ於ル通商ヲ妨碍スルニ在レハナリ故ニ沿岸地方ニシテ苟モ商業ヲ營ム處ハ無論封鎖スヘキモノトス然ドモ江河若ハ

其他ノ水路カ敵國ト中立國トノ中間ニ介立スル時ハ獨リ敵國ノ一方ノミヲ封鎖スルモノト爲ス

或記者ハ封鎖ヲ行フ間海濱ヲ占有シ之ニ主權ヲ立ツル時ハ敵國ノ沿岸ヨリ中立國ノ商業ヲ閉鎖スルノ權利ハ無論交戰國ニアリト論シタリ然ドモ是レ完全ナル説明ニ非ズ何トナレハ第一海岸近方ヲ占領シ其水上ニ主權ヲ立ツルハ自ラ其海岸占領ノ附屬權ニシテ之ヲ分離スヘカサレハナリ又第二ニ封鎖ノ實施ハ領内ノ河海ト既ニ定限シタル沿岸ヨリ遠隔ナル場所ニ生ズルヲ多シトス故ニ敵國ノ以前要求セル法權地ノ以外ニ在リ故ニ封鎖ノ範圍ハ唯ニ主權ノ移轉ヨリモ更ニ廣博ナリト辯明セラルヘシ

封港ノ權利ニ關シ眞成ノ基礎ナル者ハ普通ノ權利ニ於テ認定スル所ニシテ各交戰國ハ敵國ノ外國通商道ヲ遮斷シテ抵抗力ヲ殺キ之レヲ

窘迫スルノ權利ヲ有スルナリ又偶然中立國ニ害ヲ與フルコトアレドモ此處爲ハ其目的ニ出タルニ非ルヤ判然タリ斯ル場合ハ交戦上已ムコトヲ得サルヨリ生スル結果ナリトス而シテ其ノ局外中立國ニ於テ更ニ他ノ方法ヲ以テ其產物ヲ賣買シ或ハ行商シテ利純ヲ得ント欲スル時ニ於テハ之ヨリ生スル損害ニ就テ不満足ヲ訴フルヲ得ズ交戦ノ際執行スル封港ノ務ハ米國近來ノ歴史ニ徵セバ則チ明カナリ南部同盟軍ノ諸港ヲ開放シテ其木綿米穀及ヒ煙草ノ諸品ヲ歐洲製造品ト交換セシ間其ノ抵抗力ヲ延長セシナラン然レドモ諸港ハ外國貿易ヲ閉封シテ貨物ヲ互市シ若クハ廣ク必要品ヲ供給シ得ザラシメシヲ以テ其封鎖ヨリ生セシ不利益ハ實ニ莫大ナリシ

封港ハ交戦國ノ權利ニ屬スル以上ハ之レヲ遵守スルハ勿論中立國ノ義務ト爲ス然ト雖モ中立國ハ之レヲ認識スルノ義務ハ存スルモ之レ

ニ防止ヲ加フルノ責任ナシ又ハ封鎖違犯ノ處爲ヲ以テ國法ニ問ハレザル者ナリ

若シ中立國ニ屬スル船舶所有主カ封鎖以内ニ進入シテ捕獲セラレタル時其科料トシテ財貨ヲ沒收セラル、トハ猶彼ノ合圍ニ陥リタル市府ニ糧食ヲ運搬セント企テタル商人ノ貨物ヲ失フタルト其狀ヲ同フス合圍ト封港トニ關スル原則ハ稍々同一ニ似タレドモ決シテ之レヲ混合スペカラズ合圍トハ内部ニ進入セントスルト之ヲ閉鎖スルトノ意ヲ含蓄スル者ニシテ陸上交戦ノ語ニ過キズト雖トモ封港ハ單ニ制限防禦ノ意ニシテ特ニ海上商業ニノミ適用スベキモノトス

封鎖ノ告示ハ君主ノ行爲ニ出ヅル者ニシテ一國ノ最高行法權トス然レドモ場合ニ依テハ之ヲ最下官吏ニ委任スルコトアリ警令ハ艦隊司令長官ハ便宜ニヨリ或ル港灣ヲ封鎖スルノ命令ヲ帶ルコトアリ然リト

雖トモ世界萬國電線敷設ノ今日ニ當テ此ノ如キ委任權ハ其ノ必要ナ
カル可シ

封港ハ中立國ニ於ル權利及利益上ニ嚴格ナル制限アル以上ハ中立國
ノ之ヲ有効ト認定スル前ニ封港ノ實施効驗及ビ初發終局ノ通報ヲ交
戰國ニ請求スルノ權利アリ此ノ如キ請求タル決シテ脅迫手段ヲ加フ
ルニ非ラズ全タク積極的ノ行爲タラザルヲ得ズ而シテ封鎖ノ範圍及
ビ初發日限ノ通報ヲ先セザルベカラズ何トナレバ中立國所屬ノ船舶
所有主ヲシテ制限以内ヲ犯シテ罪科ニ陥ラザラシムルヲ要スルナリ
此等ノ原則ハ漸次ニ法則ニ規定セラレ現今ニテ有効封港ノ違反ヲ以
テ押奪スルニハ三要件ノ證明ヲ得ザル可ラズ 第一封港ハ効力ヲ有
セザル可ラズ 第二相當ノ報道ヲ與ヘザル可ラス 第三封港違反ノ
企圖ヲ認めサル可ラズ

○有効ノ封港

有効封港ノ問題ハ多年來疑惑中ニ存セシモ目今ニ於テ其ノ解釋一定
ニ歸シタリキ或ル封港ニ實効ヲ與ヘシムルニ適當ナル艦隊ノ數及ヒ
其排置若クハ武具等ニ就キ一般ノ合意ヲ得ル能ハザルコト明ナリ抑
封港ノ箇所ニハ弓形ヲ以テ之レヲ圍繞シ艦隊絶ヘス之レニ沿フテ巡
邏スベキモノタリト雖此之ヲ實行スルノ方法ニ至テハ航海ノ性質港
口若クハ沿岸線及ビ之ヲ施行スル狀況ニヨリ大ニ差別ナカル可カラ
ス之ヲ例セバ港口ニ乏シキ沿岸一百マイルハ一船舶ヲ以テ能ク之レ
ヲ巡邏スルヲ得ベキモチヤイレストンノ如キ港ハ數艘ヲ要スベシ
時ニヨリ封港ヲ破リテ之ヲ遁逃スルコトアリト雖モ有効封港ト兩立
シガタシトスル能ハズ或封鎖逃走者ノ如キハ封鎖實施中ニモ關セズ
毎月ナソヨリウヰルミンクトンニ至ルマデ一周シテ歸航シタリト

雖トモ之ヲ以テ無効ト判定スル能ハズ蓋シ封港ヲ脱スルハ逮捕ノ危険アリテ其實行ヲ以テ一大危険ト認定セシメバ則チ充分ナリト脱走シ能ハザルノ封港ハ未ダ嘗テ見ザル所且又設クル能ハザル所ナリ然レトモ拘束セラルヘキ封港ハ有効ナリトノ規則ハ封港制度ノ濫用ヲ謀ル者ニシテ一般ニ之ヲ紙上封港ト稱シ單ニ表面上ノミニシテ實際ハ成立セザルナリ其著名ナル例證ハ現廿世紀ノ當初英佛兩國間ノ爭鬪中ニ發生セリ彼ノ普國ハバーノ返報トシテ佛國ト挑戰シテ英國ノ諸港ヲ閉鎖シタリ此等ノ處置タル正當ト認ムル能ハズト雖モ若シ英國ニシテ開戦ニ決シタリトセバ諸港ノ封鎖ハ素ヨリ合理ノ戰畧ト謂フヲ得ベシ英國ハ之ニ報ユルニ更ニ靜和ノ政策ヲ執リエルヲヨリアレストニ至ル沿岸ヲ封港ノ下ニ告示シタリシモ港灣河口及ヒ錯雜ナル大河口ニ富メル沿岸ノ全部ヲ能ク封港シ得ルコト英國海

軍ノ勢力ノ及ブ所ニ非ラズ然ラバ封港ノ告示ハ實際之ヲ保持スル能ハズト謂モ可ナリ眞ニ封港セラレシ諸港ハ只筆頭ノ封鎖ニ止リ交戦國ノ武力ヲ以テ封鎖セラレザリキ此ノ如キ行爲ハ中立國ニ損害ト不義トヲ與フルヤ明カナリ此ノ如キ敵港ノ封鎖法ハ之レヲ封鎖スルニ非ラズシテ全ク過失ニ由リ無禁制ノ貨物ニ對シ沒收捕奪ノ罪科ヲ以テ中立國ト敵國ト通商ヲ禁シタル命令ニ過キズ彼ノ港口若クハ沿岸ヲ封シテ中立國ノ貿易ニ警戒ヲ與フルトハ全ク其ノ趣キヲ異ニセリ余ハ前條ノ如キ主義ノ蔓延スルヲ目撃セリ彼ノ一千八百六十年十一月二十一日ナポレオンハベルリン議決ニ遵ヒ實行スベキ有用ノ船舶ヲ有セズ又實際之ヲ強迫スル企計ナカリシト雖モ英國ノ全海岸ヲ封鎖シタリ其目的ハ單ニ英國ト通商セル中立國ノ船舶ニシテ若シ英ノ港口ニ航スルアラバ違犯ノ廉ヲ以テ科料ヲ要求スルニ在リ英國ハ是ノ報

酬トシテ普國ヨリ伊國ニ至ル大陸全土ヲ封鎖シタリ茲ニ於テナボレ
 オシハベルリンノ議決ヲ改竄シ更ニ科料ヲ加フル事ト爲セリ是ヲ以
 テ國家ハ相互ニ對スル復讐ノ方畧トシテ之ヲ使用シ正當ナル封港原
 則ヲ擴充セザルニ至レリ此復讐ノ影響ヲ蒙リシハ其交戰國ヨリモ寧
 ロ中立國ニ在ルコトハ事實ニ徴シテ明晰タリ斯ル暴亂ニ際シテ交戰
 國ハ敵國ヲ害スルノ一端ニ意ヲ留メ第三者ナル中立國ノ權利ヲ認メ
 ザル者ノ如シ愈泰平ニ歸シ熱情冷カナルニ及ンデ斯ル處爲ニ就テ更
 ラニ熟考ヲ煩ハシ且ツ先キニ自ラ進ゾテ防禦シタリシ處置ニ就テ非
 難スルニ至レリクリミア戰爭中同盟國ハ公正ナル封港主義ヲ遵奉シ
 其後大強國ノ代議者パリニ相會シテ平和條約ヲ講スルニ當リ萬國
 利害ニ關スル數種ノ疑問中ニ紙上封港(表面上封港スルモ其ノ實効驗ナキ封港ヲ云フ)ヲモ加ヘ
 タリ而シテ拘束スベキ爲メノ封港ハ果シテ其ノ効果ヲカル可ラス之

レヲ換言スレハ敵ノ沿岸に接近スルヲ防禦スルニ充分ナル武力ヲ以
 テ之レヲ維持セザル可ラズト評決シ之ヲ連署告示シタリ是レ一千八
 百五十六年ハリノ緊急告示ノ第四箇條ナリキ不幸ニシテ合衆國ハ
 此告示ヲ承認セザリシト雖モ業ニ既ニ之ヲ實行シ今ヤ萬國舉テ之ヲ
 採用スルガ如ク到ル所之ヲ適用スルニ至レリ

○封港ノ通知

封港犯則者ニ對シ有効捕奪ノ權利ヲ有スルニ先チ封港期日に就テ實
 地ノ報告ヲ發セザル可ラス。此公報ニ依ラザレバ封港ヲ解放シ又之ヲ
 再施スルモ普通報告ニテハ充分ト認ム可ラズ此公報ニ二類アリ其一
 ハ既ニ封鎖セル港内ニ進行セントスル時其港口ニ於テ遵守スベキ告
 示事實ヲ以テ各船舶ニ與フル特別報告ナリ又其一ハ各中立政府ニ向
 ツテ與フル普通ノ外交報告ナリ是其熟知認識セラレシ後自國ノ各船

主若クハ船長ノ報告ヲナル者ナリ場合ニ依テハ二式ノ報告中孰レカ
 其一ノ附録ト成ルアリ譬ヘハ一千八百六十一年南部同盟國ノ諸港
 鎖ノ如キ是ナリ同年四月十九日大統領リノコルン南カコロリナ州ヨリ
 アキサス全體ニ至ル迄同盟國ノ諸港封鎖ノ布告ヲ發シ一週間ノ後之
 チザアトシニア州ニ延長シタリ然ルニ此際委任狀ヲ奉セシ所ノ合衆
 國船艦ハ僅ニ四十二艘ニシテ其中既ニ外國ニ碇泊セシ者アリト假令
 少數ノ船艦ニシテ實効ヲ奏スベキ利益ヲ有スルモ公然紙上封港タル
 ノ非難ヲ受ケスシテ安メ能ク如是ノ擴大ナル封港ヲ成功シ得ムヤ之
 チ避ンカ爲メ普通ノ外交報告ト共ニ特別報告ヲ既ニ閉封セル各港ノ
 入口ニ於テ暫時之ヲ並行シタリキ蓋シ此時普通報告ヲ各國ヘ與ヘシ
 ニモ關セズ捕奪ニ先チ封港ニ接セントスル船舶ニ一々注意ヲ促シタ
 リ是ヲ以テ各港ハ事實ニ於テ之ヲ防遏シ且ツ小艦隊ノ港口ヲ護リタ

リシ時ニ限り布令ヲ適用シタリシ假令法律面ニ於テ違背セズト雖モ
 斯方針ハ中立國ニ對シ不正ノ行爲ト謂ハザルヲ得ズ何トナレバ南軍
 全體ノ諸港ヲ閉封スルノ布告ヲ發セシモ其實封鎖セル部分ハ僅少ナ
 ルヲ以テ尙開放シ自由ニ通商ヲ營ムヲ得ルガ故ニ議ラズ知ラズ捕奪
 ヲ免ル、トアレバナリ然リト雖モ此ノ如キ不取締ニ就テ格段不平ヲ
 訴フル者ナキガ如シ漸々封港ノ武力盛ナルニ及ンテ更ラニ擴張シ且
 ツ嚴格ニ施シタリ斯ル場合ニハ普通報告ハ特別報告ノ位置ニ立チ有
 効封港ノ公示ヲ經サル後ハ復タ特別報告ヲ與ヘズ注意ヲ促サズシテ
 捕奪ヲ實行スルニ至レリ那國モ兩様ノ報告ヲ任意ニ用ユルハ不可ナ
 カルベシ外交報告及ヒ港口ニ於ル報告ハ均シク必須ト認定セル者ハ
 獨リ佛國ノミナリキ其理由トスル所ハ公然發表スルモ船主若クハ船
 長ノ封港ニ就テノ認諾ハ確信セラレザリシトスル意見ノ如シ之ヲ換

言スレバ未タ曾テ其成立ノ報告及ヒ認諾ヲ完タク盡サバリシト認ムルニ在リ然ト雖モ世上ノ評判ニ因ルモ公報ニ就テ知ルモ又新聞ニ就テ見ルモ航海者ノ口碑ニ傳ハルモ孰ニセヨ或國ノ封港ヲ蒙レルノ事實ハ充分ナルニ更ラニ進ンテ其報道ヲ要ムルノ用アル可キ歟此ノ如キ事項ニ加ヘテ正當ノ制限以內ニ於テ報道ヲ盡スノ義務アルニ於テチヤ單ニ佛國ノ慣習ハ詐僞虛妄ノ門戸ヲ開クト云フモ豈不可ナランヤ假令封港ヲ免ル可ラズトスルモ未タ之ヲ一試セサル已上ハ其罪科ニ犯觸セサル者トシテ其封鎖ヲ認識シナガラ之ニ違反スル船長ノ主意果シテ如何ソヤ

此ノ如キ者ハ例外ニ置キ報告ニ尊敬ヲ加フル海上各國ノ慣例ハ同一轍ニ歸スル者ノ如シ或理由ニ依リ封港ヲ放棄セル場合ニハ初發ニ於ルガ如ク公然ニ且廣ク報告スベキ者ナル可シ假令一小艦隊ノ一時發

程ト雖トモ暴風雨ニ起因セル場合ノ外ハ封港解除ト認思セラル可シ例之ベ二日間敵艦ニ追尾セラレシ後再ヒ其所在地ニ歸航スルヲ得トセハ即チ更ニ其港ヲ封鎖シタルト同一ナレバ新タニ報告ヲ與ヘザル可ラス之ヲ強行スル能ハズト雖モ一般ノ通則トス南軍諸港ノ封鎖中一艦若クハ一小艦隊退去シ之ニ代リテ他ノ艦隊ノ到達ニ數日間ヲ要スル例多キニ依リセワード氏ハ不規律トシテ注意ヲ促セシト雖モ敢テ新報告ヲ與フルヲ要セズト思考シタリキ。

○封港ノ違犯

封港ヲ實施シ當然ノ報告ヲ經タル後封港ヲ違犯スルノ行爲ナキ能ハズ如何シテ之ヲ判定スルヤ曰ク船舶ノ封港線內ニ入ルト又ハ之ニ進入スル意思ヲ含有スル事情トニ因リ明カナルベシ蓋シ船舶ノ顯明ナル目的及ヒ實地ノ航路船主ノ命令貨物ノ性質且ツ貨物輸送ノ方法船

積證書類ノ不法等ヲ隠蔽若クハ破毀ノ事實ニ就テハ裁判所ハ銳意之
 レニ任ツ船舶若クハ貨物ニ據リテ故意ニ出タル封港違犯ト認定スル
 ロトアルベシ例ヘハ進航ノ初ニ當テ船舶ヲ逮捕スルヲ得何トナレハ
 第一着手トシテ違犯ノ所爲アリタレバナリサト、ウヰリアム、スコツト
 ハ推論シテ曰クテキセルノ封港ヲ遁ル、意志アリテ之ニ航セシ船舶
 ハ其意思ヲ果サント欲スルニアレバ罪科ヲ受クベキ公然ノ所爲タル
 コト余ノ確ク執ル所ナリト此ヨリ以來詭騙ヲ設テ封港線内ニ侵入ス
 ルモノナシ外國陪審官ハ一般ニ之ヲ是認セズト雖モ英米捕拿裁判所
 ハ此規則ヲ採用シタル者ノ如シ之ヲ例セバアルンチユリーハ假令封
 港ヲ犯スノ意思アリト雖モ然レモ封鎖ノ港口ニ接近シテ以テ其犯意
 ノ形跡嚴然發露スルニ非ラサレハ其船舶ニ對シ罪科ヲ歸スルヲ得ス
 何トナレバ港口ニ接近スルニ及テ其意思ヲ中途ニシテ變更スルコト

アル可シトノ口實ヲ設ケ得ベキカ故ナリ北米合衆國法院ノ判決ハ尙
 一步ヲ進メテ連續航海ノ主義ニ基キ封港違犯ノ意思ニ就テ推定ヲ下
 シ其名義ノミ中立港ニ航スルト爲スモ其實最終ノ方向ハ偏ニ封鎖港
 ヲ目的トスルガ如キ船舶貨物ニ適用セリ例ヘハ倫動トチャールスト
 ン間トノ途中ニ在ル中立港ナソ一ニ寄航スルハ有害ナルヲ以テ航海
 ノ自由ヲ許サザル所ナリ然リ而シテ尙ホ其封港ニ連續進航ヲ主張ス
 ル者アリタリキ

封港違犯ハ封港線内ヲ出入スル時ニ於テ犯ストコロノ者ナリ此場合
 ニ於テハ報告ヲ以テ證明スルニ及バズ封港ノ事實ハ既ニ封鎖地ニ於
 テ識ラル、ヲ以テナリ然ト雖モ封港ノ後中立國ニ對スル處置ハ過酷
 ニ失ス可ラズ中立船舶ノ貨物ヲ積載シ且ツ拔錨ニ適スル猶豫ヲ與フ
 ルハ一般ノ慣例タリ曾テ南軍封港ノ際ニ十五日間ノ猶豫ヲ與ヘシモ

特別ノ場合ニ於テハ更ニ日數ヲ増加スルコトアリタリキ
 有効ノ封港適當ノ報告違犯ノ行爲トノ三事件ニ就テハ中立國船舶ハ
 逮捕審判セラレ其罪跡證明ノ上其科罰ヲ受クル者トス第一其船舶ヲ
 沒收セラレ而シテ其貨物ハ貨物主カ直接ノ證據ヲ以テ船舶ノ行爲ニ
 關シ共謀者タラザル理由ヲ證明スルニ非レバ船舶ト共ニ沒收セラル
 者トス船長ハ船主ノ代理者タリト雖モ貨物ノ代理者ニ非レバ冒險ヲ
 輕ンヨ若クハ貨物主ガ封港實施ヲ知ラザル間ニ封港ノ航行ヲ企ツル
 者アリ然レドモ若シ船舶貨物共ニ同一人ノ所有ニ屬スル時ハ其貨物
 ハ有罪ト認定セラル可シ概シテ口實ヲ僞造シテ貨物ノ無罪ヲ控辯ス
 ル者多シ其理由トスル所ハ貨物ハ假令ヒ他人ノ所屬ニシテ更ニ顧慮
 セスト雖モ船長タル者ハ封港ヲ犯シテ其船舶ヲ危險ニ陷ル者ニ非
 ラスト云フニ在リ

余ハ既ニ封港違犯ノ罪科ハ航海ノ初步ニ犯觸スル者ナルコトヲ説明
 シタリ又罪科ハ歸航若クハ巡航中繼續スルヲ以テ一定ノ處分法ト認
 ム而シテ船舶ハ封港内ヨリ出港後一年間ハ沒收セラルヘキ責ヲ負フ
 ヘシ而シテ其附責ハ其封港ノ開放スルト同時ニ消滅スル者ナリトス
 中立船舶ノ入港禁止法則ニ二條ノ例外アリ一ハ中立國ノ軍艦外交使
 節ヲ載スル時ニ禮意ヲ表スル爲メ其入港ヲ許可スルコトアリ一ハ暴
 風若クハ其他ノ事變ニ切迫シテ他ニ之ヲ避クル道ナキ場合ニ封港内
 ニ避難スルコトアリ然トモ封港政府ノ中立國ニ與フル商業上ノ認可
 ハ封港線内ニ入ルコトヲ保證セズ

封港違犯ノ科罰ハ船舶及ヒ積貨ニ限り決シテ水夫ニ之ヲ加フルコト
 ナ得ズ米國南北戰爭ノ際北部官吏ハ封港違犯ノ水夫ト再ヒ戰爭ニ從
 事スルヲキコトヲ契約セント雖モ實ニ無効ニシテ終ニ無條件ニテ俘

虜ヲ放免シタリ

○平和ノ封港

平和封港ハ其題目ノ如何ニ關セズ之ヲ以テ枝葉ノ問題ト爲スベカラズ。寧ロ之ヲ以テ戰畧論中ニ加テ不可ナカル可シ元來封港ハ交戦ヲ包含スル者ナレハ言語ノ上ヨリ論ズレハ違反ナキニ非ラスト雖中立法ノ權利ヲ毀損スル以上戰時必要ト認ムル外ハ之ヲ施行スルヲ得ズ而シテ平和封港ハ單ニ強國ガ弱國ニ與フル武力ノ行爲ニ過ギスシテ其目的タルヤ不正ヲ矯正シ且ツ戰線ノ一部ヲ撰擇セシムルニ在リ一國カ他國ノ港灣ヲ閉鎖スルコトアリト雖此之ヲ以テ戰畧若クハ交戦方針ヲ計畫シタル者ト爲スヘカラス之ヲ例セバ一千八百二十七年同盟艦隊ガクリース國ノ一港ヲ封鎖シタルハ全クトルコ國ヲシテ正當ニクリース國ニ對セシムルノ目的ニ外ナラザリキ此ノ如キ行爲ニ出

タル者ハ都テ之ヲ稱シテ平和封港ト曰ハサルベカラズ

○海戦ニ於ケル私有財産臨檢搜查及捕獲

古來敵國ノ財産ハ其公有タルト私有タルトヲ問ハス悉ク無主ノ物ト爲シ從テ之ヲ掠奪シ之ヲ破毀スルコト全ク隨意ナリト雖此國際公法ノ進歩スルニ從ヒテ現今ニ於ケル陸戦ニ在テハ私人財産ノ不可侵ヲ則トス然リト雖モ海戦ニ於テハ敵國人民ノ私有財産ヲ奪フコト敢テ不可ナリト爲サス是レ海戦ニ關スル國際公法ノ未タ發達セサルニ職由セスンハアラス原則ハ此ノ如シト雖モ交戦國ハ互ニ私有財産ニハ海戦ニ於テモ侵害ヲ加フ可カラストノ合意ヲナスコトヲ得千八百八十五年九月十日ノ普魯西亞米利加條約第二十三條千八百七十一年二月二十六日ノ伊太利亞米利加條約第十二條ノ如キ即チ是ナリ拿捕スルコトヲ得ヘキモ正當ノ捕獲トスル場合ニ付テハ我捕獲規程第五

條乃至七條ヲ参照スヘシ拿捕ヲ行フコトヲ得ル場所ハ大洋又ハ交戰國又ハ同盟國ノ領海内ニ限ルモノニシテ局外中立國ノ領海内ニ於テ之ヲ行フノ權ナシ蓋シ局外中立國ノ領海内ニハ交戰國ノ權利ノ及フ能ハサルモノナレハナリ

戰爭行為ニ關與セサル船舶ハ交戰國ノ沿岸ニ在ルモノト雖モ拿捕ヲ受クヘキモノニ非ラス千八百一年ノ佛國捕獲審檢所ノ判決ニ依レハ拿捕ニ關シテハ復讐ヲナスコト能ハサルモノナリト爲スト雖モ千八百五十四年芬蘭灣及ヒナツト海ニ於ケル英國ノ例ニ於テハ之ニ反ス然トモ大洋ニ於テ漁業ヲナス者ハ捕獲權ニ服從セサル可カラス何トナレハ大洋上ニ於ケル漁業ハ之ヲ商業ト視做ス可ク且捕獲除外ノ理由ニ協ハサレハナリトリビエルノ唱導スル所ナリ難破船及ヒ破壞船ハ拿捕セラル、コトナシ此點ハ即チ海上可侵ノ原則ノ例外トナルコ

トヲ得ルモノナリ修學ノ目的ヲ以テ探檢ニ向ヒタル船舶水先案内端艇使者端艇及ヒ燈臺ノ用ニ供スル端艇モ亦然リ
敵國ノ財産ガ若シ捕獲審檢所ノ裁判ニ依ツテ之ヲ捕ヘタル國ノ權利ニ歸スルモノト判決セラレタル時ハ茲ニ始メテ捕獲物トナル局外中立國ノ財産ハ一交戰國ニ反抗シテ他交戰國ノ利益又ハ目的ヲ達スヘシト定メラレタル時ハ捕獲物ナリト宣言セラル、コトヲ得故ニ封港ヲ破リタル場合ニ於テハ其船舶及戰時禁制品ハ勿論之ニ搭載セル一切ノ貨物モ凡テ之ヲ捕獲スルコトヲ得ルモノニシテ捕獲物ノ所有權ハ捕獲國ニ移ルモノナリトス

○海上財産

海上ニ於テ敵國私人ノ財産奪奪ヲ廢止セントノ希望ハ學者間ニ盛ニ唱道スル所ナリト雖モ未タ之ヲ實行スルコトナキハ不幸ノ極ナリ

ト爾フヘシ米國ノ大統領モンロー管テ英佛露ノ三國ニ交渉シテ此原則ヲ採用スル國約ヲ爲サントスルニ當リ英國ハ極力之ニ反對シタリ是レ英國カ自國海上ノ權力ヲ失ハノコトヲ憂フルニ因ラスンハアラサルナリ其口實トスル所ヲ聞ケハ輒チ曰ク陸上ニハ占領ニ伴ヒテ課金徵發ノ權アリ海上ノ捕獲ハ之ニ對シテ一對チナス者ナリ商船カ捕獲チ蒙ムルハ自ラ覓ムルノ罰ナリ商船ニシテ自ラ求メテ戰鬪ノ場所ニ來ラスンハ之ヲ捕獲セサルナリト共ニ理由トシテ見ルノ價値ナシ戰爭ハ國家間ノ争ニシテ個人ニ關スル者ニ非ラストノ原則ハ以テ此口實ヲ破ルニ足ルヘシ

敵國ノ國旗ヲ掲クル船舶ハ之ヲ敵國ノ船舶ト視做スコトヲ得即チ船舶ノ國籍ヲ表彰スルニ必要ナルコトハ各國其國內法ニヨリテ之ヲ定ムヘキモノナリ假令敵國ノ國旗ヲ掲クル船舶ナリト雖モ實際中立ナル時ハ是ヲ敵視シテ船舶タル待遇ヲナスコト能ハス其實ハ船籍ニ付テ之レヲ見ルニ在リ貨物ノ所有主カ敵國臣民ナル時ハ其貨物ヲ敵視スルコトヲ得ヘシ船舶又ハ貨物ヲ奪取スルハ軍艦或ハ特ニ奪取ノ權利ヲ有スル船舶ニ依リテ之ヲ爲サ、ルヘカラス私艦ヲ以テ拿捕スヘカラストハ千八百五十六年巴里會議ニ於ケル海上法要義ノ示ス所ニシテ私艦ハ國家ノ船舶ニアラス從テ戰爭ニ關係ナキモノナルカ故ニ之ニ捕獲ノ權利ヲ與フルハ不可ナリト謂フナリ猶ホ私艦ノ乗組員ハ一定ノ軍規ノ下ニ在ラサルモノナリトノ理由モ亦私艦ニ拿捕ヲ許サル主タル原因ナリ

北米合衆國ノ巴里同盟ニ加ハラサル理由ハ時ノ外務大臣マーシノ主張セル所ニシテ私艦ヲ以テ拿捕スルヲ禁スルト共ニ戰時禁制品ニ非ラサル限リハ敵國ノ貨物ト雖モ捕獲スルコトヲ禁スヘシト唱ヘ其言

ノ艦カレナルヲ檢シタルニ出ツルモ實際ハ即チ米國ノ沿岸長クシテ私艦ヲ以テスルノ拿捕ヲ禁スルノ不利ナルヲ洞察シタルニ因ルモノナラソカ一港ヲ掠奪スルニハ陸軍々隊ニ依リテ之ヲ爲サ、ル可カラズ私艦ニ遇ヒタル軍艦ハ其旗ヲ示シ空砲ヲ發シテ私艦ニ止マリ且旗ヲ示スヘシト請求スルコトヲ得之ヲ名ケテ留止權ト云フ

○臨檢搜查

私船ニシテ止マルコトヲ肯セス又ハ逃避セントシ又ハ抵抗シ又ハ敵國ノ旗ヲ示シタル時ハ軍艦ハ直ニ之ヲ捕フルコトヲ得止マルコトヲ肯シタル場合ニハ軍艦ヨリ將校其他ヲ端艇ニ載セテ私艦ニ送り船簿ヲ見テ船舶ノ國籍貨物ノ性質ヲ調査スルコトヲ得之ヲ臨檢ト云ヒ更ニ疑アルトキハ船内ヲ搜索スルコトヲ得之ヲ搜查權ト云フ捕獵規程十二條參照船簿ヲ調査スルハ第一船舶ノ中立タルヤ否ヲ檢シ第二其

他一切ノ關係例ヘハ中立船ナリトセハ搭載品ノ戰時禁制品ニ非ラサルヤ否ヲ知ルノ目的ニ出ツ故ニ國籍ヲ有スル船舶ニ對シテハ臨檢ヲナシ亦搜查ヲ爲ス者ナリト雖モ海賊船ニ對シテ搜查ヲ行フノ必要ヲ見ス該船舶ハ中立國ノ船舶ニシテ不法ノ行爲ナキコト明白ナルニ至レハ交戰國ノ船舶ナルモノハ之ヲ解放セサルヘカラス搜查シタル後中立ヲ破リタルモノト視ル時ハ猶ホ之ヲ自國又ハ同盟國ノ最近港灣ニ伴ヒ行クヲ例トス該船舶臨檢搜查ニ反抗シタル場合及臨檢搜查ヲナシタル時其船舶カ國籍ヲ有セサリシ時又ハ船舶ニ必要ナル證書ヲ缺キタル場合亦然リ而シテ始メヨリ之ヲ缺キタルト不法行爲ヲ隱蔽センカ爲メニ之ヲ破毀シタルトテ問ハサルナリ貨物ノミヲ拿捕スルノ必要アル時ト雖モ併セテ其船舶ヲ送致セサル可カラス

○拿捕船舶

交戦國ハ拿捕シタル船舶ヲ中立國ノ港灣ニ導キ行クヲ得サルヲ例ト
爲スト雖トモ海上ニ危難アル場合ニ於テハ軍艦ハ捕獲船ト共ニ中立
國ノ港灣ニ投入スルコトヲ得捕獲規定第二十一條ニ曰ク中立國ニ於
テ前條ノ處分ヲナス時ハ其地方官若クハ官吏ノ承諾ヲ得ルヲ要スト
又危険或ハ緊急危難アル時ハ軍艦ハ捕獲船ヲ破毀スルノ除外權アリ
捕獲規程第二十二條ハ敵國政府ノ船舶ニシテ第十八條ノ港ニ引致ス
ルコト能ハサル事由アル時ハ艦長ハ水夫書類及ヒ若シ得ヘクンハ積
荷ヲ移シタル後該船舶ヲ破毀スヘシ但水夫書類及ヒ積荷ハ第十八條
ノ港ニ廻送スヘキモノトスト規定セリ
ダナ一ハ此場合ヲ分ツテ第一船舶カ航海ニ堪ヘサル時第二眼前再捕
獲ヲ受クルノ恐アル時第三船中ニ傳染病アル時第四其他普通ノ規則
ヲ適用スルコト能ハサル時はナリ

マルテンスハ六個ニ分チ第一其船舶戰鬪ノ爲メニ毀害ヲ被ムリ且甚
シキ破壊ヲ受ケタル時第二其船舶ノ進行極メテ緩慢ニシテ再捕獲ヲ
受クルノ危険アル時第三捕獲船カ強敵ニ認メラレテ戰鬪ニ加ハル能
ハサルノ恐アル時第四被獲船ヲ整理セントスルノ機装ヲナスコト
能ハサル時第五捕獲物ノ價值少ナキ時第六捕獲シタル場所捕獲船ノ
本國ノ港灣ト大ニ離隔セル時又ハ本國ノ港灣カ敵ノ爲メニ封港セラ
レタル時はナリ此ノ如キ破毀ヲナス時ト雖モ拿捕ニ關スル證據ヲ蒐
集シ置キテ捕獲審檢所ノ裁判ヲ仰キ以テ捕獲ノ正當ナル理由ニ出テ
タルコトヲ示サ、ル可カラス但中立國ノ船舶ハ如何ナル場合ニ於テ
モ之ヲ破毀スルコトヲ得ス若シ自國又ハ同盟國ニ伴フ能ハサル時ハ
之ヲ解放セサルヘラス
條約又ハ國法ニ依リテ捕獲船ノ所有權ノ移轉ヲ捕獲後及ヒ二十四時

間ト爲ス國アリ或ハ港灣ニ件ト來リタルト同時ニ移ルモノナリト爲
ス國アリ尤モ拿捕ノ正當ナルヤ否ヤヲ審判スルノ權限ヲ有スル裁判
所即チ捕獲審檢所ノ判決ニ依ツテ捕獲國ニ所有權ノ移ルコトヲ宣告
シタル場合ニ非サル可カラサルハ論ヲ俟タス拿捕權ヲ有スル船舶并
ニ軍艦ハ捕獲審檢所ニ於テ拿捕ノ正當ナルコトヲ證シ且ツ宣告ヲ受
ケサル可カラス又拿捕ヲ爲シタル軍艦ノ艦長又ハ船舶ノ船長ハ其長
官ニ向テ捕獲ニ關スル報告ヲナス可キモノナリ

○捕獲審檢所

捕獲國或ハ其同盟國ノ港灣ニ於テ拿捕ノ正當ナルヤ否ヤヲ判決スル
裁判所即チ捕獲審檢所ハ國際公法上ノ問題ヲ決定スヘキ特種ノ國內
裁判所ナリ捕獲審檢所ハ交戰國又ハ同盟國ニ非ラサルハ之ヲ設クル
コトヲ得サル者ニシテ中立國ト交戰國ヲシテ自國ノ領内ニ捕獲審檢

所ヲ設置セシムヘカラス捕獲審檢所ニハ二審アリテ始審ヲ捕獲審檢
所ト曰ヒ終審ヲ高等捕獲審檢所ト稱ス高等捕獲審檢所ニ於テハ終局
ノ裁決ヲ爲ス者ナリ佛國ニ於テハ始審ハ捕獲院之ヲナシ終審ハ大審
院之ヲナシ英國ニ於テハ始審ハ海軍裁判所終審ハシニシアルコミ
チノ之ヲ司トル獨逸ニ於テモ亦日本ノ如ク捕獲審檢所ト高等捕獲審
檢所トアリ拿捕ノ正當ナルト不當ナルトヲ裁判スルハ一ニ捕獲審檢
所ノ裁決スル所ニ委スヘク捕獲審檢所ハ判決ヲ下スニ決シテ他ノ掣
肘ヲ受クルコトヲナシ捕獲審檢所ノ宣告ハ又捕獲セラレタル船舶ト貨
物ノ一部ニ對シ特別ノ裁決ヲ與フルコトヲ得ヘキモノニシテ船舶ト
貨物トヲ沒收スルコトアリ明治二十七八年ノ日清戰爭ニ於ケル益生
號事件參照スベキナリ

捕獲審檢所ノ評定官ノ組織ハ各國各特別ノ規定ヲ設ク英吉利北米合

衆國和蘭ノ如キハ裁判官ヲ以テ之ニ充テ佛蘭西獨逸露西亞埃地利丁
抹西班牙ノ如キハ裁判官及ヒ行政官ヲ以テ之ニ充ツ我國ニ於ケル捕
獲審檢所評定官ハ海軍將校一人判事二人主理一人法制局參事官外務
省參事官若クハ書記官一人ヲ以テ之ニ補シ長官ハ控訴院ノ判事ヲ以
テ之ニ補シ高等捕獲審檢所ノ評定官ハ樞密顧問官一人海軍將校二人
大審院判事三人法制局長官一人外務省政務局長一人ヲ以テ之ニ補シ
其長官ハ樞密顧問官ヲ以テ之ニ補スルコト捕獲審檢令第二條及ヒ第
三條ノ規定スル所ナリ其他捕獲審檢所ノ職權審檢ノ手續等ハ明治二
十七年八月廿日敕令第四十九號捕獲審檢令ニ明カナリ拿捕セラレテ
ヨリ港内ニ伴ハル、前後判決ヲ受クルニ先チ金員又ハ賠償證書ニ依
ツテ捕獲國ノ爲ニ買上ラル、コトアリ然レトモ多クノ國家ニ於テハ
此買上ヲ禁ス未タ宣告セラレサル船舶ガ本國又ハ同盟國ノ軍艦ヨリ

再ヒ奪收セララル、コトアリ之ヲ名ケテ再捕獲ト謂フ若シ捕獲宣告前
ニ再捕シタルモノナレハ其所有權ハ未タ捕獲國ニ移リ居ラザリシモ
ノナルカ故ニ奪却シタル國ハ船舶ノ所有者タルヘシト謂フヘキナリ
余ハ更ニ海上捕拿物搜查權捕拿船出港停止及外船徵發等ノ問題ニ分
チ之ヲ詳論セント欲ス

○海上捕拿物

海上捕拿物トハ交戰國ノ權力ヲ以テ海上戰爭ニ於テ正當ニ捕獲シタ
ル所ノ船舶船貨其他ノ財産ヲ謂フナリ近世ノ國際公法ニ依レハ交戰
國ノ裁判所カ其海上ノ捕獲物ハ戰爭ノ慣行ニ從ツテ爲シタル事ノ確
證ニ就キ宣告狀ヲ發セザル已上ハ其捕獲セシ所ノ交戰國若クハ其代
理者ニ交附又ハ其所有權ヲ移サザルナリ又其海上捕拿物ハ同裁判所
カ其宣告ヲ爲サザル已上ハ其原所有主ヲ妨害スルカ爲メ之ヲ局外中

立ノ購買者若クハ償還ニ讓與セザルヘシテ其裁判所カ宣告スル
マテ捕拿セシ交戦國カ海上捕拿物ヲ保存スルハ是レ其最後ノ所有者
ニ對スル信用ナリトス

前述ノ目的ニ對スル裁判所ハ其事件ノ生シタルコトヲ確認シタル交
戦國ノ管轄ニ屬シ其海上捕拿ノ事件ニ裁判權ヲ有スル者トス此ノ如
キ裁判所ハ一般ニ捕拿裁判所ト稱セラル北米合衆國ニ於テハ此裁判
所ノ裁判權ハ地方裁判所ノ豫審ヨリ巡回裁判所ヲ經テ高等法院ニ上
告スルヲ以テ之ヲ聯邦裁判所ノ管轄ニ屬セリ而シテ其位地ハ局外中
立國ノ國疆ニ於テセスシテ其捕拿州内若クハ同盟州内ニ置ク者トス
而シテ其裁決ニ至ツテハ宣告ノ時ニ當リ假令捕拿物之ヲ保管セス或
ハ局外中立港ニ存在シ或ハ現存セスト雖モ其効力ヲ有スル者ナリト
ス

捕拿裁判所ノ要務ハ局外中立國ノ人民及財産ノ侵掠ニ對シ其交戦國
ノ責任ニ係ル海上捕拿ノ合法ナルト其捕拿物ノ多數ハ戰爭權ヲ濫用
シテ賦課セラレタル中立國ノ財産ナルカ又其財産ノ性質ハ中立國タ
ルカ敵國タルカノ判然セサル事實ヲ考究スルニアリ

戦時ニ船舶ヲ停止スル捕拿者ノ義務ハ下記ノ權力ニ從フ者トス即チ
時情ノ許ス限ハ其船舶ヲ驗査シ捕拿裁判所ニ依テ充分ノ検査ヲ行フ
ヘキ原因ヲ認ムルニ非ザレハ之ヲ放免スルニ在リ若シ其原因ノ發見
スル時ハ其所有主ハ裁判所ノ検査ニ供スル證據トシテ船中ノ總乗込
人及船舶書類船貨其他ノ證據物ヲ合セテ其本船ト共ニ速ニ其國ノ便
宜港ニ廻送スベキ義務アル者トス其停止シタル船舶カ中立國ノ港内
ニ在ル時ハ検査後其本船及船貨書類及乗客ヲ專斷ニ放免スルカ將又
捕拿裁判所ノ精査ヲ驗査ニ供スル爲メ之ヲ其國ノ便宜港ヘ廻送ス

ベキノ義務アル者トス此場合ニ於テハ中央航路ヲ取ルヲ能ハス又捕虜ハ必ス其捕拿船ヲ以テ運送スルヲ宥恕スベシ若シ其船舶カ航海ニ適セサルカ或ハ奪回セラル、ノ虞アルカ或ハ船中ニ傳染病ノ死亡者アル時ハ其捕拿船ヲ破壊若クハ放棄スルナリ然レトモ其船中ノ書類及人員ハ捕拿裁判所ノ判決ノ資料ト爲ルカ故ニ之ヲ保存セサルベカラス若シ其船舶ニシテ捕拿後ニ至リテ逃亡若クハ奪回セラル、カ或ハ其所有主カ裁判宣告前ニ其船舶ヲ收贖スル時ハ其財産ハ原所有主ニ復歸スル者トス

北米合衆國ノ聯邦中ニ在テハ捕拿物ヲ便宜港ニ廻送シ易キ場合ト雖モ其所有主若クハ代人ヨリ其船舶及財産ニ對スル價格物品ヲ捕拿者ニ附與スヘキ證書ヲ爲シタル時ハ之ヲ解放スルノ權利ヲ捕拿者ニ許與スル者ナリトス此證書ヲ名ケテ捕拿物收贖條約ト稱スルナリ而シ

テ時宜ニ依テハ其條約履行ノ爲メ附屬ノ證書トシテ此證書ト俱ニ人質ヲ捕拿者ニ與フルコト之アリ其捕拿物收贖條約ノ受領證ハ捕拿國若クハ同盟國ノ官令ニ據テ何人モテ捕拿スルコトナク定限ノ時間内ニ定限ノ航海ヲ爲シ得ベキ免許ヲ與ヘタルカ故ニ之ヲ以テ旅行證ト爲ス者ナリ

捕拿物收贖條約ノ期限ノ履行ヲ遲怠スル時ハ其遲怠ノ確證ヲ與フルニ非ラサレハ其捕拿ノ義務ヲ復得シ難キ者トス若シ其收贖船舶其他ノ財産カ其指定航海ノ滿期前ニ破船シタル時ニ當リ捕拿者カ海上ノ危難免除ヲ保險セシニ非サレハ其收贖金ハ尙負債シタル者ト爲ス若其收贖條約ノ船舶其他ノ財産カ其指定已外ノ航海若クハ其定限ノ時間已後ニ於テ再捕セラル、時ハ之ヲ正當ノ捕拿ト判定シ其賣得金ヨリ收贖金ヲ控除シテ之ヲ第一捕拿者ニ與ヘ其殘金ヲ第二捕拿者ニ與

フルナリ收贖條約書ノ再捕者ハ解放義務ヲ免除ス然レトモ其條約書ト俱ニ交附シタル人質ノ死亡逃亡ノ義務ハ免除セラレサル者トス若シ捕拿者カ海上ニ船舶ヲ停繫シテ其時情ノ許ス限之ヲ検査シタル後其判決ノ爲メ之ヲ廻送スベキ義務ヲ終ヘザル場合又其船舶カ再捕若クハ收贖ニ依ツテ原所有主ニ復歸セサル場合ニ於テハ捕拿裁判所ハ其船舶及財産ニ精細ナル検査ヲ行フヘシ而シテ其財産ヲ原所有主ニ回復スルカ否ラサレハ之ヲ沒收スルナリ捕拿裁判所ノ訴訟手續ハ内外訴訟ノ性質ヲ別タヅシテ之ヲ簡易ニ處理スルナリ捕拿シタル船舶其他財産ノ國有財産ニ歸スルコトハ理ノ親易キ所ナリ而シテ之ヲ其國家若クハ其人民ニ與ヘタル者ハ其船舶及財産ノ賠償權ヲ有スル所ノ敵人ニ非スシテ其機會ナリトス若シ要求者カ賠償權ヲ立ツルト能ハサレハ其船舶及財産ヲ沒收スルナリ若シ要求者カ

賠償權ヲ立ツルニ當テ其捕拿廻送ノ確證ヲ缺ク時ニ於テハ唯其捕拿物ノ所有權ヲ失フノミナラス尙其捕拿者ヨリ損害要償ヲ起訴スヘキナリ若シ其國家ニシテ捕拿事件ノ判決ヲ委任セサルカ或ハ捕拿裁判所ヲ設置セサルカ或ハ其習慣ニテ認承シタル方法ヲ以テ之ヲ處理セサルカ或ハ自國ノ捕拿裁判所ノ判決ニ反シテ其財産ヲ沒收スルカ如キトアレハ則チ其効力ヲ及ホサレタル國權人權ハ其訴訟ノ起基ヲ有シテ其問題ハ遂ニ政治上ノ問題トナルナリ沒收捕拿物ノ賣得金處分法ハ其地方律ニ據ル者トス或州ニ於テハ其賣得金ヲ捕拿金若クハ首級金ト稱シテ將來敵國ノ海上捕拿ヲ獎勵スル爲メ其武功ノ褒賞トシテ之ヲ捕拿者ニ分與セリ再捕者ノ所有ニ歸スル賠償ハ救船賞ト稱シ大抵他邦ノ船舶間ノ交互條約ノ原則若クハ同盟船舶間ノ條約若クハ同國船舶間ノ地方律ニ據リテ之ヲ斷定スル

者ナリトス

○搜查權

モツシユハウトフホイル曰ク凡ソ海上ノ搜船權タルヤ之ヲ適當ニ論ズル時ハ一ノ權利ニ非ズシテ交戰國ニ屬スル諸權利ヲ執行スルノ方法ト謂フベキモノナリト

マイトンス又説ヲ爲シテ曰ク凡ソ其突然相會シタル商船ガ唯其局外中立ノ國旗ヲ掲グタルノミヲ以テ其敵國船ニ非ザルコトヲ證スルニ足ラザルヲ以テ自然法ハ其敵船ノ捕奪ヲ許サレタル場所ニ於テ軍艦或ハ捕敵船ニ會合スル所ノ商船ヲ搜索スル權利ヲ交戰國ニ拒絕スルコト能ハス而シテ亦之ヲ沒收ス可ラズトノ證據不十分ナル時ハ其船ヲ港内ニ導入スルコトヲ拒マザルモノトス然レモ一般ニ行ハル、國際公法ノ定ムル所ニ因レバ則チ其捕奪ノ果ソ正當ナルカ否ヤニ關

シテ兩國民間ノ訴訟判決權ハ孰レニモ之ヲ特有セザルモノニシテ其平和ニ落着セザル場合ニハ混成裁判所ニ於テ之ヲ判決セザル可ラザルナリ若シ商船ニソ其搜索ヲ拒ム場合ニハ之ガ爲ニ疑ヲ招キ好捕拿物トシテ布告セラル、ノ危險ニ陷ルコトアルモノトス
モツシユコーチー曰ク凡ソ搜查權ナルモノハ此語ガ傳知セシムル所ノ意義ヨリ遙ニ超越シタルコトニ用非ザル已上ハ決シテ此搜查權ニ異論ヲ生スルコト無シト是レ實ニ然リト謂フベキナリ乃チ其異論ノ生ズルハ全ク之ヲ濫用スルヨリシテ生ズル者ナレバナリ是レヒュー・フネル氏ランブレデイ氏及ヒ余ハ彼ノ船舶ガ掲クル國旗ハ其船籍ノ所屬國ヲ表旌スルノ證據ト爲スニ足ラストノ意見ハ是レ公平ナル論者ノ皆之ヲ承認セル所ナリト斷言スルヲ得ベキナリ且又其船舶ハ其旗章ニ對シテ權利ヲ有スルモノナルカヲ知ルノ必要ヲ見ルナリ故ニ

彼ノモツシユコーチーハ其證明ヲ三項ニ分テリ

第一通行券即チ君主ノ免許狀及ビ其國籍ヲ示シ及ビ其出帆港ヨリ
其目的地ノ名稱ヲ示ス海上通行券ヲ出サシムル事

第二其搭載シタル商品ノ性質及ビ分量ヲ表示セル契約書或ハ船積

書ヲ提出セシムル事

第三其船舶ヲ訪問ス即チ直接ニ其積載スル貨物ヲ搜索スル事

右ニ就キテ一言センニ其第一及第二項ハ毫モ重大ナル議論ヲ惹起サ
ザル所ノモノニシテ之ト同時ニ第三項ハ人ノ多ク論議スル所ナリ乃
チモツシユコーチーハ此ノ證明ノ第一及第二項ヲ以テ通常民事上ノ
手續ニ於テ爲ス所ノ證明法ト比シ第三項ヲ以テ之ヲ刑事上ノ手續ノ
發端ニ比シタリ余ノ考フル所ニ因レバ則チ其船舶ヲ訪問スルハ是レ
戰時禁制品ヲ運輸スル疑團アル時其他重大ナル詐欺ノ疑團アル時ノ

ミニ用非ラル、所ノ方法ナリ即チ一般ノ規則トシテハ其船舶證書ヲ
以テ足レリト爲スナリ以上陳述シタル所ニ因テ瞭然タルガ如ク其船
舶訪問權トモ稱スベキモノハ是レ唯ダ戰時ノミニ施用スルモノニシ
テ平時ニ於テハ特別契約及ビ其契約中ニ示シタル目的ノ爲ニ非ザル
ヨリハ船舶ノ訪問時機ナキ者ナリ彼ノ一千八百六十二年四月九日英
米二國ノ締結シタル奴隸貿易ノ嫌疑ヲ受ケタル船舶ノ訪問及ビ搜索
權利ヲ十年間相互ニ准許シタル條約ノ如キ是ナリ又一千八百四十
一年之ト類似シタル條約ヲ英國ヨリ佛國ニ提出セシト雖トモ之ヲ批准
セザリキ然レモ一千八百四十五年五月廿九日佛國ハ之ト異殊ナル條
約ヲ結ビタリ此條約ニ據レバ則チ平時ニ於テハ其口實ノ何タルヲ問
ハズ全ク此權利ヲ嫌斥セルコトヲ明示セルモノナリ凡ソ軍人ハ孰ノ
場合ヲ問ハズ訪問及ビ搜索權ニ服從セザルモノナリトス

○捕拿船

捕拿船トハ海上捕拿方ヲ以テ敵國ノ附屬船其他ノ財貨ヲ侵掠スル者ナリ捕拿船ハ軍裝ヲ具ヘタル船舶ニシテ一二ノ私人之ヲ所有シ之ヲ艦裝シ且之ヲ管理スト雖モ通例交戰國ヨリ捕拿狀ト稱スル委任令ヲ以テ出發スル者トス捕拿狀トハ海上ニ於テ敵ノ船舶若クハ財貨ヲ侵掠スルノ權利ヲ一人若クハ數人ニ許可シタル者ナリ此ノ如キ船舶ヲ海戰ニ利用スルノ權利ハ國際公法ノ認許スル所ニシテ邦國ノ海軍創設ニ至ル間之ヲ利用スルヲ必要ナリトス是ヨリ前ニ當テ海軍ノ微々タル邦國ニ之ヲ使用スルノ大利益タルヲ認メラレタリ蓋シ短日月ト小經費トヲ以テ海軍ノ勢力ヲ張大ナラシムルニ適シ其強盛ノ海軍ヲ以テ海上貿易ノ專業ナル他邦ニ異常ノ利益ヲ占領セシメザルニ適スレバナリ

又其捕拿船ノ使用ヨリ生スル不利益ハ其船舶所有主及水夫ニ其捕拿船舶其他ノ資財ノ全部若クハ一部ヲ私用スヘキコトヲ許可シテ之ニ從事セシムルカ故ニ其役員水夫等ハ海軍ノ軍規ニ從ハスシテ唯其捕拿ノ熱望ヨリシテ遂ニ正當交戰ノ範圍ヲ越ヘ局外中立ノ權利ヲ嫌疑シテ平和ノ後ト雖トモ猶不法ノ所爲ヲ働クコトアリ前條ノ弊竇アルニ拘ハラズ中立國ノ福利ヲ増進シ且ツ一私人ノ方便ヲ以テ近代ノ海戰艦ニ適スル船舶艦裝ノ困難ナルヨリシテ十八世紀中ニ捕拿船ノ廢棄ヲ倡ルニ至レリ一千七百八十五年フランクリン氏ノ締訂セル合衆國ト普國トノ條約ハ譬ヘ兩國間ニ於テ干戈ヲ交ユル場合アルモ此條約國ハ捕拿船ヲ用ザルコトヲ約セリ又一千七百九十二年佛國議會ハ捕拿船禁制ヲ議決スト雖モ其効ナカリキ一千八百二十三年合衆國ハ同一ノ目的ヲ以テ英國佛國露國ト其條約ヲ結バント

欲セシモ之レヲ擧クルコト能ハサリキ嘗テメキシコ戦争ノ時合衆國ハ捕拿狀ヲ發セズ而テメキシコハ捕拿狀ヲ發セシト雖モ外國人之ヲ認定セザリシト蓋シ國法若クハ條約ノ禁止スル者アレバナリクリミヤ戦争ノ時各交戰國ハ捕拿狀ヲ發シタリ而シテ其終局ニ至リテ歐洲諸強國ハ彼ノ私費ヲ以テ私利ヲ維持シ且ツ國家海軍力ノ及フベカラザル多年間繼續スル捕拿船ヲ統御スルコト能ハザルヲ悟リ遂ニ一千八百五十六年四月十六日巴里布告ニ調印シタリキ其第一條ニ曰ク自今捕拿船ヲ廢棄スト是ヨリ歐米ノ諸大國ハ合衆國西班牙メキシコヲ除キ皆擧テ巴里ノ布告ヲ批准シタリ同布告ハ同盟交戰ノ時ニ限り此調印ヲ有効ト爲ス若シ條約以外ノ邦國ト兵器ヲ交ユル場合ハ各自捕拿船ヲ用ユル隨意タルベシ

斯批准ノ爲メ合衆國ハ傳來ノ政策タル自得ノ特權ヲ失フヲ以テ巴里

布告ノ調印ヲ拒絕シタリ其原因ハ一千八百二十三年以來政體ニ變更ヲ來シ且ツ大貿易海國タルヲ以テ一朝事アルニ當ツテ大海軍ヲ有スル交戰諸國ニ對スルニハ捕拿船ノ援助ヲクシバ十分自國ヲ守ルニ適セサルトノ自信ニ因ル然レドモ合衆國ハ條約文ヲ改正シ密賣品ノ外海上ニ於テ私有財産捕拿ヲ保護スベキ條款ヲ加フルヲ得ハ布告ニ同意セント提議シタリ世ニ之ヲマーシー即チ亞米利加改正案ト稱シ締盟國ハ之ヲ承諾セス遂ニ一千八百五十七年ニ於テ分離シタリキ

一千八百六十一年英國ハ南部同盟政府ヲシテ巴里布告ニ同意セシメント欲シテ之ヲ果サズ是ニ於テ合衆國ハ條件ヲ附セズシテ巴里布告ニ同意ヲ表シタリ蓋シ其希望ハ南部同盟州捕拿船ヲ海賊視スルノ萬國權利ヲ得ルニ在リ而シテ英國ハ南部同盟州ヲ以テ交戰國ノ地位タルニ同意ヲ表シ以テ捕拿船使用ニ就テハ實際其權利アルコトヲ承認

セリ而シテ當時合衆國中ニ生シタル國內ノ争亂ニ就テ直接又ハ間接ニ其關係ヲ有セザル理由ヲ條約ニ明示セズンハ合衆國ノ要求ハ拒否スベキ者ト爲シタリ然レモ持久ノ性質ヲ有シ且多數ノ同盟ヲ連合シタル布告ニシテ一國ノミヲ制限スルコトハ合衆國ノ承認シ難キ所ナリ故ニ其巴里布告ニ同意ヲ表セザリキ同盟州ハ各國ノ臣民ニ對シ捕拿狀ヲ進呈シタリ故ニ合衆國議會ニ於テモ捕拿狀ヲ發スル權利ヲ其大統領ニ與ヘタリ然レドモ當時海國ハ皆其臣民ニ諭シテ曰ク交戰中捕拿船ニ務ムル者ハ政府ニ於テ之ヲ保護スルノ關涉ヲ爲サズト又合衆國ハ此等人民ヲ遇スルニ海賊ヲ以テスト脅迫ヲ加ヘシヲ以テ外國私有運漕船ニシテ公然同盟政府ヨリ捕拿狀ヲ受クル者ナカリキ而シテ同盟州ノ船舶ハ艦隊ノ如ク委任セラレタリ然レドモ合衆國大統領ハ捕拿狀ヲ發スルノ權ヲ用ヒザリキ

一千八百七十年普法交戰中普國ハ義勇艦徵集ノ勅諭ヲ發シ船舶所有者ヲ召集シテ佛國軍艦ヲ攻撃スルノ準備ヲ爲サシメ而シテ捕獲物ヲ以テ懸賞ト爲シタリ是ニ於テ水夫ハ海軍ノ軍規ニ從フト雖モ之ヲ徵集スル者ハ船主トナス之レヲ監督スル將校ハ正式ノ海軍將校ニ非ラザリキ普國ハ巴里布告ニ拘束サル、ヲ以テ捕拿船ヲ使用スヘカラサル約束アルガ故ニ辭柄ヲ設ケテ此ノ如キ義勇艦隊ヲ造リシト雖モ佛國ハ大ニ之レヲ抗拒シタリ捕拿船ト義勇艦隊トノ間ニ存スル差違ハ唯義勇艦隊ノ海軍軍規ヲ遵奉スルニ在ルノミ交戰中俘虜ト爲リシ者ハ素ヨリ之ヲ國中ニ止メ而シテ委員ハ有効分捕品ニシテ合法ノ利益ヲ捕拿船員ニ投與スル爲メ其船中ニ乘込マザルベカラス交戰國ノ一方ヨリ捕拿委任ヲ得テ以テ解纜スルハ海賊ノ所爲アル者トス然トモ茲ニ一國ノ政國アリ之ニ對スル二三ノ同盟國ヨリ委任ヲ受タル場合

ハ不規則ナリト雖之ヲ認メテ海賊ノ所爲トナス可ラス苟モ一邦國ヨリ發スル捕拿狀ヲ受ケタル者ハ内外人ヲ問ハス條件ノ如何ヲ問ハス國法ニ依リテ變更スベキ者トス抑モ此捕拿狀ヲ受ケント欲スル者ハ通例約束證ヲ入ル、者トナス即チ交戦ノ慣例ニ服スル事免許國ノ命令ヲ遵奉スル事局外中立國ノ權利ヲ守ル事必至ノ場合ヲ除ク外ハ捕拿裁判所ノ判定ヲ請フ爲メ一切ノ捕獲物ヲ港内ニ携フヘキ事はナリ斯問題ニ就キ合衆國ノ如キ國法ノ確立セサル國ニ於テ捕拿船主及ヒ士官ニシテ若シ既ニ規定セラレシ保護法則ヲ超ヘテ船品侵掠ニ從事シタル時其損害ノ辨償ヲ負擔セサル可ラス而シテ其辨償ノ金額ハ暴行ヲ以テ破壊シタル財産價格ト爲スコトハ一般ノ法則ナリ條約屢々變更ヲ來シ合衆國ノ佛國荷蘭陀瑞典普國英國西國及ヒコロソビヤト締盟セル者ハ皆平和ノ間ハ條約國ノ第三者タル國ト干戈ヲ

交ユル時各條約國ノ市民若クハ臣民ハ第三者國ヨリ捕拿狀ヲ受クルヲ禁シタリ又國法ハ外國ヨリ捕拿ノ委任令ヲ受クルヲ禁ズル事アリ之ヲ例セハ英國及合衆國ノ法律ハ委任ヲ受テ外國戰爭ニ從事スル捕拿船ヲ艦シ人衆ヲ徵募スル者ハ嚴罰ニ處スルコト、爲セベナリ

○出港停止 外船徵發

出港停止ト曰ヒ外船徵發ト曰フハ皆是レ各國政府カ自國ノ船籍ニ掛ルト外國ノ屬船タルトヲ問ハス一般ノ商船ニ施行シ得ル所ノ法方ニシテ其法方各異ナリト雖モ皆是レ貿易ノ自由ヲ妨礙スル者ナリトス出港停止ハ戰時ニ於テハ其港内ノ碇泊船ニ對スル主權ノ一行爲ニシテ平時ト雖モ戰機豫察ノ爲メ或ハ反掠法方トシテ同盟敵國若クハ中立トノ船舶ヲ問ハズ若干ノ期限其積荷ト俱ニ其出港ヲ停止ス然レトモ之ヲ強制シテ實戰ニ從事セシムルヲ得ス

出港停止ニ關スル一般ノ目的ハ事機發漏ノ道ヲ防クニ在リ而シテ其施行國ノ利益ハ出師ノ準備反逆若クハ國君及主權者ノ死亡ノ如キ秘密ヲ保ツニ在リ國家ノ公義及權利ハ各國全ク獨立ナルカ故ニ相互ニ此法方ヲ認可スルヲ能ハス是ヲ以テ國際條約ニ於テハ大抵各國船舶ノ出港停止ハ信號ヲ用ヒテ之ヲ擔保スベキ條約ヲ記載セリ史乘ニ據レハ此約條ハ常ニ遵奉セラレサルヲ徵セリ千八百六十六年及千八百七十年乃至七十一年ノクリミア戰爭ニ於テ歐洲各國ノ政府ハ出港停止ノ方法ニ倚賴セザリキ敵國ノ船舶ニ出港停止ヲ免除スルニ依テ敵國モ亦其必用ノ時ハ何時ニテモ其本國ニ歸國スルコトヲ許可シタリ出港停止ハ時アツテ宣戰令以前ニ施行シ之ヲ以テ二國間開戰ノ豫報ト爲シ若シ其事件カ平和ニ双方ヲ停調スルニ至ラハ之ヲ解除スル者トス

出港停止ハ外船徵發ノ如ク局外中立國ニ損害ヲ與ヘス假令之ヲ拘留スト雖モ軍役ニ使用シ危險ヲ冒スコトヲ強制セス故ヲ以テ其所有主ニ賠償スルノ慣例之ヲキナリ出港停止ニ關スルニ新例アリ一ハ千八百一一年六月十四日ニ英國カ其國內諸港ニ碇泊スル所ノ丁抹瑞典及露西亞ノ船舶ニ施行シ千八百一一年ノ海上條約ニ依テ僅ニ之ヲ結了シタリキ一ハ千八百三十二年十一月七日ニ佛國カ和蘭國ノ船舶ニ施行シテアントワルプ城ヲ畧シタル後ニ之ヲ解除シタル者是ナリ近世ノ國際條約ノ慣例ハ同盟國ノ臣民ヲ擔保スル條件ニ就キ其臣民ノ諸外國ニ貨物ノ陸揚若クハ運搬スルニ十分ナル時間ヲ附與スルヲ規定セリ

外船徵發ハ交戰國カ港内又ハ海上ニ施行スル外國船ノ徵發法ニシテ之ヲ購欺シ之ニ報酬ヲ與ヘ其方法ノ專制ナルヨリ詮方ナク其中立タ

ルニ拘ラス兵士戎器及彈藥ノ運漕ノ如キ軍役ニ虐使セラル、者ナリ
外船徵發法ハ之ヲ施行シタル船舶ヲ軍役ニ使用スト雖出港停止法
ハ軍役ニ使用セス外船徵發法ハ之ヲ港内及海上ニ在ル所ノ一切ノ船
舶ニ施行スト雖モ出港停止法ハ大抵唯一國ノ船舶ニ限ル者ニシテ常
ニ反掠ノ性質ニ基ツク所ナリ普國政府ハ千八百七十年乃至七十一年
ノ戰爭ニ於テローウエルセイニ碇泊セシ所ノ英國船六艘ヲ擊沈シ
同政府ハ直ニ其船舶所有主ニ損害賠償ノ義務ヲ負フコトヲ認承シタ
リキ

佛人オートフエルハ其著局外中立論ニ於テ前世期及第十九世期前半
ノ公法家ニシテ出港停止及外船徵發ヲ一法律若クハ正當防禦ノ一法
ナリト認承シタル者ヲ駁撃セリ夫レ習慣ハ多年來實際ヲ支配セリト
ハ眞理ナリ然リト雖此法方ノ不正當ニシテ公義及道德ノ意思ニ反

對シタルコト瞭然タリ又其國ノ各港ニ碇泊シ此ニ貿易スルコトヲ許
否スルハ是レ其主權ニ屬スル不可侵權力ナリ然トモ其船舶カ一タヒ
此ニ貿易及碇泊ヲ許可セラレタル已上ハ外船徵發法ニ依ツテ使命セ
ラル、如キ役務ヲ賦課スルハ是レ專制ノ行爲ナリ一外國ノ行爲ニ據
テ交戰國カ其國港ニ碇繫スル船舶ノ局外中立ノ破棄ヲ承認スルカ如
キ條約ハ存在セサルナリ是ヲ以テ外船徵發ノ場合ニ於テハ出港停止
ノ場合ニ於ケルカ如ク各種ノ國際條約ニ於テ同盟國ニ屬スル所ノ船
舶ハ捕拿セラレサルコトヲ約束スベキナリ外船徵發ハ權力ノ濫用ヨ
リモ權利ノ使用ヲ減スル者ナリトス

外船徵發法ニ據ツテ虐使セラレタル中立船舶ニシテ若シ敵軍ノ爲メ
捕拿セラレタル時ハ其沒收ヲ免カルベキヤ否ヤノ問題アリ獨人ビユ
フチルハ之ヲ是認セリ然レトモ此說ニ同意スル者アルナシ捕拿者ハ

中立船舶カ敵國船舶ニ變更シタル理由ヲ搜索スルコトハ得テ望ムベカラサル所ニシテ如是ノ境遇ニ依ツテ捕拿セラレタル船舶ハ常ニ公平ナル捕拿物ナリト謂ハサルベカラス

○避難權

避難權トハ人民ノ警敵ヲ避ケテ逃遁シタル場所若クハ其政府ガ法律上ノ權利即チ裁判ニ因テ追求スル時其絕對的ニ犯ス可ラザルノ地ヲ云フナリ

古今ノ歴史ヲ通觀スルニ古代ノ人民中ニハ宗教上ヨリノ斯ノ如ク神聖トセラレタル避難地ナルモノアリタリキ然レモ常ニ神聖ノモノト視做サレザル場合アリシ彼ノポーサニアスハミナヅマ寺院中ニ幽閉セラレ又アンテパーターハデモスセニースヲ曳出サンガ爲メ其軍隊ヲ水神偶像ノ下ニ送りシガ如キ是ナリ中世ニ降リテ寺院ハ屬國地内

ニ數多ノ避難所ヲ開キタリ是レ其屬國地内ニ於ケル寺院ハ專制的裁判權ヲ行フ所トナリ其神聖ヲ侵スコト遙ニ他ノ異教寺院ヨリモ鮮少ナリシ而シテ今吾人が茲ニ論究セント欲スル所ノモノハ此種ノ避難地ニ非ズシテ異域ニ在ル逃遁者カ求ムル保護ニシテ即チ其君主國民ノ神聖ナルノ理ニ基キタル者ナリ

今夫レ古代ノ國民及ヒ現今歐洲人民ノ歴史ヲ考究スト雖モ一般ノ使用ヲ確定シタル避難權ノ説ニ關スル原則ヲ看得スヘカラス勿論其本國ヨリ追逐セラレタル者ハ孰レノ時代ヲ問ハズ首尾能ク外土ニ避難スルコトヲ得然レモ若シ其逃遁者ガ避難セル國ニ弱小ナレハ則チ之ニ對シテ其逃遁者ノ引渡ヲ請求シテ兵力ヲ用弗ルコト屢之アリ加之其軍ハ其不幸者ニ隨ヒ避難地ニ入ルコトヲ見ルナリ夫レ斯ノ如キ暴行ハ輿論ノ痛撃スル所トナリ又斯ノ如キ行爲ハ正義道德ノ真正原理

ニ反セルモノナリト主張セラル、コトハ是レ事實ニシテ文明ノ進化、スルニ從ヒ且又國際交際ノ整頓スルニ從ヒ國民自立主義ハ益々世人ノ了知スル所トナリ從ヒテ之ヲ遵奉スルニ至リ乃チ之カ爲ニ規則ヲ制定シ決シテ不可犯者ト謂フヘキナリ凡ソ孰レノ國ヲ問ハズ外國人ニ對シテ一般ニ其疆土内ニ入ルコトヲ拒絕スルモ不可ナキ者ニシテ彼ノ裁判ヲ避ク逃避シタル者ノ如キハ特ニ然リトス然レモ仁惠的意恩ヨリシテ各國共ニ容易ク逃避者ヲ許容シ殊ニ政治主義ノ異ルヨリ逃避シタル者ノ如キハ條件ヲ設ケテ其國ニ入りテ疆内ニ留ルコトヲ許可スルナリ

夫レ國家ノ革命ハ其國民ヲシテ其本國ヲ逃去セシムル者ニシテ其逃來セシ國ニ於テ之ヲ拒絕シテ容レザルガ如キハ亦殘虐ノ行爲ト謂フヘキナリ而シテ其流寓者ニシテ其威嚴ト其沈肅トヲ保チ其失敗シタル黨派ヲ恢復スル爲メ謀反ヲ企ツルカ如キコト無ムハ則チ其款待ヲ受クルコトヲ得且ツ又其補助ヲ要スル場合ニハ其國力ヲ藉ルコトヲ得ルナリ然レモ其流寓者ニ反對ノ方策ヲ施サル、コト往々之アリ乃チ其逃避者ニシテ武器ヲ有スル時ハ之ヲ奪收シテ一定ノ地位ニ分配シ其地ノ範圍ヲ超脱スルコトヲ禁シ其所在地至ル所ニ之ヲ嚴警シ或ハ其政府ノ保護ヲ濫用シテ國際上ノ關係ヲ訂結スル時ニ之ヲ放逐スルコトアルナリ

今人アリ避難センコトヲ求ムルニ當リ若シ其人ニシテ法律上ノ犯罪ノ有ルガ爲メニ逮求セラレ、時ニ其罪ノ一般ノ德義ヲ破リ且ツ人身或ハ財産ニ影響スルモノナレハ其求メニ應シテ避難セシムルコト甚ダ鮮少ナリトス故ニ若シ犯罪ノ爲ニ追求セラレ或ハ非難セラレタル人民ニシテ外國ニ避難スル者ハ其本國ノ請求ニ應シテ之ヲ引渡シ法

律ニ因テ處分セラル、トハ通常ノ慣例ナリトス乃チ此ノ如キ事項ニ
關シハ歐洲國民中ニ互ニ條約ヲ結ベルモノ夥キヲ見ルナリ今二三ノ
例外ヲ存シテ之ヲ酷論セハ其外國ニ於テ避難地ヲ有スベキモノハ唯
政治上逃遁者アル而已乃チ此等ハ神聖ノモノト視做サレ且ツ右ニ述
タルガ如キ唯豫戒策ニ從フアルノミ素ヨリ其政治上逃遁者ニ對シ保
護ヲ與フル君主ハ其逃遁者ニ對シ寛大ナル待遇ヲ爲スト雖モ其逃遁
者ヲ非難スル國民ニ對シテ君主自身ガ行フベキ義務ヲ有スルモノニ
シテ且縱令其人々ヲ保護スト雖モ君主ハ己カ親交スル政府ニ反對ス
ル資力ヲ以テ其人民ニ與フルコト能ハズ亦爲ス可ラザル所ノモノナ
リ此ノ點ニ關シテ佛國ハ歐洲人民中最モ善良ナル處分法及ヒ法律ヲ
有スルモノニシテ其國ノ定ムル所ニ據レハ則チ歐洲各國何レノ人民
ヲ問ハス革命ノ爲ニ其國內ニ逃亡シタル者ハ寛大ニ之ヲ容ル、ナリ

故ニ西班牙伊太利波蘭土及ヒ其他ノ國民ハ佛國ニ避難シテ其國庫ヨ
リ非常ナル補助ヲ受ケタリキ然レモ此逃遁者ハ度外ノ性質ヲ有シタ
ル警察規則ニ違フベキモノトセラレタリ而シテ又佛國ハ反對ニ其自國
ヲ逃亡シタル人ハ其自國ヲ害スル權力ヲ剝奪セラレタル者ナルトテ
外人ニ知ラセシメタリ余ハ彼ノモンテペロ公ガ一千八百三十六年瑞
西同盟國會ニ於テ述べタル有名ノ演告並ニ佛軍ノ爲ニ瑞西國ガ蒙リ
タル封港ヲ追想シテ茲ニ贅辨ヲ費スノ必要ヲ見ザルナリ乃チ瑞西國
政府ハ從服シ其秘密會ハ解散セラレ而シテ諸外國ノ逃亡者ノ數多ノ人
民ハ國外ニ放逐セラレタリ而シテ他ノ歐洲國民ニ於テモ其人數ノ極
メテ鮮少ナル場合ノ外ハ其行爲皆チ此ト同一原理ニ基キ定メラル、
モノトス故ニ避難權ナルモノハ今日ニ於テハ一般ノ習慣上裁許セラ
レタル公權ト謂フベキモノナリ

然ラハ則ハチ其避難權ヲ請求シ得ル者ハ唯ダ其外國ノ一土地ノミニ限ラズシテ其國ニ屬スル船舶或ハ其國旗ヲ掲ケル商船ニ於テモ亦之ヲ爲スコトヲ得ル者ナリト推論スルモ不適當ニ非ザルベシ此ノ如キ場合ニ於テハ少シク差異アリト雖トモ已ニ陳述シタル規則ニ據テ處理スルモノナリ今之ヲ詳述センニ若シ船舶ニ對シテ避難ヲ請求セラ、時ハ其艦長ハ法律上自國政府ヲ代表スルモノナルヲ以テ其事機ニ應シテ之ヲ拒絕スルモ之ヲ許可スルモ其權内ニ在ルモノナリ若シ其艦長ガ避難請求者ニシテ實際上罪人タル時ハ之ヲ拒絕シ若シ政治上逃亡人或ハ宗教的追求人ナレハ之ヲ容ル、ナリ商船々長ニ於テモ亦之ト全一ノ手續ヲ取ルベキモノトス

凡ソ海軍艦長並ニ商船船長ハ其許可ヲ經スシテ妄ニ其船艦ニ闖乘シ或ハ其指揮ニ從テ其船艦ノ靜肅ヲ得ント約束スル者ニ非ラサレハ都

テ之ヲ追放スルコトヲ得ルナリ若シ大洋ニ於テ逃遁者カ船中ニ乗込タル場合ニハ其船長ハ唯其自國政府ニ對シテ責任ヲ有シ其逃遁者ノ所屬國ノ政府ニ於テハ唯適當ナル外交上ノ手續ニ因テ其逃遁者ヲ請求スルコトヲ得ルモノナリ

然レモ若シ其乘船場所ニシテ逃亡者ノ所屬國ノ港内或ハ海邊ニ接近地ナル場合ニ於テハ全ク同一ナラザルナリ故ニ若シ其艦長ニ於テ其逃亡者ニ對シ避難ヲ許容シタル者ナラシメハ則チ其逃亡者請求ハ同ク外交上ノ手續ニ因ルモノトス是レ其國ノ船舶ハ十分ニ治外法權ヲ享受スルモノナレバナリ然レモ商船ハ斯ノ如ク特權ヲ有セザルモノナルカ故ニ地方官吏ハ乘船シテ逃亡者ヲ搜索シ之ヲ禁錮スルノ權利ヲ有スルモノナリ而シテ之ヲ行フニハ禮儀ヲ盡シテ之ヲ爲スヘキモノニシテ豫メ其船ニ至ルコトヲ報知シ又其船舶所屬國ノ議會ニ對

シ豫メ其勸解ヲ爲スノ手續ヲ通知スヘキモノトス
 之ヲ歴史ニ徵スル時ハ公使或ハ外國大臣ノ邸宅内ニ其避難所ヲ爲セ
 ルモノアリ乃テ此等ノ場合ハ是レ各國民中ニ重大ナル論題ヲ生ゼシ
 ムルノ基ナリ是ヲ以テ現今ハ大使公使及領事ノ邸宅ハ戰爭或ハ一揆
 ノ時ニ於ケル外交官ノ避難スル場合タルニ過ギザルナリ而シテ此人
 々ハ實際ニ其本國ヲ知ラシメ其國旗ノ下ニ避難スルモノナリ

○戰時禁賣品

凡ソ戰時禁賣品ノ貿易禁止ハ是レ國際公法ニ據テ局外中立國ノ商業
 ニ課スル所ノ制限ナリ今之ヲ概論セハ商業ナルモノハ是レ局外中立
 國相互ノ間並ニ局外中立國ト交戰國トノ間ニ於ケル交際上ノ自由ニ
 屬スル者ナリ然レモ其商業ハ局外中立トシテ介立シ戰爭ニ干涉スル
 コト無ク其性質其目的一トシテ平和的タラザル無キ場合ノミ自由タ

ルモノニシテ若シ其商業ニシテ軍需ヲ供給スル時ハ其自由條件ハ破
 棄セラル、モノナリ乃チ此場合ニハ敵國救助ノ性質ヲ帶ブ故ニ其商
 業ハ局外中立ノ權利ヲ要求スルコト能ハズシテ其局外中立ノ性質ハ
 已ニ拒否セラレ又喪失セラル、モノニシテ其貨物ハ是レ敵國ノ貨物
 トシテ或ハ戰時禁賣品トシテ處分セラル、者ナリ故ニ此戰時禁賣品
 ナル觀念ノ定義ニ對シ特別條約ノ必要ヲ見ザルニ至ルナリ此觀念ハ
 即チ是レ其物品並ニ局外中立タルノ性質ニ全ク關スルモノナレバナ
 リ
 夫レ戰時禁制品說ニシテ若シ國際公法全軀中ニテ最モ不確定ノモノニ
 シテ且ツ最モ爭論ヲ生シ易キモノトセンカ是レ其戰時禁賣品ニ適用
 スル原理ノ實際適用ハ常ニ其交戰國ノ海上方ニ頼ル者ニシテ若シ其
 權力強大ナル邦國ハ成ルベク禁賣品ノ意義ヲ擴張シテ以テ自國ノ利

益ニ適セシメ之ト同時ニ弱國ニテハ其意義ヲ制限シ其丈ノ利益ノミ
 ヲ受クルモノナル事實ニ基クモノナリ
 今之ヲ古今ノ歴史ニ徵スルニ往古ニ於テハ各交戰海國ハ其開戰ノ始
 ニ於テ如何ナル貨物ヲ戰時禁賣品ト爲スベキヲ宣言スルヲ以テ習慣
 トセリ然レモ現今ニ於テハ斯ノ如キ宣言ヲ爲スコトナク特別ノ場合
 ニ於テハ其物品ノ果シテ戰時禁賣品ナルカ否ヤノ裁決ヲ爲スニ當テハ
 之ヲ捕獲審檢所ニ委スルナリ然レモ斯ル場合ニ於テ捕獲審檢所ハ條
 理アル權限ヲ超過シ判決ス可ラザルモノナリ是レ局外中立國ナルモ
 ノハ其問題トナル邦國ニ對シ開戰理由ナルモノガ國際公法ニ孰レガ
 長レルカヲ判決スルノ權利ヲ有スレバナリ
 今此理由ニ基キ物品ノ性質ニ就キ禁賣品タルヤ否ヤノ爭論ハ決シテ
 戰後ニ生セザルノ頁結果ヲ來スニ至リタリ然レモ亦一方ヨリ觀察ス

ル時ハ此條件ノ存在スル間ハ理論上ニ於テ一般ニ適用セラル、規則
 ニ基キテ其貨物ノ戰時禁賣品ナルト否ラザルトヲ決定スルコト能ハ
 ザルニ至ル故ニ現今適用セラル、原理ヲ説明シ且輒近ニ於テ議論ト
 ナリタル物品ハ何ナルカヲ述ベ此ニ因テ理論ヲ満足セシメザル可ラ
 ザルナリ

凡ソ軍需ハ是レ戰時禁賣品ナリ然レモ其軍需トハ何物ナルヤクロー
 シユース氏ノ言ヘルガ如ク各人が認メテ以テ軍需ト爲シ從テ戰時禁
 賣品タルモノモアルナリ今此類ヲ舉グレハ即チ兵器戰爭用器具殊ニ
 軍艦及ヒ戰時用材料等ニ又彈藥製造ニ使用スル成分ノ如キモ亦此
 中ニ包含スルナリ而シテ亦一方ニハ各人ノ認メテ以テ平和ノ者ト爲
 ス物品アリ而シテ此目錄中ニハダナ氏ノ言ヘルガ如ク洋琴及ヒ祈禱
 書等ノ附屬セザルノミナラズ又商業品タル綿類等ノ如キ大數ノ者モ

此中ニ在リ然レトモ物品ニ因リテハ其目的ノ果シテ是レ平和的ノ者ナルカ或ハ戦争用ノ者ナルカノ決定ニ疑團ヲ生ズルモノアリ是ノ如キ物品ノ裁決ハ重ニ捕獲審檢所ノ公平ナル判決ニ基クモノナリ而シテ此場合ニ於テ毫モ疑惑スル所ナクシテ其物品ヲ用弗ル意向ガ戦争ノ目的ニ出テタルコトヲ證明セシムルノ事情アル時ハ其捕獲審檢所ニ於テハ毫モ局外中立國ノ關涉ヲ受クルノ虞ナクシテ其船貨ヲ罰スルコトヲ得ルナリ故ニ實際此ノ場合ニ於テハ多數ノ理論家が攻撃スル所ノ彼ノ偶然ノ出來事ニ因テ生ズル禁賣品ナルコト成立スルナリ而シテ其使用ニ疑義アル物品即チ所謂兩面の使用ヲ爲ス所ノ者ニシテ現今最モ議論ノ厯囂タルモノハ鐵、鋼鐵、蒸氣機關、汽罐、汽船、石炭、馬匹、金貨及ビ食品等是ナリ余ハ今此議論ニ付キ之ヲ詳論スルコト能ハスト雖モ唯ダ其交戰國ト局外中立國トノ間ニ於テ一定ノ規約無キ時ハ

食品ノ如何ナル種類ニモ拘ハラズ十分ニ之ヲ押領スルニ於テハ之ニ異論ヲ唱フルコトヲ得ルモノナリト謂フニ止ルノミ現今實行スル所ノ規則ニ從ヘハ局外中立國ニ其人民ノ戰時禁賣品ノ貿易ヲ爲スモ之ヲ禁止スルノ義務無キ者ナリ乃チ局外中立國ニ於テハ其貿易品ハ縱令交戰國ニ於テ之ヲ沒收スト雖モ之ヲ放却スルニ止ルノミ

交戰國ニ於テハ若シ局外中立國船ニ敵國ニ對シ戰時禁賣品ヲ輸送セントスル時ハ其貿易ニ關涉スルノ權利ヲ有スルモノニシテ即チ其ノ場合ニ於テハ其船舶ハ必ズ押奪セザル可ラザルナリ然トモ若シ其船貨ヲ賣却シタルモノハ其歸航ノ時之ヲ掠奪ス可ラザル者ナリ

凡ソ禁賣品ヲ輸漕シタル船舶ヲ押奪スルノ結果ハ捕獲審檢所ノ規則ニ據ツテ其船貨ヲ沒收セラレ、モノナリ而シテ若シ其局外中立國船ノ船長ニシテ其禁賣品ヲ讓與スル時ハ其航海ニ妨害ヲ受クルヲ無キ

モノトス然レモ若シ其讓與ヲ拒ム場合ニ於テハ之ヲ捕獲審檢所ニ出
 訴セザル可ラズ然レモ其禁賣品ハ之ヲ強奪スヘカラザルモノトス
 又戰時禁賣品ニ非ザル船貨ノ沒收并ニ船舶ヲ沒收ハ其船主或ハ其荷
 物積込人ニ於テ禁賣品ノ輸送ナルコトヲ知レル時ニハ之ヲ施行スル
 コトヲ得ルモノトス
 又禁賣品ト同シク敵國ノ爲メ軍隊或ハ急使ノ輸送ノ如キモノアリ今
 之ヲ英國ノ習慣ニ照セハ若シ局外中立國船舶ニシテ斯ノ如キ勤務ヲ
 承諾スル時ハ其船舶ハ沒收セラルベキモノナリ是レ其敵意ヲ明示ス
 ルノ所爲ニシテ局外中立タルノ資格ヲ喪失スルモノナレバナリ英國
 海軍裁判所ニ於テハ其船舶ニシテ斯ノ如キ勤務ヲ強制セラレタルモ
 ノナリトノ辯疏ハ決シテ允許セザルナリ若シ敵國ニシテ局外中立國
 船ヲ強テ其局外中立國ノ法律ヲ破ラシムル時ハ其船主ハ其自國ノ煤

介ニ頼テ其敵國政府ノ官吏ニ對シ損害賠償ヲ請求セザル可ラザルナ
 リ而シテ一方ノ交戰國ニ於テハ其局外中立ノ資格破壞セラレタル時
 ハ之ヲ以テ單純ニ局外中立資格ノ破壞ト爲シ之ニ由テ其方針ヲ取ル
 モノトス是レ其脅迫ノ爲ニ破壞ノ行爲ヲ爲シタリトノ辯疏ヲ許セハ
 則チ一切ノ禁止權ヲシテ無用ニ且ツ不確ニ歸セシムルヲ以テナリ

○戰時禁賣品ノ種目

戰時禁賣品ノ種目に關スル學者ノ所說固ヨリ種々ノ見解アルト雖モ
 未タ各國ノ間ニ國際公法上ノ拘束力ヲ有スヘキ一定ノ規則ナキカ故
 ニ甲國ノ認メテ以テ戰時禁賣品トナスモノ乙國之ヲ認メサルモノア
 リ甲乙兩國ノ條約ニ於テ認ムルモノ乙丙兩國ノ條約ニ於テ認メサル
 モノアリ甚シキニ至リテハ甲乙兩國ノ條約ニ於テ認ムルモノ乙丙兩
 國ノ條約ニ於テ認メサルモノアルニ至ル故ヲ以テ未タ通則ナルモノ

之レアラサルナリ英國主義ハ戰爭用ニ供スルコト明白ナル時ハ之ヲ
正當ニ捕獲スルコトヲ得ヘシトナシ佛國主義ニ於テハオルトラン等
ノ説ノ如ク武器軍用品及ヒ武器ノ必須附屬品ニ限ルト爲セリ然モ平
時使用スルモノニシテ直接ニ戰爭用ニ供セラル、モノニ至テハ學者
間疑ヲ挾ム者少ナカラス又實際ニ於テモ常ニ争ヒノアル所ナリ左ニ
指摘判定スベシ

第一馬匹 英佛兩國ハ馬匹ヲ以テ戰時禁賣品トナス唯英國ハ露國ト
ノ條約ニ於テ之ヲ加ヘス又米國トノ條約ニ於テ乘馬ノミヲ加ヘタリ
キヘフテルノ如キハ馬ヲ以テ必スシモ禁賣品ト爲スヘカラスト論セ
リ然レ一切ノ馬疋ヲ以テ禁賣品トナスコト至當ナルヘシ蓋シ馬疋ニ
シテ禁賣品ト見ラル、コトナクハ交戰國ノ一方ハ之カ爲メ戰時ニ
非常ノ損益ヲ受クルノ結果ヲ生スヘケレハナリ

第二石炭 クリミヤ戰爭ノ當時ニ於テ英露兩國ハ之ヲ禁制品トナシ
タリト雖モ佛國ハ之ニ反セリ日清戰爭ノ當時日本ハ敵ノ陸海軍ニ到
達スベキ場所又ハ敵國ノ津港ニ到達スルモノニシテ其到達如何ニ依
リ敵ノ陸海軍用ニ供スヘキモノト認ムヘキ場合ニ限り禁制品トナス
ト定メタリ露國ハ曰ク石炭ハ工藝産業ニ一日モ缺クヘカラサル必要
品ナリ然ルニ若シ之ヲ以テ禁制品トナサハ國家工業ノ進歩ヲ阻碍ス
ルコト極メテ多カルベシ故ニ交戰國ノ軍港又ハ軍隊ニ輸送スル場合
ノ外ハ之ヲ禁制品ト爲スベカラスト蓋シ肯綮ニ中ルト謂フベシ
第三糧食 糧食ハ禁賣品ト視做サ、ルヲ以テ原則トス蓋シ人間平和
ノ生活ニ於テ一日モ之ナカルヘカラサル者ナレハナリ英國ノ如キ元
ヨリ此主義ヲ執リタルニ拘ハラス千七百九十三年佛國ト開戦スルニ
及ソテ米國ノ反對アリタルニ關セス英國ハ佛國ノ糧食ヲ盡シテ戰勝

ヲ博セシトスルノ策ヲ執ルナリト唱道シ糧食ヲ禁制品ナリトナセリ
 第四貨幣 貨幣ハ輸出入ノ媒介トシテ缺クヘカラサルモノナリ平和
 的輸出入ハ萬國ノ交際ヲ尋ムルモノナリ然ラハ則チ貨幣ノ輸入ヲ禁
 スルコトハ反面ヨリ之ヲ見レハ平和的ノ關係ヲ杜絶セントスル者ニ
 アラス况ンヤ軍用ノ媒介ヲナスカ將タ平和行爲ノ媒介ヲナスカ未タ
 豫知スヘカラサル所ナルニ於テヤアルンチユリーモ條約ニ特別約
 定アルニ非ラスンハ之ヲ禁制品トナスコト能ハスト論シクフケンモ
 亦之ト同一ノ意見ヲ述ヘタリ
 第五船材 船舶ノ製造ハ交戰國ヲ利スルコト極メテ著大ナリ從ツテ
 船材ノ交戰國ヲ利スルコトモ亦著大トナス然リト雖モ檣帆布綱具松
 脂ノ如キハ其未製品ナル場合ニ於テハ禁制品ト視做スコトナク輸出
 國ノ國産ニ係リ或ハ輸出國人民ノ所有ニ係ル時ハ之ヲ沒收スルコト

ナク賣買ヲナスコト各國ノ慣例ナリトス唯佛國及瑞典ノ二國ハ此等
 ノ諸品ヲ禁制品ナリト視ルコトナシ

第六船舶 船舶ニシテ拿捕ノ用ニ供シ戰鬪ニ關スル用務ヲ充ス時ハ
 禁制品ト視做スコト決シテ不可ナルコトナシ然レ開戰前局外中立宣
 告前ニ發航シタル船舶ニ對シ抑留ヲ加フルハ不當ナリトス

第七硝石硫黃 此二者ハ錯雜ナル工作ヲ加ヘスンハ軍用器トナスコ
 ト能ハストノ理由ヲ以テ禁制品ニ非ラストノ説アリト雖トモ未タ一
 般ニ行ハル、所ニ非ラス

已上七種目ノ外ニ戰時禁制書及戰時禁制人アリ戰時禁制書トハ敵國
 政府ノ官吏間ニ往復スル一切ノ公文書類ヲ謂ヒ我捕獲規程第九條ニ
 敵國外交官及領事官ト本國政府トノ間ニ往復スル公文書類ハ戰時禁
 制品トナスコトヲ得スト規定シ戰時禁制人トハ現ニ敵國ノ軍事ニ從

フ者ノミナラス將來ニ於テ上陸ノ後ニ軍事ニ從フ者ヲモ謂フ我捕獲
 規定第八條ニ戰時禁制人トハ敵兵其他敵國ノ軍事ニ從フ者ヲ謂フト
 規定セリ蓋交戰國地方ノ戰爭行爲ヲ幫助スルノ虞アレハナリ
 禁制品ノ輸送先ハ交戰國タラサルベカラス蓋禁制品ナルモ中立國ニ
 取引スル者ナレハ交戰國ハ毫モ痛痒ヲ感セス要スルニ船船ノ禁制品
 ナ搭載シ一方ノ交戰國ニ輸出スル意思ヲ以テ發航シタル時ハ之ト俱
 ニ禁制品タルノ罪成立スル者ナルカ故ニ未タ目的地ニ到達セサル以
 前ト雖也之ヲ捕拿スルコトヲ得假令他船ニ移載シタル場合ニ於テモ
 此制裁ヲ免ル、コト能ハサルモノナリ戰時禁制品ノ所有主ト船舶所
 有主トカ同一人ナル時ハ船舶ヲモ併テ之ヲ沒收スベク船舶所有主カ
 禁制品ノ搭載ヲ承諾シタル時ニ於テモ亦併セテ沒收スヘキモノトス
 戰時禁制品ノ制裁ニ類スル先買ナル者アリ此權利ハ本來ノ禁制品ニ

對シテ與フル者ニ非ラスシテ時ト場合トニ依リ禁制品ト同一視スヘ
 キ者ヲ強買スル所ノ方法ヲ謂フナリ

○海戰條約

我允文允武ナル 天皇陛下ハ千八百六十四年八月廿二日シニツア
 條約ノ原則ヲ海戰ニ應用セラル、叡慮ヲ以テ獨逸國外廿有六國ト俱
 ニ海戰條約ヲ締盟セラレタリ實ニ戰鬪ノ慘害ヲ輕減セラルノ至仁ニ
 出テタル者ナリ其條約書ハ明治三十三年十一月二十一日ヲ以テ公布
 セラレタリ其文左ノ如シ

獨逸國普魯西國皇帝陛下、埃地利國ホヘミヤ國洪牙利國皇帝陛下、白
 耳義國皇帝陛下、清國皇帝陛下、丁抹國皇帝陛下、西班牙國皇帝陛下、并
 同皇帝陛下ノ名ヲ以テスル攝政皇后陛下、亞米利加合衆國大統領、墨
 西哥合衆國大統領、佛蘭西共和國大統領、大不列顛及愛蘭聯合王國兼

印度國皇帝陛下、希臘國皇帝陛下、伊太利國皇帝陛下、日本國皇帝陛下、
 盧森堡國大公ナツソト公殿下、モンテネグロ國公殿下、和蘭國皇帝陛下、
 下、波斯國皇帝陛下、葡萄牙國及アルガルヴ皇帝陛下、羅馬尼亞國皇帝
 陛下、全露西亞國皇帝陛下、塞爾比亞國皇帝陛下、暹羅國皇帝陛下、瑞典
 諾威國皇帝陛下、瑞西聯邦政府、土耳其國皇帝陛下、及勃爾牙利國公殿
 下ハ共ニ其ノ力ノ及フ限リ戰鬪ニ避クベカラザル慘害ヲ輕減セム
 コトヲ冀望シ此ノ目的ヲ以テ千八百六十四年八月二十二日ヨエテ
 ヲア條約ノ原則ヲ海戰ニ應用セムト欲シ之ガ爲條約ヲ締結スルコ
 トニ決定シ各、左ノ全權委員ヲ任命セリ

(委員氏名省略)

獨逸國、普魯西國、奧地利國、ホヘミヤ國、洪牙利國、白耳義國、清國、丁抹
 國、西班牙國、亞米利加合衆國、墨西哥合衆國、佛蘭西共和國、大不列顛

及愛蘭聯合王國、兼印度國、希臘國、伊太利國、日本國、盧森堡國、モンテ
 ネグロ國、和蘭國、波斯國、葡萄牙國及アルガルヴ、羅馬尼亞國、全露西
 亞國、塞爾比亞國、暹羅國、瑞典、諾威國、瑞西聯邦、土耳其國、勃爾牙利國
 因テ各全權委員ハ互ニ其ノ委任狀ヲ示シ其ノ良好妥當ナルヲ認メ
 以テ左ノ諸條ヲ協定セリ

第一條 軍用病院船即チ傷者病者及難船者ヲ救護スル唯一ノ目的
 ヲ以テ政府ニ於テ製造シ又ハ設備スル船舶ニシテ戰鬪開始ノ際
 又ハ交戰中其ノ之ヲ使用スルニ先チ船名ヲ交戰國ニ通告セラレ
 タルモノハ交戰中之ヲ尊重スベク捕獲スルヲ得ザルモノトス
 前項ノ船舶ハ中立港内ニ碇泊スルコトニ關シテモ亦軍艦ト同一
 視セララル、コトナシ

第二條 一個人又ハ公認セラレタル救恤協會ノ費用ヲ以テ全部又

ハ一部分ヲ艦裝シタル病院船ニシテ其ノ所屬交戰國ヨリ之ニ官
ノ命令ヲ付シ且戰鬪開始ノ際又ハ交戰中其ノ之ヲ使用スルニ先
チ船名ヲ敵國ニ通告セラレタルモノハ亦均ク尊重セラレ捕獲ヲ
免ル、モノトス
前項ノ船舶ハ其ノ艦裝中及最後出發ノ際當該官廳ニ於テ監督シ
タルコトヲ證明スル文書ヲ携帶スベシ

第三條 中立國ノ一個人又ハ公認セラレタル協會ノ費用ヲ以テ全
部又ハ一部分ヲ艦裝シタル病院船ニシテ若シ其ノ所屬中立國ヨ
リ之ニ官ノ命令ヲ付シ且戰鬪開始ノ際又ハ交戰中其ノ之ヲ使用
スルニ先チ船名ヲ交戰國ニ通告セラレタルモノハ尊重セラレ捕
獲ヲ免ル、モノトス

第四條 第一條第二條及第三條ニ掲ゲタル船舶ハ交戰國ノ傷者病

者及難船者ヲ其ノ國籍ノ如何ニ關セズ救護扶助スベシ
各國政府ハ右船舶ヲ何等軍事上ノ目的ニ使用セザルコトヲ約定
ス

右船舶ハ決シテ戰鬪者ノ運動ヲ妨碍スベカラズ
右船舶ハ戰鬪中ト戰鬪後トヲ問ハズ自ラ其ノ危險ノ責ニ任シテ
行動スルモノトス

交戰國ハ右船舶ニ對シ監督及臨檢搜索ヲ爲スノ權利ヲ有シ助力
ヲ拒絕シ其ノ離隔ヲ命令シ其航行スベキ方向ヲ示命シ且其ノ船
中ニ監督員ヲ乗込マシメ若重大ナル場合ニ於テ必要ト認ムルト
キハ之ヲ抑留スルコトヲ得ベシ
交戰國ハ病院船ニ下シタル命令ヲ成ルベク該船ノ航泊日誌ニ記
入スベシ

第五條 軍用病院船ハ其ノ外部ヲ白色ニ塗り幅約一メートル半ノ綠色ノ横筋ヲ施シテ之ヲ標識スベシ

第二條及第三條ニ掲ゲタル船舶ハ其ノ外部ヲ白色ニ塗り幅約一メートル半ノ赤色ノ横筋ヲ施シテ之ヲ標識スベシ

救護用ニ供セラルベキ小船類及前二項ノ船舶ニ附屬スル端舟ハ各前二項ニ準シテ塗色シ以テ之ヲ標識スベシ

病院船ハ總テ其ノ國旗ト共ニシエテヴァ條約ニ定メタル白地ニ赤十字ノ旗ヲ掲ゲテ之ヲ標識スベシ

第六條 中立國ノ商船遊船又ハ端舟ニシテ交戰國ノ傷者病者若ハ難船者ヲ搭載シ若ハ收容スルモノハ此ノ輸送ノ事實ノ爲ニ捕獲セラル、コトナシ然レドモ中立違犯ノ所爲アルトキハ捕獲ヲ免レザルモノトス

第七條 總テ捕獲セラレタル艦船内ニ在リテ救法醫療及ヒ看護ニ従事スル人員ハ侵スベカラザルモノニシテ俘虜ト爲スコトヲ得ズ此等ノ人員其ノ艦船ヲ退去スルトキハ各自ノ私有ニ屬スル物品及ヒ外科用具ヲ携帯ス

此等ノ人員ハ必要アル限ハ引續キ其ノ職務ニ従事スベク首席指揮官ニ於テ妨ナシト認ムル時ニ至リ退去スルコトヲ得

交戰國ハ其ノ權内ニ陥リタル此等ノ人員ニ其ノ給料ノ全額ヲ得セシムルコトヲ要ス

第八條 凡ソ艦船内ニ在ル海陸軍人ノ傷者病者ハ其ノ何レノ國籍ニ屬スルニ論ナク捕獲者ニ於テ之ヲ保護介抱スベシ

第九條 交戰國ノ一方ノ難船者傷者又ハ病者ニシテ他ノ一方ノ權内ニ陥リタル者ハ俘虜タルベク其ノ事情ノ如何ニ依リ或ハ之ヲ

抑留シ或ハ之ヲ自國ノ一港又ハ中立國ノ一港ニ送致シ或ハ之ヲ其ノ敵國ノ一港ニ送還スルトモ一ニ後者ノ決スル所ニ從フ右最終ノ場合ニ於テ其ノ本國ニ送還セラレタル俘虜ハ交戰中再ビ服役スルコトヲ得ズ

第十條 (削除)

第十一條 締盟國中ノ二國又ハ數國ノ間ニ戰ヲ開キタル場合ニ限リ締盟國ハ別記各條ニ掲ケタル規定ヲ遵守スルノ義務アルモノトス

右規定ヲ遵守スルノ義務ハ締盟國間ノ戰鬪ニ於テ一ノ非締盟國ガ交戰國ノ一方ニ加ハリタル時ヨリ消滅スルモノトス

第十二條 本條約ハ成ルベク速ニ批准スベシ
批准書ハ海牙ニ保管ス

各批准書ニ付キ一通ノ保管證書ヲ作り其ノ認證謄本ヲ外交上ノ手續ニ依リ各締盟國ニ交付スベシ

第十三條 千八百六十四年八月二十二日シエチヴァ條約ヲ承認シタル非記名國ハ本條約ニ加盟スルコトヲ得ベシ

右非記名國ガ其ノ加盟ヲ締盟國ニ通知スルニハ書面ヲ以テ和蘭國政府ニ通告シ同國政府ヨリ更ニ之ヲ爾餘ノ締盟國ニ通知スベシ

第十四條 若締盟國中ノ一國ニ於テ本條約ヲ廢棄スルトキハ書面ヲ以テ其ノ旨ヲ和蘭國政府ニ通告シタル後一箇年ヲ經過スルニ非ザレバ廢棄ノ効力ヲ生ズルコトヲシ右通告ハ和蘭國政府ヨリ直ニ爾餘ノ締盟國ニ通知ス
右廢棄ノ効力ハ之ヲ通告シタル國ノミニ止ルモノトス

右證據トシテ各全權委員ハ本條約ニ記名調印スルモノナリ
千八百九十九年七月二十九日海牙ニ於テ本書一通ヲ作り和蘭國政
府ノ記録ニ保管シ其ノ認證謄本ヲ外交上ノ手續ニ依リ締盟國ニ交
付スルモノナリ

獨逸國 第十條ヲ保留ス

奧地利洪牙利國

白耳義國

清國

勃爾牙利國

天佑ヲ保有シ萬世一系ノ帝祚ヲ踐ミタル日本國 皇帝(御名)此書ヲ
見ル有衆ニ宣示ス

朕明治三十二年七月二十九日和蘭國海牙ニ於テ萬國平和會議ニ贊

同シタル帝國全權委員ト各國全權委員トノ間ニ協議決定シ記名調
印シタル千八百六十四年八月二十二日シエチヴァ條約ノ原則ヲ海
戰ニ應用スル條約ノ各條目ヲ親シク閱覽點檢シタルニ善ク朕ガ意
ニ適シ間然スル所ナキヲ以テ右條約ヲ嘉納批准ス

神武天皇即位紀元二千五百六十四年明治三十三年九月三日東京宮
城ニ於テ親ヲ名ヲ署シ璽ヲ鈐セシム

御名 國璽 (外務大臣副署)

○局外中立

局外中立ヲ講究スルニハ先ツ之ヲ其沿革原理義務權利及結論ノ數章
ニ分チテ詳論スルヲ要ス

○局外中立ノ沿革

局外中立ナル者ハ各國ノ相互獨立ヨリ起ル所ナリ而シテ若シ其宣戰
 交戦ノ權利ヲ以テ其國ノ主權ニ屬スル權利ノ一部ナリトセハ則チ他
 國カ其獨立ノ確證ヲ戰爭ニ於テ決セムトスル時ニ當リ之カ平和ヲ保
 持スベキ權利ハ其國家ニ屬スル臣民ノ特權ニシテ且其斷決行爲ハ最
 高ノ首領ニ非サル乎此見解ニ據テ之ヲ觀レハ局外中立ノ進歩史ハ即
 チ國民獨立ノ進歩史ナリト謂ツヘシ古代ノ各國ニ於テ局外中立ヲ唱
 ヘタルコトアリシト雖モ唯無用ノ贅言ニ屬シ中古ニ在テハ唯輕蔑嫌
 忌ノ目的ヨリ外ニ出デザリキ近世ノ歐羅巴ノ建立後ト雖モ局外中立
 ハ猶永ク微弱不定ニシテ且其定限ノ不完不安ナリシ者ハ其社會ノ全
 形象ニ貫徹セス且基督主義ノ文明法方ヲ用ヒテ各國間ノ國力平均ニ
 依リ相互ノ真正獨立ヲ保護セザリシニ職由スルナリ若シ夫羅馬カ世
 界萬國ヲ席卷掌握セムト欲シタリシ時ニ當リテハ其軍兵ニ征服セラ

レシ進貢國及其羈輓ニ服從シタル附庸國及羅馬ニ依賴スル位置ニ立
 チテ其進攻ノ補助ヲ命セラレタル同盟國其他早晚羅馬ノ征服地内ニ
 歸スル所ノ敵國等ヲ觀ルノミニシテ未タ局外中立ナル者ハ更ニ之ア
 ラザリキ古代ノ希臘ハ此關係ニ於テ羅馬人ノ上ニ毫モ權威ヲ振ハサ
 ザリシ蓋シ其國疆内ニ於テ對抗猜忌スル所ノ多數ノ小共和國カ互ニ
 相聯合スレハナリ而シテ若シ僅ニ局外中立ヲ公認セラレシ者ハ唯テ
 ルヒ一市及ヒ其宮殿ヲ聯邦盟約ノ法方ニ依ツテ保護セシノミニシテ
 即チ異教宗徒カ基督宗徒ニ與ヘタル較著ナル事例ニシテ各邦相互ニ
 基督教區ノ保護ノ條約ヲ指示シタルノミニ然トモ古代世界ニ於テ局外
 中立ナル者ハ宗教範圍外ニ於テ未タ見サル所ナリ而シテ夫ノ小亞細
 亞及西里亞若クハ地中海沿岸ノ海市カ其商業上ノ特權特許ヲ得タル
 者ハ局外中立國ト公認シタルニ非ラスシテ東洋強大王國ノ一封邑ト

シテ之ヲ與ヘラタル者ナリ
 比耳西王ノ艦隊ヲ組織シタル軍艦カ希臘自國ノ征伐ヲ企ツルノ機關
 ニ從事シタルハ是レ猶ホ羅馬ノ艦隊力ヲ組織シタル者カ加耳打ノ陷
 落後ニ至リ天下ノ征伐ヲ謀リシカ如キナリ羅馬ノ分離セシ時ハ局外
 中立ノ世期ニ非スシテ寧ロ一般戰爭ノ世紀タリキ然ラハ則チ羅馬ト
 未開國トノ間ニ於テ局外中立ヲ保存セムト試ミタル者ハ何國ナリシ
 ヤ是即チ社會ヲ改造セムト豫定シタル所ノ基督教主義ニ屬シテ經典
 ノ精神ト古代ノ文明トチ一致連合シテ以テ近時ノ文明ヲ發達セシメ
 ムト欲シタリシニ在リシコトハ疑ヲ容レサル所ナリ然リト雖モ其平
 和ヲ享有シ得ヘキ已前既ニ業ニ近時ノ歐洲ハ兵力ヲ用ヒテ其獨立ヲ
 建テリキ且又異教ニ對スル競爭ハ嘗ニ其各邦國間ニ對スル戰爭ノミ
 ニ非スシテ其問題ハ基督宗ノ歐羅巴ト回々宗ノ亞細亞トヲ管理スル

ニ在リ如是ノ競爭ニ於テ局外中立ヲ保持セムト欲セハ其勢一方ノ信
 仰ヲ拋棄セサルヘカラサリシナラム歐洲各國ノ封建制度ニ於テハ一
 モ局外中立主義ヲ有セシ者ハ之アラサリキ其兵力ノ應援ヲ要求シテ
 以テ其封食臣ヲ扶持シ兵器ヲ要求シテ以テ其國君ヲ守護セリ故ニ局
 外中立ナル者ハ謀叛者ノ外ニハ之ヲ見サリキ而シテ局外中立ノ主義
 ハ海上貿易ノ法方ニ據ツテ其途ヲ萬國公法ニ開キタリ然レトモ伊太
 利ノ貿易市ハ平和ノ利益ヲ計ル爲メ相敵視シテ四分五裂シ其商業ハ
 宛モ戰爭ノ觀ヲ呈シテ專賣特許若クハ兵器ノ補助ニ依ツテ増進シ彼
 ノヘンシトチツク條約ハ利益ノ聯合ヨリ成立シテ稍局外中立ノ實例
 ヲ使用シタル者ノ如シ然リト雖モ商業ノ貪利心ヨリシテ屢此道ニ背
 馳シ自己ノ特許ヲ得テ之ヲ其特權ニ歸スルヲ以テ満足セサリシカ
 故ニ歐洲北部ニ平和ト自由ヲ與フヘキ所ノ一大聯合ハ反ツテ其全洲

開戦ノ原因トハナリタリキ是即歐洲封建制度ノ衰替ノ時ニ屬シ歐洲全土ヲ同等ノ金力若クハ兵力ヲ所有スル所ノ三四國間ニ分割セントスルノ發端ニシテ其局外中立ハ國力平均ノ政畧タル國際條約ノ如ク爲リタリキ然レトモ此政畧ハ當初大帝國ヨリモ小國ニ依テ使用シタル者ナリ

貿易市府ニ於テハ其孤立ノ形勢ヲ保護スル爲ニ之ヲ使用シ其他邦ニ至テハ其國力ヲ發達スル爲ニ使用セリ瑞逸蘭ノ局外中立ハ瑞西人民ノ利益ヲ計ル爲ニ用ヒタルノミニ非ズシテ其強隣相互ノ利益ト急撃ニ對スル國疆防禦ノ便宜ノ爲ニ使用セリ夫ノ白爾義帝國ニ於ケル局外中立ハ今日ト同一ノ性質タリキ然レトモ條約ニ據ツテ附課シタル局外中立ハ都テ其勢固ニ微弱ナル所アリタリ局外中立ノ意義ヲ衍釋スレハ平和ト戰爭トノ間ヲ撰擇スベキ自由ヲ含蓄スヘキ者ニシテ必

要ノ場合ニ於テ隨意ニ撰擇シタル地位ヲ保護スルニ足ルノ兵力ヲ要スル者ト推知スベキナリ若シ局外中立ヲ保持セント欲スルモ充分ノ抵抗力ヲ有セザル時ハ他國ノ已ト關係ヲ同シクスル者ト同盟スルコトヲ要スルナリ是ニ於テ局外中立國ノ權利ハ其兵備聯合ニ依テ交戰國ノ不正要求ニ抵抗シ得ル者ト公認セラル、ニ至ルナリ兵備聯合ハ陸戰ヨリ海戰ニ於テ最モ締盟シ易シ何トナレハ大洋ノ航路ハ自由ニ開放セラレ其局外中立ノ海軍力ハ海上ノ大原野ニ於テ相應援整備スルコトヲ得ルト雖モ陸軍ニ至テハ其國ノ一方ニ疆域ヲ接スル國ニ屬スルニ非ラサル已上ハ交戰國ヲ通過スルニ非レハ相連合スル能ハサルナリ故ニ局外中立歴史ノ緊要ナル者ハ海國ニ在リ而シテ就中永久ノ局外中立ハ海上ノ局外中立ヲシテ其政治基礎ト先定シタル北海近接ノ諸邦國ヲ以テ最重ナリトスホーランド國ハ此等邦國中ノ首座ヲ占

メタリ

亞米利加洲ノ發見ニ依テ創立シタル事物ノ新秩序ニ於ケル海上貿易ハ舊世界中ノ擴張ト共ニ擴張シテ二部ニ分離シ多年西班牙ト葡萄牙ノ手ニ歸シタリシ所ノ大西洋外ノ貿易カ一タヒ歐洲ニ到着シタリシヨリ米洲及印度ノ產物ハ各港ニ分配スル爲ニ荷蘭ノ商船ニ積載セリ而シテ荷蘭國カ此特權ヲ得ルヤ否ヤ各國競フテ之ヲ保守スル爲メ海上ノ自由ヲ要求シタリキ貪慾ナル英國人ハ到ル處ニ專賣特許及特權ニ依テ己カ海上占領權ヲ設置セムト欲シ此時ニ當リ英國ハ米國ノ貿易ニ關シ西班牙ト爭論シ歐洲ノ海上貿易ニ關シテハホーランドト爭論ヲ開キタリ而シテ英國ハ自國ノ利益ヲ謀ル爲メ海上競争ノ趣旨ヲ宣告シ一方ニ於テハ殖民制度ヲ設ケ又一方ニハ航海條例ヲ發布セリ是レ世界ノ海上貿易ノ二部ヲ一手ニ掌握セムト欲シテ設ケタル方畧

ナリキ北方諸國ハ英國ノ要求ヲ抵拒スル防禦方ヲ講究シ國力聯合ノ必要ヲ感シタリ是ニ於テポーターントノヘンシーチツク市ハ嘗テ管理セムト欲シタリシ所ノスカンヂナビアン王國ト同盟シ瑞典及噠瑪ハ特ニ局外中立ノ挑戰者ノ如ク此大事ヲ補助スヘキ勢力ノ動機ヲ露セリ然レトモ此成效ヲ期セムトスルニ海上大權ヲ有スル一國ヲ以テ盟主ト爲スノ必用アリ是レ其國民ヲ保護スルノ爲メノミニ非ス又其主義ヲ保護スル爲ナリ佛郎西王路易第十六世ハ千七百七十八年ノ宣告ニ據ツテ壯快ナル着手ヲ創メ而シテ諸大國中ニ於テ獨リ其全勝ヲ博スルニ至ルマテ平時ト戰時トヲ分タス絶ヘズ局外中立事件ノ爲メ其權威及兵力ヲ供給シタリキ露西亞王ガセリン及ヒポール一世ノ治世ニ當テ英國ニ反シテ同盟ニ加入スル爲メ千七百八十年及千八百年ノ布告ヲ發シ北部ノ局外中立權ヲ教唆煽動シテ以テ此義舉ニ同意シタ

リ然レトモ此同盟ハ妨礙視セラレテ其希望ノ自的ヲ達セサルコトヲ示シタリ佛朗西ハ此大事件ニ就キ其法方ヲ準備シテ世界中ニ局外中立ノ面目ヲ一新シ之ヲ大海國ノ海外ニ設立シ局外中立ヲ其政治主義ノ基礎若クハ其權力發達ノ基點ト爲サムト謀リタリ北米合衆國モ大約局外中立權ノ主義ニ對シ確然タル決斷ヲ以テ之ヲ保護セサリシト雖モ佛朗西ノ革命及第一帝國ノ歐洲戰爭中米國ノ永久局外中立ハ幾ムト其期望ト平和政畧トヲ離レスシテ存在シ其ノ事實ハ自然ニ局外中立ノ地位ニ未曾有ノ權力ヲ與ヘタリ在昔ノ英蘭人カ歐洲ニ於テ固執シタル所ノ海上暴君ノ陳腐格言ニ基キ自由航海ノ格言ヲ生シ米洲カ認メタル新英蘭ノ移住民ヲ解放シ佛國ハ絶ヘス此格言ヲ揚言シ之ニ據テ大陸ノ封港ヲ設立シ且其一切ノ權利ヲ破棄スルニ至レリ然レトモ如是ノ違法權力ノ使用ノ爲メニ英國ノ抵抗ハ壓服セラレタル者

ニ非スシテ千八百五十六年佛國カ其舊敵國ニシテ同盟トナリシ者ヨリ得タル平和ノ權威ニ據リテ漸ク其主義ノ協贊ヲ得テ局外中立ノ基礎ヲ組織スルニ至レリ

○局外中立ノ原理

前章ノ沿革畧記ハ局外中立ノ原因ハ元國家ノ獨立及海上同權ノ原理ニ密接シタルヲ述ヘタルハ哲學ノ推理ヨリモ明瞭ナリ局外中立ニ關スル論題ノ事項如何ト謂フニ政治學ノ見解ニ據レハ完全ナル定義ヲ發見セラレベシ理論ノ主點ヨリ見解ヲ下セハ則チ局外中立トハ戰爭中ニ立テタル平和ニシテ其國權ヲ尊重スル者ナリトス故ヲ以テ交戰國ト局外中立トノ間ニ起ル所ノ異論ハ平和權利ト戰爭權利トノ調停如何ヲ知ルニ在リ若シ此反對ナル二權利ノ定義カ各極端ニ止マル時ハ其異論ハ判定スベカラサルナリ若シ之ヲ以テ眞理トセム乎則チ

一方ハ其敵國ノ傷害ヲ助クベキ物品ヲ交戦國ニ許容スル者ニシテ他
ノ一方ハ局外中立ヲ嚴守シテ戦争ニ關係セス唯平和ヲ固守シテ毫モ
交戦ニ關涉セザルコトヲ欲スル者ナリ此ノ如ク原則ノ相反スルニ於
テハ之ヲ調停シ難シ而シテ局外中立權ハ唯兵力ヲ以テ之ヲ保護スル
ニ至ルナリ

例外ノ理論ニ基キタル主義ハ其結論必ス此ニ在ラム或論者ハ謂ラク
中立國ハ萬般ノ戦争事件ヲ裁決スル必要ヲ口實トシテ毫モ交戦双方
ノ翻覆ニ關係セザル權利ヲ承認セラルベシト或論者ハ以謂ラク中立
ノ本源ハ社會ノ生活國家ノ安寧ヲ組織スル平和ノ利益及商業ニ着眼
スル者ナルカ故ニ中立國ニ於テ事變ノ爲メ被害セラレサルノ外ハ交
戦國ニ他ノ權利ヲ讓與セサルヘシト此原理ハ二ツナカラ其眞理ノ在
ルヲ認メラレス又ランブレデーカ提出セシ奇論ニモ眞理ノ在ルヲ認

メラレズ其論ハ推理ノ查出ト國際公法ノ判定スル所ノ限界ヲ看破ス
ルコトヲ機會ト勢力トニ一任スルニ若カスト爲ス者ノ如ク中立國ト
交戦國トノ權利ヲ其擴張シ得ル全力ヲ并行シテ之ヲ執行スルニ任ス
ルニ在ル者ナリ彼ノ交戦國ノ權利ニ適當ノ承認ヲ與ヘ中立國ノ權利
ニ正當ノ限界ヲ立ツルコトハ實ニ此レ其實施ヲ強メサルヘカラサル
所ノ目的ナリト是レ海戰ノ關ナル時期ニ當リテ局外中立權利ノ學理
ヲ確乎ナル基礎ニ設立セムト首唱シタルバインケルシヨツクヒユナ
ナルガリエニトグラードデーライニバルアズニ一等ノ如キ公法家ノ
主義ニシテ今日ニ至リテチートフルマツセイ及ナルトラン等カ平和
ノ時ニ於テ此主義ヲ再行發達シタル所ナリ此等ノ公法家ハ各自家ノ
意向ニ從ツテ一主義若クハ他ノ主義ノ適用ヲ主張シタリ然レトモ戰
時モ平和ト同一ノ權利ヲ有シ權利名義ノ外他ニ關係ナキ者カ若クハ

暴行專制力ノ顯著ナル者ハ抑壓セラレスシテ相互ニ限定セザルベカラサルノ事實ヲ承認スルニ至ツテハ皆同一ナリキ學問ノ勞力ト并進シテ道德ニ進入スル所ノ勞力アリ是レ即チ中立權利ノ承諾ヲ準備誘導スル者ナリ其道德ノ結果ハ今日ノ戰術ニ實施スル物躰ノ改革ヲモ裨益セリ就中海戰ニ於テ最較著ナリトス

交戰國ト中立國トノ間ニ抵觸シタル平和主義ト戰爭主義トハ論據ノ小差ヲ爭論シ平和權利ハ正義及仁慈ノ權ヲ以テ戰爭權利ノ爲シタル降服人ヲ利シタリキ

千八百五十六年ニ於ケル船舶捕拿權ヲ廢スベキ海上權ノ解散ハ假令局外中立ハ其原理ニ於テ戰爭ノ苛酷ヲ寬減スベキ要求ヲ得サリシト雖モ中立ノ關係ニ最惠ナル進歩ノ確立ヲ與ヘタリキ中立國ハ商業カ平時ニ於テ海上自由ノ大原則ノ認諾ヲ得ルニ非サレハ則チ戰時ニ於

ケル最大神聖ノ權利ナル公判權ヲ得サルヘシ

○局外中立ノ義務

局外中立ハ其名ニ指示スル如ク戰爭ヲ慎止スル外他ナキナリ而シテ中立國ノ最大義務ハ交戰國ト一切ノ關係ヲ絶ツニ在リ此義務ノ外ニ受働中立ト稱スベキ者アリ然シテ之ヲ履行スル時ハ自働中立トナリ其中立權ヲ交戰國雙方ニ及ホス適當ノ處理アル者ハ即チ不偏中立ト爲ルナリ第一原則ハ自明ニ屬シ第二原則ハ理論及推理ノ結果ナリ此中立權ノ不偏ナルヨリシテ其義務ヲ生スル者ニシテ此權利タルヤ唯ニ交戰雙方ニ同一ノ友誼ヲ盡クスベカラザルノミナラス又中立國ノ疆場及海上ニ於テ暴行若クハ敵愾ヲ以テ中立ノ權利及特權ヲ侵サレズシテ雙方ノ襲撃ヲ防禦スルニ在リ

又中立權ニ課スル絶交義務ニ關連スルニ大要件アリ彼ノ戰時禁賣品

及封港法律是ナリ此二件ハ相互ニ密着スル者ニシテ若シ世人ガ中立
 權ハ交戰國ト一切ノ關係ヲ絶タサルベカラズト斷言スルモ未タ之ヲ
 充分ト謂フベカラス中立ノ義務タルヤ自然ノ理ニ依リ中立權ヲシテ
 萬國公法ノ認許シタル軍事上ノ運動ニ對シ交戰國間ノ妨害トナルベ
 キ直接ノ結果ハ毫モ加ヘサルコトヲ要スルナリ之ニ依テ中立權ハ只
 ニ戰時禁賣法ヲ交戰國ニ施行スルノミナラス又正當ノ條件ヲ以テ設
 置シタル封港ヲ重セシムルナリ中立國ヨリ敵國ニ供給シタル軍用品
 ハ都テ之ヲ戰時禁賣品ト稱ス然レトモ若シ此語ノ定義ヲ汎釋スル時
 ハ中立國ト交戰國トノ貿易ハ一切之ヲ禁止セサルベキコト明ナリ夫
 レ戰爭特ニ海戰ナル者ハ一方ニ於テハ軍備ヲ以テ製造供給セサルベ
 カラサル所ノ各種ノ戎器ヲ用ヒ一方ニ於テハ登籍給料被服軍服及給
 食セサル可ラサル所ノ兵士水兵ヲ用ヒ終ニハ建造セサルベカラサル

所ノ軍艦ヲ用非將又必要ノ場合ニハ之ニ鐵甲ヲ被ヒ之ニ有力ノ器械
 兵食ヲ備フベキ手段ヲ以テ交戰セサルベカラス然レトモ若シ其軍需
 タル各種物品ニシテ遠近ニ使用スル一切ノモノヲハ都テ禁賣品ニ算
 入スル時ハ其餘ノ物品ハ一モ之ナキニ至ルナリ是ニ於テ乎自由貿易
 ノ物品ト禁賣品トノ區別ヲ立テサルヘカラス然レトモ其區別ハ何人
 ニ屬スルヤ之ヲ交戰國ニ屬セム乎中立權ヲ破壞スル者ナリ之ヲ中立
 國ニ屬セム乎戰爭權ヲ煩累スル者ナリ畢竟之ヲ國際條約ニ據テ其何
 ノ商品何ノ人民及ヒ何ノ行爲ヲ以テ禁制ト認定スベキヤヲ約定スル
 ニ在ルヘキナリ

假令軍用ニ供スヘキ製造物若クハ販賣品ト雖モ局外中立國內ニ禁止
 スルコト能サルノ事實ヲ認承セリ此原則ニ循ツテ相當ノ例外物ノ外
 特ニ中立國ニ禁スル所ノ一種ノ商業ハ即戰時禁賣品ヲ敵國ニ運漕ス

ルヲニシテ其物品ノ既ニ敵國ニ販賣シタルト其運漕目的カ自國ノ貿易港ニ於テ交戰國ノ一方ニ販賣スルトニ關セサル者トス此規則ノ例外ニ最モ注意スベキニ要件アリ一ハ兵士ノ徵募ニ應スル事一ハ中立國ニ於テ交戰國ノ軍需ノ爲メ軍艦ヲ製造若クハ軍裝スル事はナリ此二件ハ管ニ軍用ニ供スルノミナラスシテ寧ロ戰爭ノ實跡ヲ編製スル者ナリ蓋シ軍艦徴セハ則チ海戰ヲ開クベカラス又兵士徴セハ則チ交戰スヘカラサレハナリ是ヲ以テ之ヲ交戰國ニ運漕スルノミナラス之ヲ販賣スルハ中立國ニ於テ敵對若クハ嚴禁ノ行爲ナリトス附屬法律ニ於テハ他ノ商品ニ關シテ其敵國ニ交附スル時ニ當リ禁賣品目錄中ニ包含スル物品即チ交戰ノ直接用途ナル者若クハ軍艦器械兵戎若クハ軍時ノ直接用途ナル物品ニ對シテ此規則ヲ適用スル者ノ如シ一切ノ疑惑ヲ避ケルカ爲メ國際條約ハ太抵戰時禁賣品目錄ト無禁物目錄

トノ二通ヲ添付セリ附屬法律ニ於テ物品調査ノ勞ヲ取ルニモ拘ラス航海術若クハ軍器構造ノ變化ヲ生スル爲ニ毎世紀ニ新問題ヲ起スナリ茲ニ一例ヲ舉レハ今日ニ起ル所ノ問題ハ石炭ハ蒸氣艦隊ニ取テ最モ必需ナルカ故ニ歐洲大國ノ條約ハ大抵之ヲ硫黃及硝石ヨリモ嚴禁ヲ加ヘタリキ然レトモ社會ノ輿論ハ此彙類法に反對スルナルベシ何トナレハ石炭ノゴトキ地球ノ内部ニ包藏スル者ニシテ其性質ノ無加害物ナル者ハ何物ソヤ又其礦坑ヨリ天然躰ヲ以テ我漁船ノ竈裡ニ來ル石炭ノ如ク人力ヲ滅殺スル者ハ何物ソヤ此無加害物タル戰時禁賣品ヲ敵國ニ運搬ノ禁制ハ國際公法ニ據テ局外中立國ニ課シタル責任中ノ尤モ背理背義ナル者ナラスヤ中立國ニ對シテ實戰ニ使用スル兵器及軍用品ヲ交戰國ニ製造販賣スルコトヲ其國疆内ニ免除スル利益ヲ與ヘタルハ既亦大過ナラスヤ中立國ノ船舶ヲ用ヒテ其軍器ヲ戰場

ニ運漕スルハ道德眼中ヨリ之ヲ觀レハ平和ノ商業ト敵對實戰トノ分界線ヲ破毀スル者ナリ商人ノ大砲ヲ兵士ニ交付スル者ハ其銃機ヲ一彈シテ人ヲ即死セシムル所ノ兵士ト同一ニ軍役ヲ執ル者ニ非サルナキカ

戰時禁賣品ノ限界アル禁制ト雖モ亦中立國ニ對シ慘况ヲ呈セシムル者ニシテ即中立國ノ船舶ハ大海ニ在ルト雖トモ交戰國ノ搜查ニ服從セサルベカラス實ニ搜船權ノ濫用ヨリ不平嫌忌ノ本源トナル專制殘虐ナル法方ハ恐クハ之アラサルヘシ又其國民ノ同類カ日々其困難ヲ表白スルカ如キ自負尊大ヲ激昂スル者ハ之ナキナリ然レトモ如是ノ搜船權ノ濫用ヲ矯正スルコト能ハサルカ是レ實ニ能ハサルノミナラス實ニ容易ナルコトナルヘシ即チ其船中ニ就キ煩雜ナル搜索ヲ命スルコトナクシク船舶ノ書類ハ最モ禮數アル檢閲ヲ爲スベキ規則ニ服

從セシメ其指示スル名稱ニ其物品ヲ一致セシメナハ則チ警察法ノ性質ヲ脫シテ單純ノ禮式ヨリモ簡易ナルニ至ラサルカ此ノ如クシテ唯一ノ不便ハ不犯法ノ船舶ヲシテ須臾ノ延滞ヲ受ケシムルニ在ルノ

之ニ反シテ國際公法中ニ在テ封港權ノ如ク其適用ヲ重大ニシテ中立國ニ不正當ノ關係ヲ醸ス者ハ未タ之アラサルナリ其他交戰國ニ關スル各事物ニ就テハ最モ重大ノ兵害ヲ被ル者アリ蓋シ交戰國ノ兵害ヲ被ムル者ハ居常ニ平和ヲ提出シ且認承シテ其被害ヲ絶ツベキ方法ヲ立ツル者ナリ然リト雖モ若シ其仲裁ヲ拒斥セラル、キハ封港ノ爲メ被害セラル、中立國ハ何ノ法方ヲ用ヒテ其戰爭ヲ絶ツテ得ンヤ故ニ終ニ其全力ヲ防禦ニ盡シタル爲メニ自滅スルニ至ラム

○局外中立ノ權利

何ヲカ戦争ノ最大必要トナシ何ヲカ正義威嚴若クハ光榮ノ境遇ト爲スヤ是レ即チ文明社會ニ於ケル例外法外ノ狀況ナリトス何ヲカ交戦國ノ權利ト稱スヤ曰ク正當ナル艱難ノ償還ヲ保護スル爲メ國家本來ノ關係ヲ攪亂スル所ノ勢力及暴行ノ謂ニシテ局外中立國ノ權利トハ全然異ナル者ナリ中立國ハ余カ已ニ論セシ如ク商業文明及平和ヲ代表スル者ニシテ其貴重ナル職務ハ戰勢ノ猖獗ナル中央ニ立テ其平和ヲ繼續スルニ在リ而シテ其權利ハ人類ノ普通權利ニ外ナラサルナリヒユフテリノ意見ニ依レハ凡ソ國際公法ノ公式ナル禁則ニ據テ禁止セラレサル者ハ都テ中立國ニ認許スル者トシ就中最第一ニ其人民及貨物ヲ尊重スベキ絶對權ヲ有セリ

領土ノ尊重ハ局外中立國ノ獨立ノ最大要件ニシテ戦争ト平和トノ分界線ハ數理ヲ以テ討求シ得ベキカ如ク最モ觀察シ易キ所ナリ然リト

雖モ往時ニ主張シタル意見ニ據レハ交戦國が無害ノ法方ヲ用ユル時ハ中立國ノ領土ニ其軍隊ヲ運漕スベキ權利ヲ有セリ是レクロチエー
ス一派ノ所説ナリバツテルモ亦交戦國ノ最大必要ノ場合ニ於テハ中立國內ノ城砦ニ其軍兵ヲ一時滞在セシムルヲ得ト主張セリ然レトモ今ヤ中立國ノ領土ヲ軍用ノ爲メニ之ヲ強使スルハ中立權ヲ破毀スルコト之ヨリ大ナル者ナシト唱道スルニ至レリ中立國ノ領土トハ唯ニ其中立國ノ大陸若クハ小島ノ畧有地ノミノ謂ニ非スシテ國際公法ニ據テ其ノ國疆ノ部分ト認ムル所ノ海岸附近ノ海上部分ヲモ包含スル者ナリ余ハ之ヨリ中立國ノ船船モ亦其領土ノ分躰ノ一部ト認メラルヤ否ノ問題ヲ論スベシ

中立國ノ領土ハ其疆内ニ發見スル中立國ノ貨物人民并ニ交戦國ノ貨物人民ハ都テ之ヲ保護スルノ自由ヲ有セリ是レ即チ避難權ヲ組織ス

ル者ナリ然レトモ中立ノ特權ヲ享有スル爲ニハ交戰國ノ人民ニシテ中立國ノ領土内ニ住居若クハ避難シテ此避難權ヲ享有スル間ハ中立國ノ人民ト同一ナル位地ヲ享得シ乃チ一切ノ敵對行爲ヲ慎止スベキコト必用ナリトス敵軍ノ追窮スル時ニ中立國ノ領土内ニ到着スルコトヲ得ハ輒チ放免セラル、ヲ得然レトモ直ニ其兵器ヲ遺棄セサルヘカラス交戰國ノ軍艦ハ中立國ノ各港若クハ其港邊ノ海上ニ於テ同一ノ避難權ヲ有スル者ニシテ一タヒ其港内ニ到着スル時若ハ颶風若クハ兵燹ノ爲ニ被リタル損所ヲ修復シ又食物ヲ準備スルコトヲ得ル者トス唯敵船ノ暴風若クハ兵害ニ遭遇シタル者ト俱ニ平和ニ碇泊スル場合ニ於テハ之ト同一ノ避難所ニ送致セラルベシ又軍裝船ニシテ再ヒ航海セムト欲スル時ニ當テハ國際公法ハ其先發敵船ノ出帆後一日間ヲ經ルニ非サレハ其中立港ヲ出帆スルコトヲ許サス是欸待權カ交戰權

ノ上ニ此嚴禁ヲ課スル所ニシテ所謂ル二十四時規則ナル者即チ是ナリ
 若シ國際公法カ中立國ノ領土ニ於テ交戰國ノ人民及貨物ヲモ保護スル者ナリトセハ交戰國ノ領内ニ於テ中立國ノ人民及貨物ヲ保護スベキ大理由アル者ナリ然レモ中立國人民ノ戰場ニ居住スル者ハ交互義務ニ據テ我國家ト俱ニ其行爲ヲ中立ニ保ツ間ハ此免除權ヲ利用シ得ルナリ若シ中立國人民ニシテ軍役ニ加擔スル時ハ軍法ニ處セラレサル可カラス然レトモ其人民ガ一切ノ敵對ニ關セサル間ハ到處ニ中立國ノ特權ヲ附帶スルナリ縱令異境ニ孤立シ得ルモ其所行ハ無定操ノ人民ト同視セラル可ラス茲ニ交戰國カ宣戰令ヲ發布シタル時ニ其港内ニ碇泊スル中立國ノ船舶ヲ捕獲シテ不法ニ出港停止法ニ據テ之ヲ拘留シ若クハ外船徵發法ニ據ツテ軍隊或ハ兵器ノ運漕事業ニ強使ス

ルハ正義ノ見解ニ依テ之ヲ如何ニ管束スベキヤ曰ク此方法タルヤ局
外中立權ニ反スルヲ明ナリ而シテ其實施ニ對スル口實ハ凡ソ事物ハ
必要ヨリ生スルカ故ニ假令中立國ニ加害スルトモ宥恕セラルベク且
合法ナル行爲ナリトノ辟論ニ過キサレヘシ

余ハ終ニ臨ミ交戰國ト中立國トノ海上貿易ニ關スル大問題ヲ論スベ
シ陸上ニ於テハ戰爭ト平和トノ區域ハ自ラ天然ノ地形ニ據ツテ之ヲ
確定スト雖モ大海ニ在テハ此區域全ク無形ニシテ唯國際公法ニ列記
シタル規則ニ據ツテ存在強制スルノミ曠漠タル大洋ハ一國ノ私有ニ
非スシテ萬國ノ共有ニ屬シ相共ニ戰時平時ノ使用ニ供スル者ナリ國
際公法ハ其本國ノ條約記號タル船旗ノ使用ニ依テ海上ニ於テ交戰國
ト中立國トノ區別ヲ立ツルナリ軍艦ハ其國權ヲ代表スル所ノ船旗ヲ
掲ケ其防禦ヲ裝飾セルカ故中立國旗ノ權利ハ交戰國ノ絕對尊敬ヲ享

クルハ勿論ノ事ナリトス然ト雖モ無害ニ且無軍裝ナル商船ニ至テハ
多年來ノ海上法ヲ變更紛亂セシコト幾何ナルヤ得テ知ルベカラス中
立權ノ享有ハ中立國ノ船舶及積荷カ中立國ノ財産ニ屬スル時ハ決シ
テ否斥セラレサルヲハ確乎タル所ナリ唯其否斥セラル、所ノ者ハ運
漕物ハ戰時禁賣品ニ非スト雖モ敵國所屬ノ貨物運漕權ニ在ルナリ又
交戰國ノ權利ハ中立國ノ船中ニ於テ發見スル敵國ノ貨物ヲ沒收スル
爲之ヲ繫留スルハ正義ニ且寛待ナリト認ムル時ハ其航海ノ繼續ヲ許
可セス若シ其船長カ運漕賃ヲ支辨スル時ハ其遮斷シタル貨物ヲ回復
スルコトヲ得ルハ此レ殆ト中古ノ習慣法ト爲レリ

十八世紀ノ中期ニ至リテ中立國ノ船舶カ敵國所屬貨物ノ運漕ヨリ起
ル沒收ヲ免ルベキ事及中立國ノ貨物ハ敵國船中ニ發見スル時ニ捕拿
セラベキ者ニ非サル事トヲ宣言シテ此沒收ノ二大要件ヲ全ク正義ナ

リト信セリ然レ中立船ニ依テ運搬スル敵國ノ貨物ハ到處ニ尊重セラ
 ル、者ト宣言スルトハ全ク別物ニシテ中立船ニ依ツテ敵國貨物ノ自
 由運搬ノ原則ハ歐洲多數ノ條約ニ據ツテ眞理ナリト承認スル所ナリ
 然レトモ英佛ノ内公法ニ於テハ頑トシテ此原則ニ反對セリ而シテ實
 際ニ於テハ内國法ト條約トノ間ニ意見ヲ異ニシ學理ニ於テ公法家ノ
 内ニ各其見解ヲ異ニセリ當時中立國旗ノ沒收ヲ免除スルハ和蘭國ノ
 最大政益タリキ而シテ其公法家ノ泰斗タルハインケルシヨツクハ性
 法ノ原理ニ據リ中立國ノ船舶ニ運搬スル敵國ノ貨物ヲ交戰國カ免除
 スベキ理由之ヲシト斷言セリ

茲ニ中立國船舶カ敵國貨物ヲ積載スルヲ觀察スルニ二方アリ一ハ中
 立船舶ヲ支配スル所ノ法律ヲ變更セスシテ唯貨物運搬ヲ務ムル海上
 運漕器械視シテ全ク物體ノ見解ヨリ之ヲ觀察スルコト一ハ中立商船

ヲ真正ノ中立ニ在ル中立土地ノ一分塊ト認メテ之ニ運載スル貨物ハ
 都テ土地不可侵ノ原則ヲ以テ之ヲ保護スル特權アル高位ニ置ク一是
 ナリ此理論ハヒュフテルノ首唱スル所ニシテアボードフル之ヲ聲援
 シテ文理發達ノ時期ニ到ラシメタリ是レ船舶ハ土地ナリトノ定則ヲ
 簡易ニ銘記セシメ其大利益ヲ保護スル爲ニ之ヲ誘導セリ然レトモ自
 然ニ純正原理ノ効力ニ因リ其承諾ヲ強迫スル斷定權ハ豈ニ久シク同
 位地ニ保存スルヲ得ムヤ余ハ吾精神ノ同感ヲ傾クル所ノ源因ノ爲ニ
 確定銳進シタル道理ヲ薄弱ナラシムルヲ欲セサルヘシ又交戰國カ中
 立國旗ヲ否斥スルハ何ノ權利ナルヤ敵國ノ商品及私有財産ノ追求ヲ
 廢棄スベキ權利是ナリ中立權ノ定限地方ニ於テハ唯中立國ニ靜止ス
 ル狀況ニ在ル財産ノミヲ保護スルナリ
 敵國一切ノ商業ヲ壓制スル權利ハ英國ニ於テモ亦之ヲ要求シタリ即

其本國ト海外殖民地トノ間ニ交戦國ノ爲メニ自國船ヲ戰時ニ交換スベキ權力ヲ中立國ニ禁止スルヲ要求スル時又中立國ノ艦隊長カ商船ノ護衛ヲ務ムル者ハ其中立ヲ認諾シ又其戰時禁賣品ヲ運漕セサルコトヲ斷言シテ以テ船中捜査ノ免除ヲ否斥セラル、時ニ當リテ要求シタリキ運漕船ノ捜査問題ハ前世紀末ニ當リテ航海社會ニ起リタル者ナリト雖トモ此舊原則ノ關係ハ自ラ消滅シテ新原則茲ニ起レリ乃チ中立ノ船旗ハ假令敵國所屬ノ貨物ト雖モ戰時禁賣品ニ非サル已上ハ之ヲ絶對ニ保護スルヲ得ト是レ近時海上法ノ要礎トナレリ

○局外中立ノ結論

前章ニ論シタル原則及結果ヲ約言スレハ局外中立及海上中立ニ關スル國際公法ノ進歩ハ三時期ニ區別スベシ千七百七十八年路易十六世ノ宣言已來中立權利ハ稍々各國間ニ締結シタル特別條約若クハ内國

法ニ一任スルニ至レリ余ハ海上封鎖權ヲ限定スル條項及戰時禁賣品ノ詳細ナル定義ト俱ニ中立船旗ヲ尊重スル最要ノ條約文ヲ發見スルト能ハサルノミナラス一般ノ條約ハ此問題ニ就キ結了セサルカ故ニ其眞原則ハ時勢ト政府ノ變更トニ從ヒ時アツテ認諾セラル、トアリ又時アツテ否斥セラル、コトアリタリキ

第二期ハ千七百七十八年乃至千八百五十六年間ニシテ中立國ハ外交政畧若クハ兵力ヲ用ユルトモ中立權利ヲ明定シテ其認諾ヲ確定スベキヲ百方ニ協議シタリキ佛露及北米合衆國ハ交々此改良ノ先導者トナリ戰時ニ之ヲ創造シ平時ニ之ヲ繼續擴張シ局外中立ノ本源ハ漸ク英國ヲ除キ諸海國ノ本源トナルニ至レリ蓋シ英國ハ己カ海上權ニ波及スル古代ノ格言ヲ保持シテ其商業帝國ヲ尊重シ其國力ニ依頼スルカ故ニ其一權利ヲモ拋棄スルニ至ルヲ能ハサリキ

英國反對ノ停止ハ第三期ヲ表示スル者ニシテ英國ヲシテ商業自由主義ニ誘導スル所ノ勢力ニ從ヒ中立旗ハ敵國ノ貨物ヲ保護ストノ原則ヲ認諾スルニ同意セシメ今ヤ其中立權ノ認諾ハ戰爭ノ艱難ヲ減スル事及萬國商業ノ自由發達ニ密接スル事ヲ察知スルニ至レリ是ヲ以テ捕敵船ノ廢棄ハ十九世紀ニ於テ了解セシ如ク海上ノ自由ヲ派出スル所ノ原則ナリト斷定セリ

此二期ノ狀況ニ就キ千八百五十六年四月十六日ノ原則宣言ノ第二章ハ進歩上子午線ニ達シ其第三章ハ進歩上子午線ノ距離點ヲ表ハス者ナリ宣言目次左ノ如シ

- 一、 捕拿船ハ今後永久之ヲ廢棄ス
- 二、 中立國旗ハ戰時禁賣品ノ外敵國ノ貨物ヲ保護ス
- 三、 中立國ノ貨物ハ戰時禁賣品ノ外敵國旗下ニ捕拿セラレサルベシ

四、 封港ハ義務タルベク又有効タラサルベカラス即チ敵兵ノ海岸進入ヲ防禦スルニ十分ナル勢力ヲ以テ之ヲ保タサルベカラズ

局外中立國ハ交戰國ニ對シテ偏頗ノ行爲ヲナスヘカラス故ニ交戰國一方ニ敵對シテ交戰國他方ニ援助ヲ與フヘカラスヘフテルノ如キハ局外中立國ガ交戰國ノ一方ニ援助ヲ與フルコトヲ得ヘキ場合アリト曰ト雖是レ正當ノ思考ニ非ラス而シテ自由意思ニ依ル局外中立國條約ニ依ル局外中立國ノ義務ニ差異アルコトナシ又平時ニ於テ援助ヲ與フルコトヲ約シタルモ戰時ニ於テ局外中立國トナリタル時ハ援助ヲ與フルコト能ハス故ニ若シ援助ヲ與ヘント欲セハ交戰國トナルカ又ハ其同盟トナラサルヘラスト中立國ノ義務ヲ列舉セハ左ノ如シ

(一) 局外中立國ハ封港ヲ遵守セサル可カラス

(二) 局外中立國ハ交戰國ノ一方又ハ雙方ニ援兵ヲ給與ス可カラス

(三) 局外中立國ノ船舶ハ臨檢搜查及ヒ捕獲ノ權利ニ服從セサルヘカ
 ラス若シ之ニ抵抗ヲ試ムル時ハ沒收又ハ破壞ヲ受クルヲ免カレス

(四) 局外中立國ハ交戰國ノ一方又ハ雙方ニ戰時禁制品ヲ給與ス可カ
 ラス千八百七十年北米合衆國ガ普佛戰爭ニ際シ佛國政府ニ鐵砲ヲ賣
 リタルカ如キハ局外中立ノ違反ナリ日清戰爭ノ當時智利カ我國ニ軍
 艦ヲ賣リタルコトアルモ智利ハ條約締結國ニ非ラサルカ故ニ清國ニ
 對シテ局外中立ノ義務ヲ負フヘキ理由ナク從ツテ局外中立義務ノ違
 反トナルコトナカリシナリ

金員モ亦然リ故ニ局外中立國ハ交戰國ノ募集スル公債ニ應スヘカラ
 ス然レモ中立國ハ自國人民ノ交戰國ノ公債ニ應スルヲ禁スル能ハス

(五) 局外中立國ハ自國人民カ自國內ニ於テ交戰國ニ對シテナシタル
 反抗行爲ニ付テ義務ヲ負ハサル可カラス而シテ國家カ人民ノ該行爲

ヲ妨害シ得タルト否トヲ問ハス

(六) 局外中立ハ自國人民カ自國外ニ於テ交戰國ニ對シテ反抗行爲ヲ
 加フルコトアルモ自國ノ命令ニ出テス又ハ認諾ヲ與ルコトナキトキ
 ハ義務ヲ負フコトヲ要セス例ヘバガルベルチーカ佛軍ニ投シタルモ
 伊太利ハ之ニ關シテ責任ヲ負フコトナカリシカ如シ

局外中立國ノ義務ヲ侵サ、ル限リハ中立國ハ戰爭行爲ノ爲ニ自國ノ
 權利ヲ害セラレサルノ權利ヲ有ス局外中立國ノ領域ハ不可侵ナリ故
 ニ交戰國ハ局外中立國ノ國內ニ於テハ戰爭行爲ニ直接ノ關係アル行
 爲ヲ行フヘカラス又局外中立國又ハ局外中立國ノ人民カ局外中立國
 以外ニ於テ行フ所ノ行爲ナリト雖モ苟モ交戰國ノ權利ヲ害セサル限
 リハ交戰國ハ之ニ墜ヲ容ル、コトヲ得ス更ニ中立國ノ權利ヲ列舉セ
 ハ左ノ如シ

- (一) 交戦國ハ中立國ニ於テ戰時禁制品ヲ調フベカラス
- (二) 中立國ニ兵員ヲ通過シ又ハ容レシムヘカラス
 交戦國ガ局外中立國內ニ兵員ヲ通過セシムヘカラス例ヘハ千八百七十年瑞西アルサス軍隊ノ通過ヲ禁シタルカ如シ又交戦國局外中立國內ニ自國內ノ兵員ヲ容ルヘカラス若シ軍隊若クハ兵卒カ故意タルト否トヲ問ハス例ヘハ逃亡兵士ノ如キ中立國ニ赴キタル時ハ中立國ハ其武器ヲ脱セシメ之ヲ捕フルコトヲ得而シテ中立國ハ武器ヲ脱セシメテ後一定ノ土地ヲ割シテ其地ニ置クヲ例トス然シテ中立國ハ其逃亡者ヲシテ再ヒ戰爭ニ從ハシメサル義務アリ此義務ヲ履行スルコト能ハスンハ中立國ハ中立違反ノ責ヲ負ハサル可カラス病者負傷者ハ之ヲ保護シ全癒シタル後ト雖モ之ヲ還スヘカラス
- (三) 交戦國ハ中立國ニ於テ臨檢搜查ヲナスヲ得ス

交戦國ノ軍艦ハ封港ヲ破リ又ハ其他一切ノ理由ヲ以テ局外中立國ノ領海ニ入リタル交戦國船舶ヲ局外中立ノ領海内ニ於テ臨檢搜查又ハ捕獲スルコトヲ得ス

(四) 中立國ノ人民交戦國ニ在ル者

交戦國ニ在ル局外中立國ノ人民ハ其交戦國人ヨリ良好ノ地位ニ在ラシコトヲ希望スルヲ得サルコト勿論ナリト雖モ交戦國ハ局外中立國ノ人民ヲ交戦國他方ノ人民ト同一ニ待遇スルコト能ハス即チ故ナクシテ局外中立國ノ人民ヲ放逐スルカ如キコトヲナスヲ得ス又交戦國ハ局外中立國ノ人民ノ自由ニ在ル者ヲ兵役ニ就カシムルコトヲ得ズ然レトモ徵發セラレ課金ヲナシ又ハ戒嚴令ノ場合ニ臨戰地合圍地ニ於テ交戦國人民ト同一ノ地位ニ置カル、ハ止ムヲ得サルコトニ屬ス例ヘハ水雷ノ爲メニ諸種ノ權利ヲ害セラル、コトアルモ默從ノ義務

アルモノナリ

(五) 中立國ニ於テ戰爭的行爲ヲナスヲ得ス
交戰國ハ如何ナル法方ヲ用ユルモ局外中立國ニ於テハ戰時的ノ行爲
ヲナスコトヲ得ス例ヘハ局外中立國ニ於テ軍用ノ電信電話等ヲ設ク
ルコト能ハサルカ如シ

(六) 交戰國ノ軍艦ハ中立國ニ於テ戰爭ニ要スル行爲ヲナスヲ得ス
交戰國ノ軍艦ハ局外中立國ノ港灣ニ來ルコトヲ得ヘキモ交戰國他方
ヲ害スル行爲アリト認ムルトキハ局外中立國ハ之ヲ禁スルコトヲ得
局外中立國ハ之ニ戰爭用品ヲ給シ又ハ戰爭ニ援助又ハ關係アル行爲
ヲナスヘカラサルナリ

(七) 局外中立國ノ人民
局外中立國ノ人民ハ交戰國ノ役務ニ服スルヲ得ヘシ蓋シ國家ハ中立

ヲ守ルモ人民ノ交戰國ニ在ル者ニ對シテ之ヲ禁制セサルヘカラサル
ノ義務アルモノニ非テサレハナリ但シ中立國カ國法ヲ設ケテ之ヲ禁
(シタル場合ハ此限ニアラス

(八) 中立國ニ於テ捕獲審檢ヲナスヘカラス又捕獲船及貨物ヲ賣却ス
ヘカラス

交戰國ハ局外中立國ノ領海ニ於テ捕獲搜查臨檢ヲナスヲ得サルカ如
ク中立國ニ於テ捕獲審檢ヲナスコト能ハス舊時ニ於テハ此ニ反對ノ
例アリタリ千七百九十三年佛國カ北米合衆國ニ捕獲審檢所ヲ設置シ
タリシカ如シ交戰國ハ局外中立國ノ領海ニ於テ捕獲船又ハ捕獲貨物
ヲ賣ルコト能ハス

(九) 交戰國ハ中立國ニ於テ兵員ヲ募集スヘカラス
交戰國ハ中立國ニ於テ兵員ヲ募集スルコト能ハス而シテ其兵士ハ中

立國人タルト第三國人タルト自國人タルトヲ問ハサルナリ然ト雖モ中立國ニアル交戰國人カ本國ノ募集ニ應シテ歸ルヲ看過スルハ中立違背トナラス是レ交戰國人民ヲシテ國民タルノ義務ヲ盡サシムルモノナレバナリ

(十) 中立國ハ自國軍人ヲシテ戰爭ヲ視察セシムル權利ヲ有ス局外中立國ハ自國ノ軍人ヲ派シテ交戰ヲ視察セシムル權利アリ斯ル場合ニ於テハ交戰國ハ之ニ加害スルノ權利ヲ有セス

○局外中立ノ種類

第一 永久局外中立國及局外中立國ノ差別

第一 甲者ハ平時ヨリ存在スル者ニシテ乙者ハ戰時ニ於テ始テ生スル者ナリ

第二 甲者ハ條約ニ據ツテ生スル者ニシテ乙者ハ宣言ニ據ツテ生

スル者ナリ

第三 甲者ハ永久繼續ス可キ者トシ乙者ハ交戰中ニ限り存在ス可キ者ナリトス

第四 甲者ニ在テハ自ラ進ンテ他國ト開戦スルコトヲ得サレモ乙者ニ在テハ如此ノ制限アルナク一タヒ局外中立ノ宣言ヲナシタル後ト雖モ交戰國トナルコトヲ得ヘク其宣言ヲササル已前ニ在テハ勿論交戰國ニ加ハルコトヲ得ヘキナリ

第五 甲者ハ條約ニ據ツテ成立スル者ナルカ故ニ永久局外中立ヲ破ル時ハ條約破毀ノ結果ヲ生ス可キモ乙者ハ條約ニ據ツテ生出シタル者ニ非ラサルカ故ニ唯交戰國ヨリ交戰加入者ト視做サルノミニシテ條約破毀ノ結果ヲ來スコトナシ

第六 甲者ハ國際公法上ノ例外ニシテ乙者ハ即チ其通則ナリ

第二 完全局外中立及不完全局外中立

完全局外中立トハ如何ナル場合ニ際シテモ中立ヲ守ルヘキ者ニシテ不完全局外中立トハ或場合又ハ或時間ヲ限リテ中立ヲ守ルヘシト謂フ者ナリ然レモ如此ノ區別ハ古學者ノ採ル所ニシテ現今ハ此區別ヲ認ムル殆ント希ナリ或場合或原因アル時ニ限り交戦國ノ一方又ハ雙方ニ利害ヲ與ヘテ可ナリト謂フハ是レ局外中立ノ本質ヲ破毀スル者ナリ然ラハ則チ如此區別ハ政治上ヨリ立テタル所ニシテ法律上ヨリ觀レハ毫モ價值アラス甲國カ條約ニ據ツテ平時ヨリ乙國ノ丙國ト開戦スル時乙國ニ援助ヲ與フコトヲ約シタルニ乙丙兩國開戦セハ其名ハ局外中立ナルモ其實ハ局外中立ヲ爲サズシテ可ナリト謂フ者ナリ其説ノ曖昧ナル採ルニ足ラスヘフテル等ハ不完全局外中立ノ正當ナルヲ論シバツテルノ如キハ中立國ハ戰爭ヲ

先見シタルニ非ラスシテ開戦前ニ結訂シタル條約ニ據リ義務ヲ負ヒタル時ハ或制限内ノ援助ヲナスコトヲ得ト謂フカ如キハ無根ノ説ト謂ツヘキナリ

第三 全部局外中立及一部局外中立

全部局外中立トハ版圖ノ全部ヲ中立トナス者ヲ謂ヒ一部局外中立トハ交戦國又ハ第三國ノ或地方ヲ中立トナス者ヲ謂フ千八百五十九年埃地利カ伊佛兩國ト開戦シタル時羅馬法王ノ領地ヲ局外中立トナシタルカ如ク日清戰爭ニ當リ明治二十七年ニ交戦國一方ノ領地タル上海ヲ以テ局外中立トナセシカ如キ即チ是ナリ

○國際擔保

國際擔保ナル者ハ征服若クハ遺産ノ一部ニ於ケル財產權ヲ自己ニ擔保シ及大國ノ野心ニ對シ小國ヲ保護スルノ必要ヨリシテ起ル所ナリ

歐洲ノ國力平均ハ實ニ此擔保ノ法方ニ依ツテ繼續スル者ナリ夫ノ白爾義及瑞逸蘭ハ佛朗西及日耳曼ニ對シ何レノ保護ニ依ツテ其獨立ヲ保ツヤ羅馬尼亞ノ諸王國及世爾費亞ハ露西亞及土耳其政府ニ對シ何レノ保護ニ依ツテ其獨立ヲ保チ得ルヤ弱國ト強國トノ同盟制ハ國際擔保ト同一ノ目的ヲ達スル者ナリ然ト雖モ小國ハ契約義務ニ束縛セラレ時アツテハ歐洲戰爭ニ牽連シ意外ノ變ニ遭フコトアリ國際擔保制ニ至ツテハ則チ被擔保國ハ局外中立ニシテ其獨立ヲ保チ其安寧ヲ保護セラレ歐洲諸大國ノ敵對ヲ逃レ其危機ヲ免ルコト猶ホ傍觀者ノ如キナリ是ヲ以テ國際擔保ハ小國ニ大利アル者ナリ故ニ國際擔保制ハ歐洲ノ國力平均ノ組織ヲ發達進歩セシメタリ政治家ハ大抵數世紀間自國私利自愛主義ヲ去リテ人類普通ノ公益ニ注目シ以テ大權ヲ競爭スル二三大國ノ蠶食ヲ避クル爲ニ強大鞏固ノ制度ヲ立ツルコト力メ

タリキ

國際擔保ハ偏安シテ其目的ヲ達スルヲ得ベキカ曰ク然リ余其形勢ヲ徵スル爲ニ擔保ノ諸例ヲ引證スヘシ千八百十五年奧地利ベントナ府ニ集會セシ諸強國ハ同年六月九日附テ以テ決議書ニ同意シ歐洲地疆再別ニ關スル諸條約ニ捺印シテ以テ特別條約ノ目的ト爲セリ而シテ其決議書第八十四及九十四條ニ於テ瑞逸蘭ノ局外中立ヲ承認擔保スルコトヲ明記セリ同年十一月二十日巴里府ニ於テ同盟諸國ハ奧地利、英吉利、佛朗西、普魯亞及露西亞ノ宣言ト稱スル宣言書ヲ交換シ同盟諸國ハ瑞逸蘭ノ永久中立ヲ嚴肅確實ニ認諾シ其地疆ノ無缺不可侵ヲ擔保スル事ヲ宣言セリ自耳義國ノ獨立スルヤ和蘭陀國ハ千八百三十九年四月十九日ノ條約ヲ以テ之ト講和シ其條約第七章ニ云ク自耳義國ハ獨立且永久ノ局外中立ヲ組織シ諸外國ニ對シテ同一ノ中立ヲ遵奉ス

ルモノト認メラルヘシ此日五大強國ハ白耳義及和蘭陀ト條約書ヲ交換シ又五大強國白耳義及和蘭陀ハ日耳曼聯邦ト其決議書ヲ交換セリ此條約ニ據ツテ白耳義ト和蘭陀ノ間ニ特別條約ヲ結了シ以テ其局外中立ヲ盟定シ五大強國擔保ノ下ニ置カレタリキ

瑞逸蘭及白耳義ノ中立後千八百六十七年ニ及ムテ第三ノ局外中立ヲ創設セリル^ルー^ケン堡大公國即チ是ナリ千八百六十七年五月十一日倫敦府ニ於テ訂盟シタル和英白塊佛伊普露トノ八國間ノ條約文ニ曰ク此大公國ハ永久ノ中立國ニシテ同盟諸國ノ正當ナル擔保ノ下ニ置カ

ル但シ局外中立國タル白耳義ヲ除ク

ベンナ府ノ條約書ニ國際條約ト區別ヲ明記セリ國際條約ナル者ハ其違約國ニ對シ條約保護ノ爲メ同盟諸國ニ開戦ヲ強制スルヲ得ス蓋シ是レ其權利ニシテ義務ニ非サレハナリ是ヲ以テ塊國ノ

倫巴日ノ占領ハベンナ府ニテ八大國ノ連署ヲ以テ之ヲ約定セラレ千八百五十九年ニ佛軍ノ爲メニ奪取セラレス而シテ塊國モ八大國ノ中ニ援助ヲ請フコトヲ欲セザリキ是レ全ク國際擔保ト異ナル者ナリ擔保權ニ至テハ其條約ヲ破壞スル者アレハ本條約ニ記シタルカ如ク關涉權ヲ有シ加之擔保物件ヲ保護スル爲メ戰端ヲ開クベキ權利ヲ有シ又其擔保條約ヲ破壞セラレタル邦國ト其他ノ強國トヲ問ハス被擔保國若クハ同盟擔保國ノ要求ニ應シテ之ヲ征討スルノ權利アリ是レ即チ國際擔保ノ主眼ニシテ之ニ非ラスムハ以テ國際條約ト異ナル所ナシ茲ニ新例ヲ舉ケテ以テ此主旨ヲ證明ス可シ千八百七十年普佛戰爭ノ開クルニ當リ局外中立ナル白耳義ハ普佛二國ノ中ヨリ破壞セラレハコトヲ虞カレリ時ニ英國ハ千八百三十九年ノ條約ニ據リテ白耳義ノ局外中立ヲ擔保セル五大強國ノ一國ナリシヲ以テ塊露ノ二國ニ援

助ヲ請ハスシテ千八百三十九年ノ擔保施行ノ爲メ一方ニハ佛國ニ一方ニハ普國ニ各特別條約ヲ締盟セリ實ニ千八百七十年八月十一日ナリキ此擔保事件ニ於テ英國ハ白耳義ノ局外中立ヲ破壞スル一國ニ對シテ其中立ヲ保護スル所ノ一國ト連合シテ白耳義ノ爲メ之ヲ干戈ニ訴ヘムト欲セリ是レ英國ハ同盟擔保ノ一國ニ反對スト雖モ干戈ヲ與スベキ英斷ヲ宣言シテ以テ自國ノ義務ヲ表セリ

夫レ國際擔保ノ局外中立ハ近隣諸大國カ諸小國ノ領地ヲ爭奪スルコトヲ防禦シテ以テ歐洲ノ平和ト平衡ヲ保ツ爲ニ組織スル者ナリ擔保ノ効力ハ中立國ヲシテ之ヲ遵奉セシメ之ニ依ラズムベ以テ自禦シ難キコトヲ知ラシメ且其擔保ナル者ハ中立國ヲシテ自ラ中立ノ監督ニ從ハシムルニ至レリ若シ其國ニシテ中立ヲ破壞セハ則チ其擔保ノ利益ヲ失ヒ擔保諸國ノ義務ハ之ニ依テ消滅ス然レトモ局外中立ヲ遵奉

スベキ義務ハ相互ノ擔保者ニ存スル者ナリ若シ白耳義ヲシテ千八百七十年ニ於テ佛國ニ同盟セシメバ則チ普國ハ英埃及露國ニ對シテ千八百三十九年ノ條約ヲ佛白二國ニ遵奉セシムヘキ要求權ヲ有スル者ナリ然リト雖也其中立國カ此ノ如ク利益アル地位ヲ拋棄シ我功名心ノ爲メニ擔保力ヲ停止スルカ如キコトハ之レアラザルヘシ是レ其同盟ノ一國若クハ他國ノ攻撃ヲ防禦スベキ危難ヲ生スル者ナレハナリ國際公法ニ據テ牽束セラレサル邦國ニ國際擔保ヲ適用スル場合ハ特別ニ且充分ノ自由ヲ保護スル者トス土耳其國ハ千八百五十六年已來此種ノ擔保ニ屬セリ彼ノクリミア戰爭ヲ終結シタル千八百五十六年三月三十日ノ巴里府條約ノ第七條ニ據ツテ埃英佛普露及伊ノ諸國ハ各自便宜ノ爲メ土耳其帝國ノ獨立及國疆ノ安寧ヲ保護スルヲ約シ各此條約ノ嚴察ヲ擔保シ且此條約ニ反抗シタル行爲ハ共同關係ノ間

題ト断定スヘシト宣告セリ千八百五十六年四月十五日ニ於テ英埃及佛ノ間ニ特別條約ヲ締盟シ前條約ヨリ生スル義務ヲ確定シタリ其條約ニ宣告シテ曰ク此三署名國ハ三月三十日ノ條約ニ據ツテ遵奉シタル土耳其帝國ノ獨立及鞏固ヲ擔保シ此條約ニ違反スル者ハ四月十五日ノ署名國ニ於テ之ヲ開戰原因ト認定スヘシト

千八百五十六年三月十五日巴里府ノ條約ハ千八百七十一年三月十三日倫敦府ノ條約ニ據テ黑海ニ關スル條款ヲ修正シ是ニ於テ擔保ハ聯合擔保者ノ同意ヲ以テ終局セリ然レトモ共同盟約ノ欠缺スル時ニ於テ其一國ニ危險ナル盟約ヲ永久ニ束縛セラル、ハ正理ナリトナスカ曰ク然ラス國際擔保ノ契約ハ一個人ノ締盟シタル單獨契約ノ如シ唯期限ノ繼續年月アルヘキ者トス國家ト雖ヒ一個人ト雖ヒ破廉恥ノ行爲若クハ英雄然タル失行アルニ非ラスシテ己カ履行シ難キ盟約ヲ解

脱スルヲ能ハサル地位ニ置レタルガ如キハ正理ニ戻リタル者ナリ國際擔保ノ利益ハ歐洲ノ平和ト安寧ニ對シテ重大ナル者ナリ故ニ其聯合擔保者ニ於テハ大ナル危險ハ之アラサルヘシ

擔保國ニ賦課シタル責任ハ千八百七十年ニ於テ英國カ白耳義國ノ局外中立ヲ保護スル爲メ要求セラレタル兩會議ニ證明シタル如ク實ニ重大ナル者ナリ此變ニ發シタル危險ニ依テ英國一般ニ國際擔保ヲ危虞シタリ是レ既ニルツケンバルク大公國ノ條約後千八百六十七年ニ於テ其危惧ヲ表ハセリスタンレー卿ハ千八百六十七年ノ下院ニ於テ各擔保諸強國ハ集合擔保ヲ締盟シタル條約ニ於テハ個人主義ヲ主張セス當ニ集合擔保ノミナラス都テ是レ聯合擔保權ヲ有スル者ナリトノ理由ヲ以テ國民ノ危惧ヲ安シタリキ之ト同時ニデルピール伯ハ上院ニ於テスタンレー卿ト同一ノ意見ヲ演說シ千八百五十六年三月三十

日ノ條約ヲ引證シテ集合擔保ハ全躰ニ要スル者ニシテ分離躰ニ非ラサルノ例ヲ示シヌ千八百五十六年四月十五日ノ條約ヲ引證シテ個人擔保ハ聯合擔保ノ手續キニ依ラスシテ各擔保者ヲ要スルノ例ヲ示セリ此問題ハ再ヒ千八百七十一年三月六日上院ニ於テマルムスパーリ卿トグラントヒール卿トノ間ニ議論ヲ起シ又千八百七十二年四月十二日下院ニ於テグラットストーン氏ハ精密ナル説明ヲ爲シ其結果ニ因リテ國際擔保ノ定約ハ同盟諸強國ノ專制力ニ束縛セラル、者ニ非ス而シテ其處分ハ臨機ニ從フ者トナスニ至レリ然レトモ此主義ハ承認セラレ、者ニ非ス蓋シ道德上條約ノ本意ニ戻レハナリ是レ茲ニ辯駁スルノ必要ナシ然レトモスタンレー卿及デルビー伯ノ立テタル區別ハ稍正格ナル者ノ如シ此說ニ據レハ英國ハ聯合擔保者カ其義務ヲ履行スヘジト斷定シタル者ノ外ハルツケンバルク大公國及土耳其帝

國ニ關スル擔保ニ束縛セラレサル者トナセリ此釋義ハ甚ダ專斷ナル者ナリ蓋シ聯合擔保者ノ總合力ニ依テ義務ヲ束縛セシムベキ必要アルニ當リ其同盟ノ一國カ破約スル時ハ全躰ノ擔保ヲ無効ニ歸スルヲ以テナリ茲ニ承認セラレヘキ說ハ若シ多數ノ擔保諸強國カ協戮ヲ嫌忌スル時ハ其少數者ハ其義務ヲ免レテ唯相當ト認ル所ノ關涉權ノミヲ保持スルニ在リデルヒー伯カ監察シタル千八百五十六年三月三十日ノ條約ト同年四月十二日ノ條約ノ相違ハ眞理ナル者ナリ歐洲平和ノ利益ハ國際擔保ヲ嚴肅ナラシムルヲ要スルナリ而シテ之カ爲メ余カ思考スル如ク擔保諸國ニ於テ其擔保年間ヲ一定ノ年間ニ限定シ其條約文ニ於テ各賦課シタル義務ヲ更ニ明記スルコトヲ要スヘシモリスプロツク曰ク余ハ擔保ノ年限ヲ限定スルノ最モ必要ナルヲ主張セント欲ス是レ將來永年ノ變事ヲ先見シ難ク且無期永久ニ自己

ヲ束縛スルハ粗忽ナル者ナレハナリ假令ヒ十年乃至十二年間ノ短日月ト雖モ未來ノ狀況ヲ先見シ難キハ疑ヲ容レサル所ナリ然リト雖モ政治及社會ノ事情ニ於テ未來ニ關スル約定ヲ盡ク忌避シ難キカ故ニ其約定ノ年月ヲ限定スレハ則チ危險ヲ減却スヘキナリ余ハ十年乃至十二年間ノ事變ハ大抵精確ニ推算スルヲ得ヘシ蓋シ無革命國ニ取テハ短日月ナレハナリ一方ニ於テハ十年乃至十二年間ノ有効擔保ハ一般ニ新建國ヲ鞏固ナラシムルカ若クハ人類ノ私慾其他ノ感情ヨリ生スル危難ヲ免レシムルニ足ル者ナリ之ニ反シテ若シ擔保ノ目的カ事物ノ位置ヲ永久ニ保險スルニ在ラハ則チ何ソ其擔保條約ノ定限改正ヲ拒ムトカ之アラムヤ是ヲ以テ余ノ勸告スル所ハ擔保ノ度ヲ減シテ特別ノ場合ニ於テ唯定限ノ時間ヲ擔保シテ其擔保ヲ嚴肅ニスルニ在リ

○國際軍備

歐洲列國ノ軍備ハ今ヤ數十億ノ巨額ヲ消費シ其國力將サニ盡キントス是レ其常則ニ適シ安寧ヲ保テルモノト謂フベカラス然リ而シテ此形勢ヲ醫スルノ策之レナキカ此軍備ハ吾人ヲ何ノ處ニ誘導スベキカ將來ノ戰爭ハ如何ノ條件ニ因テ開クベキカ紛爭ヲ終結スルタメ戰爭ニ依頼スルハ智ト謂フベキカ一切諸要素ノ瓦解ヲ招キツ、國際的難問ヲ解決シ得ベキカト是レ之ヲ實際ニ徵スルニ非ザレバ疏明スルヲ得ザルベシ蓋シ其時ニ至ラハ世人ハ幾ント二十年乃至四十年間數十億ノ巨額ヲ無益ニ費消セシユトヲ知ルベシ何トナレハ當局者ハ決シテ大軍ヲ動カシ得ザルベク而シテ大軍ハ紛議ヲ終結セシムルノ救トナラザルベキヲ以テナリ然レドモ其時ハ事既ニ晚クシテ其損失ハ其極ニ達スベク而シテ全歐洲ハ今日ノ伊太利ノ如キ形勢ニ至ルベシ

此時ニ當リテ吾人ノ懼ルベキハ外部ニ在ル戦争ノ危険ニ非スシテ全ク他ノ危険ニ在ルナルベシ
 社會及經濟上ニ於テ將來ノ戦争ハ如何ナル結果ヲ生ズベキカ普佛戦争ノ際豫備兵ノ大數ヲ動員セシ普國ヲ除ケバ在役軍ハ今日マテ現役兵若クハ曾テ現役ニ服シタル者ヨリ編制セラレタルノミ然レドモ今ヤ戦争ハ歐洲ノ生産的職業ヨリ數百万人ヲ奪ヒ去ルベシ若シ斯ノ如キ大數ノ労働者全体ガ生産ヲ止ムレバ則チ不測ノ擾亂ヲ經濟社會ニ生ズベキコト明カナリ戦争ノ禍難ニヨリテ最モ影響ヲ蒙ルベキモノハ商工業ノ人民最モ甚シク商店及工場ハ閉鎖セラレ日給ニ衣食スル數百万ノ職工ハ勿論其家族モ共ニ悲境ニ陥ルベシ宣戰ノ令アルヤ物價ハ割合ニ暴騰シ糧食ノ價格ハ交戦ノ間騰貴シテ止マス而シテ職工社會ノ資力ハ俄ニ減少スベシ且夫レ社會ノ各級民ハ公債證書及ヒ

銀行紙幣ノ價格下落ニ因ツテ痛撃ヲ蒙ルベシ若シ歐洲諸國が大亂ニ次ギテ一年間其國人ヲ給養スルタメ自國ノ資産ノミニ限ラル、トキ即チ外國ヨリ穀類ヲ輸入セシムルコト能ハザルトキテ想像セバ獨國ハ百二日分佛國ハ三十六日分英國ハ二百七十四日分伊國ハ七十五日分澳國ハ七日分ナリトス此ノ如キ糧食缺乏ヲ生ズベシ此ニ由ツテ之ヲ見レバ歐洲戦争ニ依リ最モ多ク苦痛ヲ感ズベキハ英獨ノ二國ナリ歐洲ノ大亂ハ凶歉若クハ糧食ノ一大騰貴ヲ惹起スコト争フベカラズ然ラバ則チ戦争ノ結果ハ饑饉ナルベシ又歐洲各國カ戦争ニ要スベキ費額ヲ推度スルニ近年ノ戦争ニ要シタル費額ニ基ケハ兵卒一人ノ給養ガ一日十法ト計リ一日分トシテ左ノ結果ヲ生ス
 獨國ノ兵卒二百五十五万人ニ對シ二千五百五十分法
 澳國ノ兵卒百三十万人ニ對シ千三百万法
 伊國ノ兵卒百二十八万一千人ニ對シ千二百

八十一万法三國同盟ノ總計五千百三十一万法佛國ノ兵卒二百五十五万四千人ニ付二千五百五十四万法露國ノ兵卒二百八十万人ニ付二百万法二國同盟ノ總計五千三百五十四万法然ラバ二國同盟ト三國同盟トノ戰爭ハ一日總計ニ於テ一億〇四百八十五万法ヲ費スベシ而シテ此數ニ依リ單純ナル乘算ヲ以テ數月若クハ數年間ノ一戰爭ガ各國ニ要スベキ所ノモノヲ推測スヘキナリ加之ナラズ諸國ハ旗下ニ在ル兵士ノ家族ヲ補助スル爲メ日々支出スベキモノアルベシ其額左ノ如シ

獨國一百九十七万千法奧國五十二万六千法伊國五十万一千法佛國一百三十万八千法露國六十三万七千法總計四百九十四万九千法ムニツテ某委員會ニ於テ近時發行セシ將來ノ戰爭ト題スル一小冊子ノ著者ハ戰時ニ於ケル獨逸ノ財況ヲ論シ同國ガ別ニ豫備シタル軍用金ハ動

員ニヨリテ消耗セラルベク而シテ時ノ形勢ニ應ズルガ爲メニ前代未聞ノ割合ニ於ケル強制的相場ヲ以テ已ムヲ得ス公然若クハ隱然ニ紙幣ヲ發行スルニ至ルベシト言ヘリ著者ハ後段ニ至リテ吾人ハ佛國革命ノ時代ニ於テ斯ノ如キ制度ノ結果ガ夥多ノ家族ヲ破壊シ且ツ商業ヲ妨害シタルヲ見タリト而シテ又後段ニ至リテ曰ク金貨ニテ戰爭ノ償金ヲ仕拂フコトハ殆ド不可能ノ事ナルカ如シ勝者モ敗者モ共ニ數十年ノ後ニ非ザレバ經濟上自ラ恢復セザルベシト

シヤンドプロツクハ戰爭ノ繼續期間ハ交戰國ノ經濟狀況ニ屬スベシト論シ以爲ラク殆ド舉國男子ノ徵集海路貿易ノ遮斷商工業ノ阻止物價ノ昂騰等ニ因リ個人及國家ノ收入ハ減少スベク是ニ於テカ當然左ノ如キ疑問ヲ生ズルニ至ル曰ク諸強國ハ軍人ノ豫言セル戰爭期間軍隊ヲ維持シ豫算ノ需求ニ満足ヲ與ヘ且ツ無職人民ヲ救助スヘキ成算

ヲ立ルヲ得ヘキ乎此等ノ考察ニ因リ平和ハ必然確定セラル、ニ至ルベシ但シ是レ戰勝ニ次ギテ確定セラレズシテ交戰國ノ疲弊ノ狀態其レヲシテ必要ナラシムベシト

次ニ各戰場ニ於ケル三同盟國及二同盟國ノ兵力ノ分配ニ付頗ル裨益アル説明ヲ與ヘタリ其說ニ據レバ內國ノ守兵ト不慮ニ中立國ガ戰爭ニ關與スルヲ妨止スル爲メ境上監視ノ任ニ當レル兵隊トヲ算外ニ措キ五大交戰國ノ兵力ハ左表ノ如ク分配セラルベシ

戰地	露塊獨	佛獨	伊佛	計
獨逸	六十九万人	二百三万五千人		二百七十二万五千人
澳地利	九十七万九千人			九十七万九千人
伊太利			七十七万人	七十七万人
合計	二百三万九千人	二百三万五千人	七十七万人	四百四十四万四千人

露西亞 二百五十三万九千人

二百五十三万九千人

佛蘭西

二百十二万六千人

五十万人

合計二百五十三万九千人 二百十二万六千人 五十万人 五百十六万五千人

後段ニ至リテ曰ク佛國モ獨國モ等シク白耳義若クハ瑞西ノ局外中立ヲ破ルハ其利ニアラザルベシト次ニドプロツクハ佛伊間ノ抗戰ヲ論シテ曰ク此兩國ハ孰レモ一方ニ對シテ烈シキ攻勢ヲ執ルニ於テ何等ノ利益ナカルベシ且ツ若シ經濟上伊國ノ無勢力及佛國トノ戰爭ノ不人望ヲ推考スルトキハ此兩國民間ノ抗敵ハ佛獨間ノ決戰ガ戰爭ノ終局ヲ告グルニ先ダテテ必ズ止ムベキコトヲ豫察スベシ蓋シ佛獨二國ハ軍事上ノ組織ヲ以テスレハ伊國ヨリモ最モ長ク戰爭ヲ爲スノ狀態ニ在リ此ノ如クナレバ佛國ハ危急ノ場合ニ於テ伊軍ノ爲メニ動カザリシ兵ノ全力ヲ擧ゲテ獨國ニ向フヲ得ベシト

○國際仲裁

佛蘭西ガアルサスローレーヌヲ獨逸ニ屬セシ事ガ現今歐洲ニ於ケル軍備ノ一主因ト成リ新戰爭ハ今後一世紀間モ徒ラニ佛獨兩國間ニ存スル不和ヲシテ更ラニ深カラシムベシ然ラバ則チ敗績ノ遺恨忘レ難ク且ツ其ノ二州ヲ失ヒタルニ拘ハラズ佛國ガ獨國トノ一戰爭ニ於テ勝敗ヲ賭セザルベキハ吾人ノ認メタル所ナリ佛國ニシテ若シ開戦ヲ宣告スルトキハ必ラズシモ露國ノ援助ニ依頼スルヲ得ズ此國民ハ更ラニ最モ高尙ナル義務ノ實行スベキモノアリ即チ彼ハ其資力ト精力トヲ植民事業ニ用ヒ其ノ出費ノ巨額ヲ減ゼンコトヲ求メ且ツ其共和國ノ名譽タルベキ改革事業ヲ漸次完成スルコトヲ努メザルヘカラズ自國ノ繁榮ノ爲メニ勤勉シ文明ノ前頭ニ進メル佛國ハ之レト同時ニ人類全體ノ福祉ヲ爲スベシ故ニ歐洲諸

國ガ直ニ兵備ノ解除問題ニ同意スルハ其願フ所ナリ若シ各國政府ガ國際裁判所ヲ創設スルノ可能ヲ承認スルニ於テハ佛國ハ人後ニ落チザルベシ主タル困難ハ佛露二國間ニ存スル親交ヲ傷ルコトヲシ諸強國ノ爲メニ佛國ト和解スルノ方法ヲ發見スルニ在ルベシ而シテ此問題ノ解決ハ必ズ之ヲ外交術ニ待タザルベカラズ想フニ佛國ハ終ニ國際的和合ニ左担スルノ已ムヲ得ザルニ至ルベキナリ

然トモ佛國ハ決シテアルサスヲ斷念セザルベシ佛國ハ兵力ニ讓レリ然ドモ常ニ抗論スヘシ歲月ハ經過スルモ佛國ハ決シテ忘レサルベシ佛國ハ好時機ヲ待ツヘシ而シテ其時機ハ必ス來ルベシ獨逸ハ歐洲ニ於テ其承諾ヲ經ルナクシテ佛國ノ二州ヲ奪ヘリ佛國何等ノ權利ヲ以テ今日此掠奪ノ行爲ヲ確認スベキ條約ニ贊同シ且ツ全歐洲ヲシテ之ヲ承認セシムベキヤ

獨國ノ代表者ハモルトケ及カプリヅ井ノ旨ヲ承ケ左ノ如ク答フベシ
 曰クメツツ及ストラスブルクノ占有ハ我が郷國ノ安寧ヲ保全スル爲
 メニ必要ナリ獨逸ハアルサスローレーヌヲ自國ニ屬スルノ權利ヲ有
 ス何トナレハ第一ニ其戰勝ノ賞トシテ此ノ二州ヲ要求スルヲ得ヘク
 レバナリ次ニ數世紀間兩國ノ間ニ蟠マル境界ノ爭論ヲ確然規定スル
 ノ義務アリタレバナリト復讐ノ熱望ハ佛國ガ千八百七十年以來其軍
 備ノ爲メニハ何等ノ犧牲モ辭セザルヲ以テ推知スベシ
 ドプロツクハ佛獨ノ關係ヲ論シテ曰ク佛國ハ千六百八十一年中スト
 ラスブルクノ市府ヲ略取シ獨國ハ千八百七十一年中之ヲ回復セリ而
 シテ佛人ハ獨人ヨリモ七倍ノ長時期間之ヲ占有セリト雖モ裁判上其
 ノ間ニ差等アルコトナシ若シ昔時ノ境界異ナレリトノ口實ヲ以テ現
 今ノ國境ヲ論爭セント欲セバ何レノ日カ底止スルコトヲ得ン佛人ガ

千八百七十年ヨリ七十一年ニ亘レル戰爭ノ間獨人ヨリ蒙リタル無數
 ノ殘虐ヲ引證スルハ事實ナリ然レドモ第一ニ此等ノ愁訴ハ張大ニ失
 シ第二ニハ那破烈翁一世ハ獨逸ニ於テ彼ノ如ク殘虐ヲ爲ザリシ乎
 若シ佛人ガ公平ヲ示サント欲セバ獨逸ハ路易十四世以來佛國ヨリ爲
 シタル侵畧ノ戰爭ヲ千八百七十年乃至七十一年ノ戰爭ニ於テ報復シ
 タルコトヲ承認セサルヲ得シ最終ニ普國モ亦タイエナノ耻辱ヲ有セ
 リ

佛國ノ代表者タルルザール將軍ガ解備ノ謬想ト題スル著書ニ記シ
 テ曰ク佛國ハ其敗ヲ忘レ得ルガ爲メニ充分軍功ニ富メリ彼ハ屢之ヲ
 證シタルガ就中クリミヤニ於テハウハテルローノ敗ヲ追想スルコト
 ナク英人ヲ援助救護セリ千八百十五年ニハ抑壓的條約ヲ承諾シ其ノ
 侵略地ヲ還附セリ然レトモ其舊境界ヲ存セリ同盟ノ爲メニ敗ヲ取レ

ル佛國ハ凌辱セラレ、ニ至ラザリキ千八百七十一年フランフォールノ條約ハ全ク之ニ異ナレリ佛國ハ剝奪サレタル州國ノ切望ニ反シテ不正ニ其土ヲ割カレタリ力ハ權利ヲ凌グリ他日我ハ敗北ヲ忘ル、ヲ得ベシ然レドモアルサスローレーヌニ至リテハ決シテ忘レザルベシ不幸ノ苦痛ハ時ヲ經テ自ラ消却スウアテルローハ之ヲ證ス然ルニ割地ノ苦痛ハ依然トシテ永存セリ現時ノ奴隸タル此二州ノ分割セラレタル不變ノ事實ハ絶エズ其ノ喪失ノ悲痛ヲ激セシム

ドプロツクハ佛獨二國ガ兵力ヲ以テ其紛争ヲ決セントスルモノト假定シ兩箇ノ可能的假定説ヲ考究シタリ

第一ノ場合ニ於テ敗北シタル獨逸ハ國力全ク竭盡シ佛國ハ之ニ對シ毫モ戰費ヲ要求シ得ズシテ萊茵河ニ至ル全土ヲ占有シ以テ自ラ償ハザルヲ得ザルニ至ルベシ然レドモ此ノ領土ハ佛國ノ爲メニ利益ヨリ

モ寧ロ危險ヲ醸スベキ域ニ破壊セラレベシ加之ナラズ獨人ハ一方ニ於テ其報復ヲ爲サント欲スベシ是ニ於テ更ニ戰爭起リ此二國ノ一方ガ全然其敵ヲ滅シ且ツ近隣諸國ト其領土ヲ分割スルニ至ラザレバ止マザルベシ第二ノ場合ニ於テハ獨逸ノ爲メニ敗ラレタル佛國ハ或記者ノ言ヘル如ク恐ラク世界ノ地圖ヨリ消滅シ去ラルベシ縱ヒ然ラザルモ再ビ頭ヲ擡げ能ザル域ニ凋落シテ歐洲最小國ノ列ニ下ルベシ若シ之ニ反シテ米國ガ抗爭ヲ斷念シテ獨逸ト通常ノ交際ヲ維持スルコトヲ承諾スルトキハ未曾有ノ繁盛ヲ來シ其技量ハ更ニ光輝ヲ發シ文明ノ前頭ニ進ムベク而シテ巴里ハ實ニ世界ノ首府トナルベシ

佛國ハ若シアルサスローレーヌヲ回復スル爲メ獨逸ヲ攻撃セント欲スルトキハ何ノ同盟國ニモ其援助ヲ依頼スベカラズ而シテ彼レ單獨ニテハ何等ノ成功ヲモ期望シ得ザルベシ獨逸モ佛國ト戰端ヲ開クニ

於テ何等ノ利益ヲ有セズ且ツ露國トノ戰爭ニ付キテモ何等ノ得ル所
 ナカルベシ露國ハ西歐ニ於テ毫モ新領土ヲ得ルノ要ナシ其政治上ノ
 義務ハ彼ヲ極東ニ招ケリ餘ス所ハ東歐問題ナリ然レドモ此問題ハ埃
 露兩國ガ其目的ニ於テ一戰爭ヲ企ツノ勞ヲ酬ヒルニ足ラス兩國ハ此
 戰爭ノ爲メニ國力ヲ糜爛シ且ツ佛獨及伊ハ蓋シ之ニ關涉スルニ至ル
 ヘシ

右諸問題ノ外トプロツクハ現今歐洲ニ於テ何等重大ナル希望ヲ發見
 セズ然ラハ則チ瑣細ノ理由ガ戰爭ヲ起スコトヲ妨止スルノ手段ヲ講
 ゼザルベカラズ而シテ最良ノ手段ハ國際裁判所ノ創設ナリトス此創
 設ニシテ成ルアラバ歐洲ハ向後戰爭準備ノ重任ヲ脱シ其現ニ軍備ニ
 貢獻スル大金ヲ轉用シテ諸國民ノ生産力ヲ増加シ其有形的狀況ヲ改
 進シ而シテ後學術技藝及工業ヲ發達セシムルヲ得ヘシ今ノ時ハ此考

案ノ實行ニ最モ利アリ同兵力ノ二大野營ニ於テ諸大國ノ集團ヲ代表
 スル二國同盟若クハ三國同盟ノ組織ハ必ズ最終平和ノ議決ニ大關係
 アルヲ得ベシ次ニ諸國間ノ紛議ヲ裁決スベキ國際裁判所ノ組織如何
 ノ講究ヲ要ス同裁判所ハ諸國ガ其利益ヲ傷害セラレ又ハ犧牲ニ供セ
 ラル、コトヲキ安心ヲ有スル如キ組織ナラザルベカラズ而シテ國際
 裁判所ハ各政府ヨリ任命セラルヘキ充分多數ノ常置委員ヲ以テ組織
 セラル、ヲ要ス此外更ニ又至高控訴院ノ如キ最高等ノ裁判所ヲ設置
 スヘシ此裁判所ハ或ハ諸政府ノ任命セル委員或ハ各自國ニ於テ任ぜ
 ラレタル官職ニヨリ最モ公平ヲ擔保スル所ノ人物例ヘバ立法議院參
 議院及ヒ最高裁判所ノ議長ヲ以テ組織スベシ此等臨時委員ハ特別ノ
 場合ニノミ招集セラルベク而シテ其任命ハ國際至高控訴院ノ招集ヲ
 要スル紛議ノ起ル前ニ於テスベシ著者ハ終ニ臨ミ斷言シテ曰ク吾人

ハ何レノ政府モ本案ヲ排斥スルノ膽勇ナシト確言スルヲ得縱ヒ某國民ハ其敗績ノ痛マシキ記憶ヲ忘レズシテ侵略ノ思想ヲ養成シ最初ハ此人類ノ福祉ニ關スル實施ニ反對スト雖モ忽チ世ノ趨勢ニ依リテ之ニ同意セザルヲ得ザルニ至ラント

○國際仲裁裁判

國際仲裁ハ國際公法ニ於ケル一行爲ニシテ其目的ハ國家間ノ爭議ヲ講和スルニ在リ又講和談判ヲ三種ニ區別ス其一仲裁國ハ國際爭論ヲ調停スル爲ニ天職ヲ奉行スルコト其二仲裁國ハ公平ナル意見ヲ提出スル爲ニ選任セラレ其可否權ハ之ヲ交戰國ニ有セシムルコト其三正義衡平ノ原理ニ基キテ交爭兩造ヲ束縛スヘキ宣告ヲ發スヘキ裁判官即チ仲裁人ヲ組織スルコト是ノ如ク仲裁國ハ天職ノ奉行講和及仲裁ヲ有シ此法方ニ就キ各其規定ヲ設ケ双方ニ對シテ權利義務ヲ負荷セ

シムルナリ天職ノ奉行ハ概チ自然ノ感情ヨリ發スル者ニシテ其目的ハ交戰國ヲシテ理非ヲ了解セシメテ以テ暴行ヲ防キ正當ノ和解條約ヲ提出認諾セシメテ以テ其諸權利ヲ確定スルニ在リ是レ仲裁ノ初步ナリトス

仲裁ハ侮辱ヲ輕減シ怨恨を殺滅シ其心情ヲ教化シテ以テ平和ヲ保護スル講和目的ノ爲ニ贈遣シ認諾セラレタル者ナリ其趣旨ハ私利自尊ヨリ生スル難題ヲ宥メ反對要求ノ講和ヲ完結シ之ヲ仲裁裁判ニ導クニ在リ仲裁裁判ハ公共ノ同意ヲ以テ選舉シタル一人若クハ數人ノ判官ノ人選ニ據テ之ヲ組織シ其爭論ヲ裁決シ其宣告ヲ發布シ國際條約ノ如ク一ノ法律及規則トシテ服務スル者トス

余謂ラク國際爭論ヲ講和スルノ手續ハ一個人ノ爭論ニ適用スル者ト毫モ異ナルヲナシ蓋シ國家ナル者ハ各個人ノ團躰ニ外ナラス而シテ

其團體ハ事實及理論上ニテ其團體ヲ組織スル所ノ各個人ヲ支配スルモノヨリ外ノ法律ヲ有セサルナリ天然ノ權利ハ同一源ヨリ發スル者ナリ故ニ其原理ハ一個人ト均シク之ヲ國家ニ適用スルナリバツテル曰ク正義ハ各個人間ヨリモ各國間ニ最モ必用ナル者トス何トナレハ不正義ハ政治團體ノ爭論ニ於テ最モ恐ルベキ關係ヲ有スレハナリ故ニ各國ハ已ニ屬スル所ノ權利ハ悉ク他國ヲシテ之ヲ尊重セシメ又他國ヲシテ其權利ヲ安全ニ享有セシムルニ在リ然リト雖モ此ニ差違ノ在ル所ハ自由ニ且ツ主權アル國家ニ於テハ其爭論ノ判決ヲ聽クカ爲ニ召喚セララルヘキ高等判官ナル者アラサルト同時ニ人民社會ニ於テハ各個人ノ權利ニ對シテ尊重ヲ強制スルノ權力アルヲ是ナリト故ヲ以テ上帝ハ其天職ヲ奉行シ或ハ仲裁人トシテ撰任シ或ハ仲裁裁判官トシテ認諾スル仲裁國ノ重大ナル物力ニ任セサルベカラサルナリ

○國際仲裁裁判條約

我允文允武ナル 天皇陛下ハ深ク仲裁裁判ニ叡慮ヲ勞セラレ明治三十二年七月二十九日和蘭海牙ニ於テ獨逸國外二十有六國ト國際仲裁裁判條約ヲ締盟セラレ同三十三年十一月二十一日ヲ以テ之ヲ公布セラレタリ其文左ノ如シ

第一節 仲裁裁判

第十五條 萬國仲裁裁判ハ紛争國ノ選定セル裁判官ヲシテ法ヲ尊重スルノ基礎ニ據リ國ト國トノ間ニ生シタル紛議ヲ處理セシムルコトヲ以テ目的トス

第十六條 法律問題就中國際條約ノ解釋又ハ適用ニ關スル問題ニ就テハ記名裁判ヲ以テ最モ有効ニシテ且最モ公平ナル方法ト認ム

第十七條 仲裁裁判條約ハ既ニ生シタル紛議又ハ將來生ズルコトア

ルベキ紛議ノ爲ニ締結ス

仲裁裁判條約ハ總テノ紛議又ハ特ニ指定シタル種類ノ紛議ノミニ
關スルコトヲ得

第十八條 仲裁裁判條約ハ誠實ニ仲裁宣告ニ服従スルノ約束ヲ包含
ス

第十九條 仲裁裁判ニ依頼スベキ義務ヲ記名國ニ對シテ現ニ規定シ
タル一般若クハ特別條約ノ有無ニ拘ラズ記名國ハ仲裁裁判ニ付ス
ルコトヲ得ベシト思料スル一切ノ場合ニ義務的仲裁裁判ヲ普及セ
シメムルガ爲本條約批准前又ハ其ノ後ニ於テ一般若ハ特別ノ新協
定ヲ爲スノ權利ヲ保留ス

第二節 常設仲裁裁判所

第二十條 外交上ノ手段ニ依リテ處理スルコト能ハザリシ國際紛議

ヲ直ニ仲裁裁判ニ付スルニ便ナラシムルノ目的ヲ以テ記名國ハ何
時タリトモ依頼スルコトヲ得ベキ且紛争國間ニ反對ノ規約ナキ限
ハ本條約ニ掲ゲタル手續ニ依リテ其職務ヲ行フベキ常設仲裁裁判
所ヲ構成スルコトヲ約定ス

第二十一條 常設仲裁裁判所ハ紛争國ノ間ニ特別ノ裁判所ヲ設置ス
ルノ協議スル場合ノ外一切ノ仲裁事件ヲ管轄スルモノトス

第二十二條 海牙ニ萬國事務局ヲ設置シ仲裁裁判所書記局ノ事務ニ
當ラシム

右事務局ハ裁判所ノ開廷ニ關スル通信ノ媒介者トス
事務局ハ記録ノ保管ヲ掌リ一切ノ行政事務ヲ處理ス

記名國ハ相互ノ間ニ定メタル一切ノ仲裁裁判規約ノ認證謄本并其
ノ當事者タル場合ニ特別裁判所ガ下シタル仲裁宣告ノ認證謄本ヲ

海牙萬國事務局ニ交付スルコトヲ約定ス
記名國ハ仲裁裁判所ノ下シタル宣告ノ執行證ヲ證明トスルコトアルベキ法律規則及文書モ亦同シク右事務局ニ交付スルコトヲ約定ス

第二十三條 各記名國ハ本條約批准後三箇月以内ニ國際法上ノ問題ニ堪能ノ名アリテ德望高ク且仲裁裁判官ノ任務ヲ受諾スルノ意アル者四名以下ヲ指定スヘシ
右指定ヲ受ケタル者ハ仲裁裁判所裁判官トシテ名簿ニ記入シ事務局ヨリ之ヲ各記名國ニ通知スベシ
仲裁裁判官ノ名簿ニ異動アル毎ニ事務局ヨリ之ヲ記名國ニ通知ス
二國若ハ數國相約シテ共同ニ一名又ハ數名ノ仲裁裁判官ヲ指定スルコトヲ得

同一人ニシテ數國ヨリ指定セラレ、コトヲ得
仲裁裁判所裁判官ハ其ノ任期ヲ六箇年トス但シ再任セラレ、コトヲ得

仲裁裁判所裁判官中死亡又ハ退職スル者アルトキハ其ノ任命ノ爲ニ定メタル方法ニ依リ之ヲ補缺ス

第二十四條 記名國ハ其ノ相互ノ間ニ生ジタル紛議ヲ處理セムガ爲メ常設仲裁裁判所ニ訴ヘムト欲スルトキハ其ノ紛議ヲ裁定スベキ當該裁判部ヲ組織スル仲裁裁判官ノ選定ハ仲裁裁判所裁判官總名簿ニ就テ之ヲ爲スベシ
仲裁裁判部ノ構成ニ關シ紛争國相互間ニ直接ノ協定ナキ場合ニハ左記ノ方法ニ從フベキモノトス
雙方ニ於テ各二名ノ仲裁裁判官ヲ選定シ右仲裁裁判官ハ共同シテ

更ニ一名ノ上級仲裁裁判官ヲ選定ス
 其ノ投票相半バシタル場合ニハ雙方ノ協議ヲ以テ指定シタル第三
 國ニ上級仲裁裁判官ノ選定ヲ委託ス
 若右指定ニ關スル協議成立セザルトキハ雙方ニ於テ各々異リタル
 一國ヲ指定シ其ノ指定セラレタル兩國ノ協議ヲ以テ上級仲裁裁判
 官ヲ選定ス右ノ如ク仲裁裁判部ノ構成ヲ了リタルトキハ雙方ヨリ
 常設仲裁裁判所ニ訴フルノ決意及ビ仲裁裁判官ノ氏名ヲ事務局ニ
 通知ス
 仲裁裁判部ハ雙方ノ定メタル期日ニ開廷ス
 仲裁裁判所裁判官ハ外國ニ在リテ其ノ職務ヲ執行スルニ方リ外交
 官ノ特權及免除ヲ享有ス

第二十五條 仲裁裁判部ハ通常之ヲ海牙ニ設置ス仲裁裁判部ハ不可

抗力ノ場合ノ外雙方ノ承諾ヲ經ルニ非ザレハ其ノ所在地を變更ス
 ルコトヲ得ス

第二十六條 海牙萬國事務局ハ其ノ廳舎及局員ヲ記名國ノ爲特別仲
 裁裁判所ノ用ニ供スルコトヲ得

常設仲裁裁判所ノ管轄ハ雙方ニ於テ其ノ裁判ニ訴フルコトヲ協定
 シタルトキハ規則ニ定メタル條件ニ從ヒ之ヲ非記名國間又ハ記名
 國ト非記名國トノ間ニ生シタル紛議ニ及ボスコトヲ得

第二十七條 記名國ハ其ノ一國又ハ數國ノ間ニ激烈ナル紛争ノ起ラ
 ムトスル場合ニハ常設仲裁裁判所ニ訴フルノ途アルコトヲ紛争國
 ニ注意スルヲ以テ其ノ義務ナリト認ム

故ニ記名國ハ紛争國ニ向テ本條約ノ規定アルコトヲ注意シ且平和
 ノ大切ナル利益ヲ保タムガ爲メ常設仲裁裁判所ニ訴フベキコトヲ

勸告スルハ全ク周旋ノ行爲ニ外ナラザルモノト看做スベキコトヲ
宣言ス

第二十八條 少クトモ九箇國ニ於テ本條約ヲ批准シタル後ハ成ルベ
ク速ニ常設評議會ヲ海牙ニ設置シ同府ニ駐劄スル記名國ノ外交代
表者及和蘭國外務大臣ヲ以テ之ヲ組織シ和蘭國外務大臣ヲ推シテ
其ノ議長トス

評議會ハ萬國事務局ヲ創設組織スルノ任務ヲ有シ并之ヲ指揮監督
ス

評議會ハ仲裁裁判所ノ構成ヲ各國ニ通知シ及其ノ開廳ノ設備ヲ爲
ス

評議會ハ其ノ事務章程及其ノ他必要ナル諸規則ヲ定ム

評議會ハ仲裁裁判所ノ職務執行ニ關シテ生ズルコトアルベキ行政

事務上一切ノ問題ヲ決定ス

評議會ハ事務局ノ役員及雇員ノ任命停職及罷免ニ關スル全權ヲ有
ス

評議會ハ俸給及手當ヲ定メ并全般ノ經費ヲ監督ス

評議會ハ正當ニ招集セラレタル會合ニ於テ五名以上ノ出席者アル
トキハ有効ノ評議ヲ爲スコトヲ得決議ハ投票ノ多數ニ依ル

評議會ハ其ノ制定シタル諸規則ヲ速ニ記名國ニ通知シ且毎年仲裁
裁判所ノ事業行政事務ノ執行及經費ニ關スル報告書ヲ記名國ニ提
出ス

第二十九條 萬國事務局ノ經費ハ萬國郵便聯合事務局ノ爲ニ定メタ
ル比例ニ依リ記名國ニ於テ之ヲ負擔ス

第三節 仲裁裁判手續

第三十條 仲裁裁判ノ發達ヲ助クルノ目的ヲ以テ記名國ハ紛争國カ別段ノ規則ヲ協定セザル場合ニ於テ仲裁裁判手續ニ適用スベキ左ノ規則ヲ定ム

第三十一條 仲裁裁判ニ依頼スル諸國ハ其ノ紛争事件ノ趣旨并仲裁裁判官ノ權限ヲ明瞭ニ確定シタル特別條約(仲裁契約)ニ記名ス右條約ハ雙方ニ於テ誠實ニ仲裁宣告ニ服従スルノ約束ヲ包含ス

第三十二條 仲裁ノ職務ハ雙方ニ於テ隨意ニ指定シ若ハ本條約ニ依リテ設置シタル常設仲裁裁判所ノ裁判官中ヨリ雙方ノ選定シタル一名又ハ數名ノ仲裁者ニ委託スルコトヲ得

紛争國相互間ニ仲裁裁判所ノ構成ニ關シ直接ノ協定ナキ場合ニハ左記ノ方法ニ從フベキモノトス
雙方ニ於テ各二名ノ仲裁裁判官ヲ選定シ右仲裁裁判官ハ共同シテ

更ニ一名ノ上級仲裁裁判官ヲ選定ス

其ノ投票相半バシタル場合ニハ雙方ノ協議ヲ以テ指定シタル第三國ニ上級仲裁裁判官ノ選定ヲ委託ス

若右指定ニ關スル協議成立セザルトキハ雙方ニ於テ各々異リタル一國ヲ指定シ其ノ指定セラレタル兩國ノ協議ヲ以テ上級仲裁裁判官ヲ選定ス

第三十三條 君主其ノ他國ノ元首ニシテ仲裁者ニ選定セラレタルトキハ仲裁裁判手續ハ仲裁者自ラ之ヲ定ム

第三十四條 上級仲裁裁判官ハ當然裁判長タルベシ
仲裁裁判所ニ上級仲裁裁判官ナキトキハ裁判所自ラ其ノ裁判長ヲ指定ス

第三十五條 仲裁裁判官中死亡シ辭職シ又ハ原因ノ如何ニ拘ハラズ